

# 牧羊者

## 巻頭言

### 子どもに継がせる宝物

池田中央教会牧師  
鎌野 善三



「この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユナとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、わたしは確信している」(IIテモテ1:5)。

私は、牧師二世です。一世に比べると、救霊に対するハングリー精神が乏しいことを自分で感じます。でも主の憐れみと忍耐によって、この立場におかれているのだと、ただ感謝するのみです。

56歳になった今、自分のきた道をふりかえってみました。すると、幼い頃に家庭と教会で学んだことが、今までの自分の信仰の歩みを支えてきたことに気づきます。それは、テモテにおいてそうだったように、この私にとってもかけがえない宝物です。

教会学校では、「聖句暗唱」をよくさせられました。友だちと競争で覚えたことを思い出します。それが今でも頭に残っています。説教のときなど、関連した聖句が自然と口から出てくるのです。幼い時に記憶したことの価値を再認識しました。

神の言葉は宝物です。教会学校で、楽しんで聖句暗唱をしましょう。小学6年生の女の子が、詩篇119篇を全部覚えたという話を聞きました。すごいことです。暗唱大会をして、賞品などを出すなら、子どもたちは喜んで覚えるのではないのでしょうか。

「幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている」(3:15)。

中学高校時代、また大学になってからも、色んな誘惑がありました。そのたびに、神様は教会学校の先生、友人、また両親を通して働いてくださいました。中学校の教師は五十代の女の

先生でしたが、その語り口は今でも忘れることができません。高校生の時、学生会のみんなで行った山登りやバイブルキャンプは、心ときめかして女の子と話すチャンスでした。しかし、聖書のみ言葉があったからこそ、それらは純真なものでした。また、大学生のとき、父親から「学識よりも大切なものがある」と言われたことが、神学校への最終的決断となりました。

きよい生活は宝物です。中高生は、無限の未来をもっています。彼らが世の誘惑に負けず、まっすぐに主に従っていくように導きましょう。時にはやさしく、時には厳しく。

「あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして、きよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい」(2:22)。

神学校を卒業して27年間、伝道者として奉仕させていただきましたが、どれだけの人を主に導いたかという、顔が赤くなります。かえって、多くの人をつまずかせてきたかもしれせん。しかし、何ができなくても、あの人のため、この人のために祈ってきたことは事実です。どうしても信じようとしないう人々、誤解して教会を離れていった人もいます。でも、祈り続けています。

祈りは宝物です。教会学校で、家庭で、子どもたちが祈る機会を作りましょう。「祈ったらかれた」という経験は、子どもたちを霊的に成長させます。自分のためだけでなく、忙しいお父さんの健康のため、病気の友だちのため、牧師の働きのためにも祈るようになったら何とすばらしいことでしょう。

「わたしは、日夜、祈の中で、絶えずあなたのことを思い出しては、きよい良心をもって先祖以来つかえている神に感謝している」(1:3)。

## 目次

巻頭言	1
教師養成講座 新約聖書丸ごと早わかり (1)	3
支配者 《十月教案》	9
神のしもべ 《十一月教案》	29
クリスマス 《十二月教案》	45
牧羊ひろば (東京若枝教会)	61
おわりに	62

教師養成講座

新約聖書丸ごと早わかり (1)

工藤 弘雄

はじめに

「なぜ、山に登るのですか。」「そこに山があるからだ。」聖書の登山！ つきない魅力です。登山は、まず、山の全貌を見ることから始まります。新約聖書には27の山並みがそびえ立っています。まずはその全貌を見て、その一つ一つの山に挑戦します。「新約聖書丸ごと早わかり」の学びは、新約聖書を概観する学びです。新約聖書27書のそれぞれのテーマ、記者、書かれた時期や場所、その特徴、内容などを大づかみする学びです。聖書の著者は神様ご自身ですので、ここでは記者ということにします。

旧約聖書には、モーセ五書を含めて膨大な「歴史書」があります。続いて、ヨブ記、詩篇、箴言、雅歌書などの「詩歌」と呼ばれる「文学書」があります。最後に、イザヤ書以下の「預言書」が来ます。ですから、旧約聖書の三大区分は、歴史書と文学書と預言書ということになります。

新約聖書も同じように、四つの福音書と使徒行伝を「歴史書」、パウロの手紙などを「文学書」、そしてヨハネの黙示録を「預言書」と見れば、やはり、歴史書、文学書、預言書の区分になります。「新約聖書丸ごと早わかり」、まずは、四福音書と使徒行伝の「歴史書」から見ることにしましょう。

福音書を理解する

四人の福音書記者、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネが申し合わせをせず、見たとおり、知ったとおり、ありのままに同じことをそれぞれの視点で自分のことばで記します。マタイ、マルコ、ルカの福音書は共観福音書と言われています。共観とは「共に見る、総合的に見る」との意味。ヨハネ福音書では、共観福音書が主としてキリストの行動を描いているのに対し、キリストの講話、会話と祈りが主に述べられています。

なぜ四つの福音書があるのでしょうか。それは、一つや二つの福音書では、キリストの生涯を描くことはできません。福音書においては、キリストの四つの顕著な職務が描かれています。エゼキエルは、四つの生きものの形をした幻を見ました。前方に人の顔、右と左にししの顔と牛の顔、後方にわしの顔をもった生きものです。ししは支配する王、牛は労働する僕、人は慰めの人の子、わしは天がける神の子をあらわします。キリストは、マタイにおいては王、マルコにおいては僕、ルカにおいては人の子、ヨハネにおいては神の子として示されています。

マタイ福音書を理解する

1、記者マタイ

5、あらずし  
①王なる救い主の準備(1・1〜4・25)  
系図と誕生、博士たちの来訪、エジプトへの逃避、バプテスマのヨハネの宣教、主イエスの受洗と試練・誘惑、そして宣教の開始です。

②王なる救い主の王国の憲法(5・1〜7・29)  
さいわいなるかな、まされる義・隣人と神様への全き愛、そして厳かな二つの道です。

③王なる救い主の力(8・1〜9・38)

いやしの奇跡、弟子としての道、メシヤ(救い主)の権威、マタイの召命、断食問答などです。

④王なる救い主の活動の絶頂(10・1〜16・12)  
12使徒へのメッセージ、メシヤについての質問、天国のたとえ、バプテスマのヨハネの死、パンの奇跡と湖上の奇跡、主のお声、「心安かれ、我なり、恐るな」、「食卓から落ちるパンくずを」のカナンの女の信仰などです。

⑤王なる救い主の十字架への道(16・13〜20・34)  
ペテロの信仰告白と受難予告、変貌山の出来事、教会的説教、結婚についての教え、富と救い、盲人のいやしなどです。

⑥受難週の出来事(21・1〜25・46)

エルサレム入城と宮きよめ、指導者たちとの論争、エルサレム陥落と再臨についての預言、世のさばきについてのたとえなどです。

⑦王なる救い主の十字架(26・1〜27・66)

ユダの裏切りと主イエスの逮捕、裁判と十字架処刑、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ！」マタイは十字架上の7言中、この1言(第4言)のみを

記します。この驚愕の事実がなければ人類の救いはありません。小島伊助先生はこれをマタイ福音書の金言としました。

⑧王なる救い主の復活(28・1〜29)

復活の日の出来事と復活後の顕現。そして、世界宣教命令。見よ、世の終わりまで共にいる！本書はインマヌエルなるお方の降誕で始まり、インマヌエルなるお方の永遠の臨在で終わります。

マルコ福音書を理解する

福音書の中でも最短(全16章)。本書により主イエスの行動を端的に把握することが可能です。

1、記者マルコ

記者マルコの別名は、ヨハネ(使徒12・12)。パウロらの第一回伝道旅行中、途中から引き返してエルサレムへ(使徒13・13)。しかし後、彼はパウロにとつて大いに役立つ者に(Ⅱテモテ4・11)。彼の母の家の2階座敷は弟子たちが集まり祈る場所(使徒12・12)。彼は早くから福音に接し、特にペテロとは親しい関係にあり、ペテロを通して回心したと思われまふ。ペテロは愛情を込めて「わたしの子」と彼のことを呼んでいます(Ⅰペテロ5・13)。

2、書かれた時

ペテロの生きていた時であれば、紀元60年頃。ペテロの死後であれば、紀元68年頃。

3、書かれた場所

伝統的には、ローマにおいて。

4、書かれた目的と主題

10章45節に本書の目的が明示。「人の子がきたの

12使徒のひとり。別名をレビ。マタイは主イエスによって与えられた名前。その意味は「神様の賜物」。マタイ自身、本名のレビを使用せずこの名前を大切にします。かつては罪人呼ばわりされていた取税人。弟子団の中では会計係が適役だったでしょうが、実際は書記役。彼により主イエスの説教が克明に記されています。

2、書かれた時と場所

エルサレム陥落は紀元70年。主イエスはここを預言されているのでそれ以前に書かれたことは確かです。50〜60年ごろに書かれたでしょう。場所はパレスチナのどこかです。

3、主題

「王なる救い主(メシヤ)の活動」。

4、ここが特色、ここも見どころ

①他の福音書では「神の国」。マタイは「天国、天の御国」という表現。しかも33回も。これは「神の国」を意味するユダヤ的表現です。

②「これらの言葉を語り終えると…」という5大説教とそれに続く活動の記述パターン。王なるイエスの「ことばとわざ」に注目を。例えば「…と言った…すると…」(8・3、13、26、32)を見よ。山上の説教も同様、「あなたの敵を愛せよ」と主が言われたら、そうなるのです。山上の説教で主と向き合い、主が語られるとそうなるとは！  
③王なるイエスの五大説教。5〜7章は「山上の説教」。10章は「使徒派遣の説教」。13章は「七つのたとえの説教」。18章は「教会的説教」。24〜25章は「終末の説教」。

も、仕えられるためではなく、仕えるためであり、「…」。一般の人々は、ユダヤ人の持つている旧約聖書の知識に乏しい。旧約の預言成就というマタイ的視点でなく、イエスという人の生涯を平明に書いた物語を知りたいとは異邦人一般の願い。マルコはそれに答えています。主題は「謙遜で完全な僕としてのイエス」。

5、ここが特色、ここも見どころ

①冒頭は「イエス・キリストの福音」。福音書全体に「福音」ということは12回使われているが、そのうち8回もマルコが用いています。

②特筆すべきは、ギリシャ語の「ユーセオス」の多発。「すぐに」、「ただちに」と訳されることば。少なくとも40回以上使用。休みや中断のない、僕イエスの行動がキビキビと描かれています。また、少々「せっかち」なペテロの性格も反映しているでしょう。

③簡潔な筆致。他の福音書よりも短く、先へ先へと手際よく筆が進められています。

6、あらずし

①僕なるキリストの準備(1・1〜3・6)  
表題、先駆者ヨハネの準備、伝道活動の開始、学者たちとの論争などです。

②僕なるキリストの伝道の最盛期(3・7〜8・30)  
たとえによる教え、多くの奇跡、ガリラヤ湖周辺での食する間もないほどの精力的な活動などです。

③僕なるキリストの十字架への道(8・31〜10・52)  
1回、2回、3回と苦難予告が続きます。

④僕なるキリストのエルサレムでの活動(11・1〜





4、これが特色、ここも見どころ

① 深遠な福音書

高い格調で、信じる者を主イエスとの深く聖い交わりに入れるため記されました。

② ヨハネ福音書に除外されているもの

系図なし。イエスは神様と共にあられ、神様であられたからです。誕生の記事もなし。イエスは「初めから」おられたからです。少年時代、誘惑、変貌、昇天の記事もなし。初めから神の子は、我らと共におられる神様だからでした。

③ イエス・キリストが神の子であると証言した「七人の証人」。第1にバプテスマのヨハネ。「このお方が神の子である」(1・34)。第2にナタナエル。「あなたは神の子です」(1・49)。第3にペテロ。「あなたはキリスト、生ける神の子です」(6・69)。第4にマルタ。「あなたは…神の子キリストです」(11・27)。第5にトマス。「わが主、わが神」(20・28)。第6にヨハネ自身。「イエスが神の子キリストである」(20・31)。最後にキリストご自身。「わたしは神の子である」(10・36)。

④ イエス・キリストが神の子であることをあかしする「七つの奇跡」。この奇跡をヨハネは「しるし」と言います。第1に水をぶどう酒に(2・11・11)。第2に役人の子のいやし(4・46・54)。第3にベテスタの男のいやし(5・1・9)。第4に5千人の給食(6・1・14)。第5に水の上を歩かれる(6・15・21)。第6に盲人のいやし(9・1・14)。最後にラザロの復活(11・1・57)。

⑤ イエス・キリストが神の子であることを宣言する

③ 宣教に対する指導書 疑いなく、使徒行伝は、宣教に対する最善の指導書です。宣教の主題は主イエス・キリスト、宣教の手段は神の言葉、宣教の動力は聖霊、宣教の器は神の人だったのです。④ 使徒行伝に一章を加えよ。使徒行伝はローマでのパウロの活動でブツリ切れています。実は、聖霊の働きは終わっていません。ですから今、私たちが「使徒行伝に一章を加えましょう」。

5、あらずし

使徒行伝は、鍵の言葉1章8節を軸に展開されます。まずは、エルサレムにおける宣教、次にユダとサマリヤ全土における宣教、そして地の果てまでの宣教です。

① エルサレムにおける宣教(1・1・8・3)

準備期間、ペンテコステにおける聖霊降臨、初代教会誕生、いやしの奇跡、迫害、逮捕、アナニヤとサツピラの罪とさばき、7人の執事の選出、ステパノの殉教などです。

② ユダヤとサマリヤ全土における宣教(8・4・12・25)

ピリポの宣教、福音はサマリヤへ、エチオピアの宦官の個人伝道、パウロの回心、ペテロの宣教、コルネリオの回心、アンテオケ教会の設立など。

③ 地の果てまでの宣教(13・1・28・31)  
パウロの第1回伝道旅行、「聖霊に送り出され…」、キプロス、ピシディアのアンテオケ、イコニオム、ルステラ、デルベ伝道からエルサレム会議。パウロの第2回伝道旅行、ピリピ、テサロニケからアテネへ、コリント、帰途へ。パウロの第3回伝道

「七つの『わたしは…』」。第1に、わたしはいのちのパンである(6・35)。第2に、わたしは世の光である(8・12)。第3に、アブラハムが生まれる以前からわたしはいるのである(8・58)。第4に、わたしは、良い牧者である(10・11)。第5に、わたしは、よみがえりであり、いのちである(11・25)。第6に、わたしは、道であり、真理であり、命である(14・6)。最後に、わたしは、まことのぶどうの木である(15・1)。七は完全数、完璧な証言。

5、あらずし

① 序言(1・1・18)

② 神の子イエスの初期の伝道(1・19・4・54)

共観福音書の記すガリラヤ伝道以前のもの。ここにニコデモやサマリヤの女への個人伝道があったのです。早くも十字架「荒野の蛇」の啓示です。

③ 神の子イエスの伝道の最盛期(5・1・12・50)  
いやし、講話、奇跡、論争、赦し、復活、陰謀、香油注ぎ、エルサレム入城などです。

④ 神の子イエスの告別説教(13・1・16・33)

洗足、告別予告、「もう一人の助け主」聖霊についての教え、ぶどうの木の講話、励ましなど。

⑤ 神の子イエスの深遠な祈り(17・1・26)

⑥ 神の子イエスの十字架(18・1・19・42)  
逮捕、大祭司と総督の前での六回にも及ぶ裁判、十字架、埋葬などです。

⑦ 神の子イエスの復活(20・1・29)

空虚な墓、エルサレムでの顕現、ガリラヤでの顕現、ペテロとの問答などです。

旅行、エペソ、マケドニア伝道、エルサレムへ。パウロの逮捕、ローマへの旅。

6、恵みの落ち穂拾い

① 使徒行伝で三つの大切なこと。第1に、神の霊、第2に、神の言葉、第3に、神の人。私たちの伝道においてもこの三つのことが一番大切です(バックストン)。

② 聖霊によりて。復活・栄光のキリストにおいてなお、「聖霊によりて」のご存在。主イエスはご自身の弟子たちにも「聖霊によりて」の存在になって欲しいと願われる。聖霊さえ臨まればだれでもキリストの証人に。万事聖霊、万事祈禱！

③ 聖霊に満たされるために。第1に、切なる渴き、祈り(1・14)。第2に、真実な悔改め(2・38)。第3に、神様への明け渡しと服従(5・38)。第4に、主ご自身とあがないのみわざを「信じる」(15・8、9)。

④ 「金銀は我になし」という時代はもはや終わった」と中世教会の絶頂期を誇る法王インノケンティウスⅢ世に、「しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩け」との時代も終わった」とトマス・アクイナス。

⑤ 嵐後快晴。教会に嵐が。しかし必ず快晴となる。4章で、迫害の嵐。その後、熱禱の結果、聖霊の注ぎの大快晴。5章で聖霊をあざむく罪と裁きという嵐。その後、しるしと奇跡の大快晴。6章で教会内の苦情・対立という嵐。その後、7人の執事が選出の大快晴。

⑥ ちよっと聖書川柳。1章「へたばってひたすら待つ天からの火」。「くじ引きで使徒選ぴとはち

使徒行伝を理解する

ルカ福音書では、キリストが「行い始め」られたこと、使徒行伝では、主が聖霊によって「行い続け」られたことが書かれています。使徒行伝は使徒たちを通して働かれた聖霊行伝と言えます。

1、記者ルカ

本書の冒頭のことばからして、本書とルカの福音書の記者が同一人物であることは明らかです。2、書かれた時と場所

執筆年代は、パウロがローマに到着してから2年後と見るのが妥当。紀元61年頃か。

3、本書の重要性和主題

福音書と使徒たちの手紙をつなぐもの。初代教会の歴史を知る上で重要な資料。初代教会の成立、礼拝、伝道、海外宣教の状況などが知られます。主題は文句無く1章8節。「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであらう」。これを軸に使徒行伝は展開します。

4、これが特色、ここも見どころ

① 福音書と使徒行伝 福音書は、われわれの罪のために死ぬために来られた人の子を示し、使徒行伝は、聖霊の力によって来られた神の子を示しています。② 使徒行伝の区分 使徒行伝は二区分されます。1章から12章までは、ペテロを中心とした記述。13章から28章までは、パウロを中心とした記述。彼らのメッセージの中心は、「神に対する悔い改めと主イエスに対する信仰」(20・21)でした。

よつとマツテヤ。2章「血、火、煙、新時代は開けたり」。「聖霊に酔えるはヨエルの預言なり」。3章「わがうちにあると言えてぞ伝道者」。4章「恐れなきガリラヤ人を恐れたり」。5章「ああ、震撼、み霊をあざむき打たれたり」。「ア、ナニヤ、偽善欺き、サツピラごめん」。6章「呼ばれたし、信仰・恵みに満ちた人」。あとは、皆さんで…。

⑦ 二つの「さあ」。聖霊が「さあ、…」と呼びかけられ、第1次伝道旅行へ(13・2)。人間(パウロ)が「さあ、…」と呼びかけ(15・36)、激論、二グループに分裂。御霊の軌道修正の後、福音はヨーロッパへ。今日、牧師が役員か誰かが「さあ、…」と呼びかけるか、聖霊が「さあ、…」と呼びかけられるか。わが霊によるなり！

⑧ 使徒行伝に見る宣教における聖霊の働き まず、宣教の大命令には二重性があります。「出て行け」(マルコ16・15、マタイ28・19)と「離れるな、留まれ」(1・4)。そして「聖霊に満たされ、御霊がまま」の存在に(2・4)。「御霊の導かれるまま」の宣教を見てください。「御霊がピリポに…行きなさい」(8・29)。「御霊が言った、『…さあ、立つて下に降り、ためらわないで、彼らと一緒に出かけるがよい』」(10・19、20)。こうして異邦人への宣教の門戸は開かれました。第一回伝道旅行へも聖霊が「さあ…」(13・2、4)と呼びかけられ、エルサレム会議も「聖霊とわたしたち」(15・28)でなされ、海外宣教も聖霊の軌道修正(16・6、7)によりなされたのです。聖霊に満たされ、導かれ、21世紀の宣教のみわざを願わされます。



## 聖書 マルコ4・35～41 テーマ 嵐を静める

### 序論

(鎌野)

今週から4週間は、マルコ福音書を通して、主イエスが支配者であることを学ぶ。主は、自然界・悪霊・病・死を従わせる権威をもたれるお方なのだ。舞台となっているのは、ガリラヤ湖畔。今日の記事は、ある日の夕方、主が弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われたところから始まる。5・1から推測すると、北岸のカペナウムから東岸のゲラサへ行こうとされたのだろう。両者の直線距離は10キロメートルほどで、順調にいけば舟で2時間もあれば着ける所である。聖書地図で位置を正確に把握しておいていただきたい。

### 一、あわてる弟子たち

ガリラヤ湖の東岸と西岸は高地になっているので、しばしば南北方向に激しい突風がおり、高い波が生じることがあった(日本によくある強烈な雨を伴う嵐ではない)。その結果、八波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。弟子たちはあわてた。転覆しないよう、必死に水をかい出そうとしたことだろう。もしこの時に太陽が沈んでいたとするなら、夕闇の中で弟子たちが経験した恐怖感は相当のものだったと思われる。私たちの生涯にも、このような危機的な時が突然起こることがある。病気や事故、経済的問題、人間関係の不和など、また子どもたちにとっても、いじめ、成績、けが、両親の不和など、自分では

どうしようもない事柄に直面する場合があるだろう。そんなとき、冷静さを失い、あわててしまうのが正直なところである。私たちも、この時の弟子たちと大差ない。

### 二、眠っている主イエス

しかし主イエスは、八舳の方でまくらをして、眠っておられた。激しい揺れによっても目を覚まされなかったのは、相当疲れておられたからだろうか。あるいは弟子たちを教えるためだったのだろうか。△そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。△「大変なこの時に、いつまで寝ているの」と叱る親のような口調である。「先生」とは言っているものの、失礼な言葉づかいだ。パニック状態になっていたのだから、仕方がなかったのかもしれない。

現在の私たちを考えてみよう。困難な問題に直面するとき、「主よ、私がこれほど苦しんでいるのに、あなたは何も助けようと思わない。私が死んでもおかまいにならないのですか」と言ったことがなかったか。「主は私と共におられたとしても、私の悩みに無関心で眠っておられる」と思ったことはどうか。たといクリスマスチャンであっても、そういう状態になることはあるだろう。

### 三、風と海をしかる主イエス

弟子たちに叱られたとも思える主イエスだが、決して腹をたてず、かえって△起きあがって風をしかり、海にむかつて「静まれ、黙れ」と△命じ

られた。主は弟子たちと共に舟の中におられ、彼らの状態を熟知しておられた。そして、絶体絶命と思われるその時に、風と海を従わせる権威を示されたのである。主はすでに1・25で、けがれた霊をしかり、「黙れ」と命じられていたが、同じことを風と海に対してなされたと言える。

嵐が静まった後、主は弟子たちに、△なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか△と言われた。弟子たちを「しかつた」のではない。主は、ご自分が単なる△先生△ではなく、自然界の支配者であることを弟子たちに教えようとなさつたのである。旧約聖書は、神が「海を静め」(ヨブ26・12)、「紅海をしかつて、それをかわかし」た(詩篇106・9)方であることを証言している。そのお方が、弟子たちの目前におられるのだ。だが弟子たちは、△いったい、この方はだれだろう△と言うだけだった。彼らにはまだ、主イエスが神ご自身であることを認める信仰がなかった。

### 結論

私たちの人生にも嵐はある。様々な問題にもてあそばれ、生きる気力さえ失う場合もある。いくら祈り、叫び求めても、主は眠っておられるとしか思えないような経験をすることもあるだろう。しかし、主はあなたを見捨ててはおられない。あなたと共におられ、あなたと同じ苦しみを味わっておられる。そして最善の時に、困難をしかつてくださる。「イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」(詩篇121・4) お方なので、この信仰を強く持ち続けよう。

## 研究資料

(石田)

今月はマルコによる福音書を通して、主イエスが神の国の支配者であることを学ぶことになっている。そもそも主イエスの中心メッセージの一つは「神の国は近づいた」(1・15)ということである。これは神の恵みによる支配が、主イエスの説教(み言葉)と奇跡(みわざ)によって明らかにされたことを意味している。主が語られ、みわざをなすときに、神のご支配が力をあらわし、そこに居合わせた人々に疑いのような形で臨んだ(もつとも神のご支配は究極的に十字架の道によって決定的となる)。このようにして「神の国は近づいた」ことが証明されたのだから、主は人々に「悔い改めて福音(主ご自身でもある)を信ぜよ」と言われたのであるが、これは理にならなっており、信じない場合には、その責任が生じる。

今週から4回シリーズで学ぶことは、主が自然界、悪霊、病気、死に対する支配者であること。ここまでに至る4章の大半は、神の国の譬えであるが、ここからは神の国の実際であり、実物教訓である。今週のテキストでは、主が嵐を静める出来事によって、自然界の支配者であることが明らかにされる。マタイ、ルカの並行箇所と比べて、マルコの描写は詳しく、直接的で、生々しい。

### テキスト

35 向こう岸へ渡ろう ガリラヤ湖を西から東に渡ることになる。船出することは主イエスの発案であるから、弟子たちは安心して従ったはずである。

36 イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した 主イエスはこれから起きる嵐をご存知の上で、弟子たちを率いて船出した。

37 すると、激しい突風が起り これは普通に起きる突風とは桁の違うもの。そのことはガリラヤ湖を知り尽くした漁師上りの弟子たちがパニックに陥っていることからわかる。これはまた主イエスに従っていったからといって、順風満帆ではないことのよい例である。むしろこの場合は弟子たちの信仰を試すためであることをうかがわせるふしがある。

38 舳の方でまくらをして 船尾の舵取りの席にある皮のあて物を枕にしたと思われる。この詳しい記述はマルコだけにある。眠っておられた(カスードー) 肉体の疲れを覚えて熟睡しておられたという意味であり、眠っているふりをしておられたわけではない。連日連夜の働きのため、肉体の疲れを覚えられたのであろう。この事実、主イエスがまぎれもない人間であられたことを示している。また、プロの漁師である弟子たちが慌てふためく嵐にもかかわらず、主イエスが眠っておられたというのは、40節の言葉からもわかるように神への信仰によって全き平安が与えられていたことがうかがえる。そこで、弟子たちはイエスをおこして 次の言葉と考え合わせても、弟子たちの慌てふためく姿がほうふつとしてくるが、とにかくにも彼らは主イエスに「一縷の望みを託していたと言えなくもない。おぼれ死んでも(アポリューミ) 原意は「滅びる」。弟子たちは「わたしもが滅びてもかまわないのですか」と主イエスに詰

め寄っている。主イエスに従ってきたのに、どうして死にそうな目にあわなければならぬのかという不条理を訴える響きがある。気が動転しているとはいえ、かなりぶしつけな言い方である。並行箇所のマタイやルカにはない。

39 風をしかり(エビディマオー) 非常に強い叱責の言葉である。主は自然界を支配する神の子として、その権威を発動された。主イエスは創造主としての神である。ほかに悪霊に対して(3・12、9・25)、熱病に対して(ルカ4・39) 叱つておられる。「静まれ、黙れ」(シオーバ、ペフィモーソ) 親が子どもを叱りつけるときの表現そのもの。風はやんで、大なぎになった この事実、主イエスがまさしく神の子であられたことを示している。

40 なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか 恐れと信仰は相いれない。主イエスが自然界の主であり、創造主なる神であり、この船出を率いた方であることをしっかりと覚えていれば、これほどこわがることはなかった。

41 彼らは恐れおのいて(エフォベースーサン、フオボン・メガレ) 直訳すると「大きな恐怖に恐れて」となる。嵐を恐れたことではなく、否定できない神の力の現れたことに、畏怖したためである。いったい、この方はだれだろう 風や波を静めることのできる方は、弟子たちにとって神しかいなかった。主イエスが神の子であることを彼らはすぐに受け入れることはできなかった。【参考文献】『マルコの福音書』(ティンデル聖書注解、ウエスレアン聖書注解、実用聖書注解など)。

聖書 マルコ4・35〜41  
タイトル この方はだれだろう  
暗唱聖句 海におかたて、「静まれ、黙れ」と  
言われると、風はやんで、大なぎ  
になった。 マルコ4・39  
目標 自然界をも支配されるイエス様を  
仰ぐ。

導入 (小野)

天高く、空が青く美しい秋を迎えました。雲一つないきれいな、まっ青な空を見つめていると、どこまでつづくんだろう、宇宙って広いんだなあと、心まで大きく広くなりそうですね。何十年も前にアポロ計画で月に行った宇宙飛行士のひとりが次のように言ったそうです。「宇宙にはすべてを超えた『力』がある。始まりも、終わりもない。ただ、すばらしい世界をつくった『意志』があるだけなんだ」と。この7月にスペースシャトル・デイスカバリー(発見)が打ち上げられましたが、それに乗っていた野口聡一さんたちも、宇宙の「力」を感じたのでしょうか? この「力」とは、実はその宇宙を造られた唯一まことの神様の力であり、お心なのですね。

あるロボット製作室でのできごとです。完成して、調子よく動いていたロボットが、急にさわがしく、ピーピー、キーキー音を出しはじめました。うるさくて、まわりの人が止めようとするのですが、さっぱりだめです。そこへ一人の研究員がやってきて、チョツとさわるとすぐにロボットは静かになりました。「へえ、君、大したもんだね」「イ

ヤー、うるさくてすみませんでした。私が作ったものですから、すぐ治まったんですよ。なるほどですね。人はロボットや機械はなおせるでしょう。宇宙を飛び、月へも行けます。でも宇宙の法則どおりにするので、そうできるのです。どんなに頭のいい科学者でも、「雨よ降れ!」って叫んでもきつとだめでしょう。私たちだって「雨よ、やめ! 風よ、行つてしまえ!」と叫んでも、むりでしょうね。この宇宙、大自然すべてを造り、今も支配しておられるお方はいつたいていでしょう?

こわがる弟子たち

「向こう岸へ渡ろう」とイエス様に言われて、弟子たちはイエス様が船に乗っておられるまま、ガリラヤ湖を西北のカペナウムから東のゲラサに渡ろうとしました。すると突風がおこり、それはふつうのものとはちがってかなり激しいもので、たので、水が舟の中に打ち込んできて、大変! 波が舟に満ちてしまふぞ! と、さすがの漁師の弟子たちも、まっ青、パニック、パニックになって、こわがるばかりでした。いつもガリラヤ湖で漁をして、ガリラヤ湖のことはよく知っていたはずの弟子たちが、これほどにもパニックになって、こわがっているのですから、相当の嵐だったんですね。ふと、こんな時、イエス様はどうしておられるのかな、と舟のはしの方を見ると、なあと、ぐっすり、安らかに眠っておられるではありませんか!

支配者イエス

「えーっ! イエス様、こんな中でぐっすり寝ておられるんですか。起きてください! 私たちがおぼれ死んでもいいんですか!」と、弟子たちはパニック状態で、イエス様を起こしました。イエス

様はゆっくり起き上がられると、風をしっかりと

た。次に海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われました。すると、どうでしょう!? あれほど吹きまわっていた風がピタリとやんでしまったのです。あれほど波が荒れ狂い、舟に満ちてきそうになっていた海も、大なぎ、つまり、シーンと静かにおさまってしまったのです。イエス様は弟子たちに言われました。「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」と。そう言われても弟子たちはただ、あまりのすごさに、恐れおののくばかりです。こんなにして自然界さえ支配できるお方は神しくないはず、この方は、神なのか? 神の子なのか? 「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。

そうなのです。イエス様は神の子だから、自然界をも支配される力をお持ちでした。弟子たちにはまだ、イエス様が神の子だということがハッキリとは信じられていなかったもので、「いったい、この方はだれだろう」と互に顔を見合わせながら言う他なかったのですね。

今日、私たちはどうですか? 私たちはハッキリと、「この方は神の子のイエス様ですよ。自然界、大宇宙を造られて、今もそれらのすべてを支配していただく神様ですよ」と言うことができます。毎日々毎日すこしていく中で、私たちの心もあの時のガリラヤ湖のように風が吹いたり、波が高くなったりすることがあるでしょう。気に入らないことや、腹が立つことや、泣きたい時「神様、私の心の嵐も『静まれ!』と言って穏やかにしてください。イエス様のみ名によって、アーメン」と祈りましょう。

ヨハ・ハ・ハレルヤ♪ (ノアVol・2・36番)

ワーク A

●話し方のヒント

皆さんが「雨よ、風よ止め」とお天気に命じても、天気予報のおじさんが命じても、決してお天気は変わりません。しかしイエス様は、海や空、雨や風、全てのものを造られた神様なので、「静まれ、黙れ」と命じられると、湖の大変な風と波が静かになりました。私たちの心もイエス様によって造られました。腹が立ったり、泣きたくなったり、どんな大変なときでも、イエス様を信じて祈るなら、イエス様が穏やかな心になってくださいます。

●ワークについて

イエス様が、風と海に向かって言われた言葉を書きましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 ガリラヤ湖のことを良く知っていたはずの弟子たちですが、嵐が起きると信仰を失い、パニックになりました。しかし、すべてをご存知であられるイエス様は安らかに眠っておられ、その後、ゆっくり起きあがると風や海をしっかりと、静められました。イエス様は風や海を従わせる権威を持つておられるのです。

●質問3 宇宙や大自然を造り、支配され、嵐をも静めて下さったイエス様は、私たちの心の嵐も静めてくださるお方です。そのことを知り、信じましょう。

ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。まずは暗唱し(3回くらい)その後書き入れます。

●第2問 聖書を1節ずつ輪読します。時にはイエス様の役、弟子たちの役、ナレーターなどに分かれて読むのも楽しいと思います。

②子どもたちの考えを良く聞いてあげてください。【解答例】死んだらどうしようかと怖かった。なぜイエス様が助けてくださらないのか不満。パニックになって何がなんだかわからない。

④風も海もイエス様の命令に従った。つまり、イエス様は自然界のすべてを支配しておられる神様だということ。

●第3問 メッセージの結論に「気に入らないこと、腹が立つこと、泣きたい時」など、適用例があります。家族の問題、友だちとの関係など子どもたちがイエス様を信じて、より頼むことができるように、一緒に祈りましょう。

ワーク D

●自然界を支配される神様とは、私たちの生命にとつて重要なのですが、自然界を日常的なことでして、当たり前のように思い、ピンとこないかも知れません。2に高波に襲われる具体例を挙げて質問していますので、それを通して恐怖心や感情を体験してみます。

●4の「あなたの祈り」は、整った言葉ではなく、その時の自分の感情や叫びを表すことのほうが、真実な祈りに近くなると思います。

中高校へのヒント

●話し合ってみよう

1 天体や自然を観察することは好きですか。それが宇宙、物質、生命を造ったのでしょうか。偶然でしょうか。↓神様の創造。

2 聖書は、宇宙や自然のすばらしさと、天地万物を創造し、支配しておられる神様を教えてください(詩編8、19篇、使徒17・24)。

●考えてみよう

1 主イエス様は、荒れ狂うガリラヤ湖での嵐の最中に船の中で眠っていました。怖くなかったのでしょうか。↓主イエス様は天地万物の創造主です。ご自分が創造された自然を支配しておられるから、安心して眠っておられた。

2 主イエス様は、嵐になることをご存じで、弟子たちを船に乗せたのでしょうか。↓主イエス様が天地万物を創造し、自然を支配される神様であることを弟子たちに示すために。

●自分に当てはめてみよう。

1 弟子たちは嵐の中でおぼれて、死にそうになった時に、主イエス様をおこしました。あなたは自分ではどうすることもできない時にどうしますか。↓自分の力で何とかする。あきらめる。主イエス様に寄り頼む。

2 自然界の嵐だけではなく、人生の嵐(病気、事故、失望、苦難、死など)に襲われる時があります。主イエス様は嵐を静めることのできる神様です。





## 聖書 マルコ5・1～20 テーマ 悪霊を追い出す

### 序論

(鎌野)

今週は、主イエスが悪霊をも支配しておられることを学ぼう。マルコは、主が悪霊あるいはけがれた霊にまさる権威をもたれる方であることを、すでに5度も記録している(1・23～27、34、3・11、15、22～30)。ここではその意義がさらに深められ、悪霊につかれた人の悲惨な生涯が、主によって全く変えられたことが述べられる。悪霊は、人間をコントロールできたとしても、主イエスに立ち向かうことは決してできないのだ。

### 一、悪霊のすること

△ゲラサ人の地△がどこかについては諸説があるが、文脈から考えるとガリラヤ湖に面したところであることは確かだ(新改訳聖書巻末の地図ではゲルゲサとなっている)。主の一行がここに着いたのは、夜も深まった頃か、あるいは早朝だったのか。するとすぐに、△けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った△。彼は凶暴な性格ゆえに人々と共に生活ができず、町の外の墓場で足かせや鎖につながれていたのである。彼は人を傷つけるのみか、自分をも傷つけていた。自分で自分をコントロールできない、悲惨きわまる生涯をすごしていたのだ。これこそ、悪霊のすることにはかならない。

現代でも、悪霊は人間をコントロールしている。いわゆる中毒症状(アルコール、薬物、ギャンブル、異常性行動、万引き等)は、自分で自分をコントロールできない人間の姿である。すべてが悪霊のゆえとは決して言えないが、悪霊の働きを全く無視することもできない。悪霊は人間を誘惑し、その人を駄目にしようとしているからだ。

### 二、悪霊のできないこと

主イエスは、遠くにいた彼を見つけ、△けがれた霊よ、この人から出て行け△と命じられた。そこで彼は、△走り寄って拝し、大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、どうぞ、わたしを苦しめないでください」△。悪霊は、主の命令を拒むことはできなかった。かえって主のもとにきて礼拝せざるを得なかったのである。主は悪霊を支配する権威をもたれていることが、はっきりとわかるだろう。

さらに主が△なんとという名前か△と尋ねられたとき、悪霊は△レギオンと言います△と白状せざるを得なかった(レギオンについては研究資料を参照)。自分の正体を暴露したのだ。また、自分の行く先についても、△豚にはいらせてください△と、主に許可を得なければならなかった。悪霊が主イエスに逆らえないことは明白だ。

悪霊の力を過小評価してはならないが、また過大評価してもならない。「霊の戦い」があることは事実だが、悪霊を恐れてびくびくする必要はない。私たちが主イエスとともにいる限り、悪霊は何をすることもできないからだ。たとえば、悪霊につかれた人であっても、主イエスの言葉によって、その悪霊から全く解放されるのである。

### 三、悪霊から解放された人

悪霊から解放された人は、△着物を着て、正気になってすわって△いた。あの悲惨な生活から救い出されたのである。しかし、豚を飼う者たちは、町から人々を呼び集めて、△イエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた△。彼らにとっては、一人の人が救われたことよりも、2千匹の豚を失ったことのほうがはるかに大きな事件だったからだ。主は、このような結果になることを知っておられただろう。しかし、一人の人の価値は、2千匹の豚よりはるかに貴いものだった。彼の命は、地球よりも重いのである。

出て行ってくれと言う人々と対照的に、この人は△お供をしたいと願ひ出た△。過去の生活と決別し、主と一緒に新しい生活を始めたいと思ったからだろう。だが主は、△家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、：：：知らせなさい△と言われた。十二弟子とは違う方法で、主のために働く道があることを示されたのである。彼は主の言葉に従い、△自分にイエスがしてくださったことを、ことごとく：：：言いひろめ出した△。悪霊から解放された人は、主イエスのために大きな働きをすることができる。

### 結論

主イエスは自然界を支配されているだけでなく、霊の世界をも支配されている。現代も悪霊の働きは著しいが、決して恐れてはならない。悪霊は主に太刀打ちできないゆえ、大胆に主イエスを宣べ伝えよう。人は確かに変えられるのである。

## 研究資料

(石田)

今月はマルコによる福音書を通して、主イエスが神の国の支配者であることを学ぶことになっている。先週は主が自然界の支配者であることを学んだが、今週は主が霊の世界の支配者であり、特に悪霊を支配してこれを追い出す権威のある方であることを学ぶ(このことについてはマタイ4・24、8・16、9・32、12・22、15・22も参照)。

### テキスト

1 海の向こう岸、ゲラサ人の地 主のひとで荒れ狂う風と波が一瞬にして静まった。弟子たちがその奇跡に目を丸くしているあいだに、一行を乗せた舟はガリラヤ湖の対岸に到着した。おそらく未明か朝方のことであろう。ゲラサ人の地は、ガリラヤ湖南東の地域を指しており、デカポリス(十の都市)というギリシャ人の古い植民地でもあった。異教、異邦人の地である。

2 けがれた霊につかれた人 マタイでは二人となつていますが、マルコではそのうちの目立つほうの人を取り上げたと考えられる。イエスが舟からあがられるとすぐに：：：出てきて、イエスに出会ったけがれた霊はイエスが来たのを察知し、対決するために出てきた。

3～5 「けがれた霊につかれた人」の異常な生活ぶりが詳しく記されている。彼はその凶暴さで住民を震えあがらせ、誰も彼を取り押さえることはできなかった。しかも自分の体を石で傷つけるほど悪霊どもに支配されていた。

3 墓場をすみかとしており 凶暴さのゆえに集落から隔離され、雨風をしのげる横穴式の墓場を住まいとしていた。

7 いと高き神の子イエスよ 悪霊はイエスが神の子であることをすぐに悟った。だからといって彼がイエスを神の子と信じたのではなく、不本意ながらもその事実を認めざるを得なかったに過ぎない(ほかに3・11、マタイ8・29、ルカ4・41、使徒19・15)。「悪霊どもでさえ、信じておののいている」ともある(ヤコブ2・19)。わたしを苦しめないでください 悪霊はとりついているこの男から追放しないでほしいと懇願している。あきらかに追い出されることを恐れており、彼は最後には火と硫黄の池に投げ込まれることを知っている。これは8節の主イエスの言葉によって引き出された願いである。

8 けがれた霊よ、この人から出て行け 主は悪霊を支配し、これを追い出す権威を持つておられ、ここではそれを行使された。また、悪霊にはこの人を支配する権限のないことを宣言されたとも言える。

9 なんとという名前か 名前はその人の性質をあらわすと考えられていたので、主がこの人に名前を聞いたのは、彼の必要を周りの人々に明らかにし、彼に恐ろしい状態にあることを気づかせるためであろう。レギオンと言います。大ぜいなのですからレギオンとはローマの軍団の呼び名で、新約時代は6千人ほどであったと言われるが、ここでは単に大ぜいいることを意味している。

13 イエスがお許しになった 悪霊どもが豚の中に入るのを主が許されたのは、豚を飼う者たちに悪

霊の追い出されたことを目で見るようにして確信させるためであろう。しかも悪霊どもが二千匹もの豚に入り込み、なおかつがけから海に自分から落ちて溺れ死ぬという、あまりに劇的な出来事であった。これによってけがれた霊につかれた人の鮮やかな解放が私たちに印象づけられる。

15 悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており 主イエスの権威によって、この人が完全に悪霊から解放された明確な証拠。見て、恐れた人々はあまりに鮮やかな奇跡を目の当たりにしても受け止められず、神のみ名をあがめるのではなく、ただ恐れにかられている。

17 この地方から出て行っていただきたい こう願ったのは、二千匹もの豚を失った今、これ以上豚を失いたくないという理由から。彼らは一人のあわれな人がおびただしい悪霊から解放されたことを喜ぶのではなく、おびただしい豚を失うほうを恐れた。悲しむべき霊的無関心である。

18 悪霊につかれていた人がお供をしたいと願ひ出た 彼は主の弟子となつて付いて行きたいと願った。悪霊から解放され、救われたさらなる証拠である。

19 イエスはお許しにならないで この事件で出て行くように言われたので、この地方で主と弟子たちが宣教することは難しくなった。そこで悪霊につかれていた人に神のあわれみのわざを証しするように命じた。彼は忠実にまた喜んで従った。参考文献 『マルコの福音書』(ティンデル聖書注解)、『新約聖書注解』(マクドナルド)、『マルコ福音書』(バークレー) など。



聖書 マルコ5・1～20  
タイトル 一番つよいのは？  
暗唱聖句 けがれた霊よ、この人から出て行け。  
目 標 悪霊をも追い出すイエス様の力に頼る。  
マルコ5・8

## 導入

(小野)

夏には夏のきれいな花が咲きます。あさがおやひまわりや、カンナや、秋には秋の花が咲き、それに秋にはたくさんの実をとれます。ぶどうや梨など、自然界を支配される神様はすばらしいですね。では人間の世界はどうでしょうか。夏のキャンプでこんなゲームしましたか？「猛獣狩りに行こうよ！猛獣なんかこわくない！鉄砲だつて持つてるもん、やりだつて持つてるし、アッ！アッ！ライオン」とか言つて4人づつのグループになるゲーム。楽しいですね。人間つてやっぱり強いのかな？武器があるものね。でもほんとにそうなのかな？

## 人間よりも強いもの

この世界は、今はまだ悪い力、つまり悪霊も働いている世界です。目には見えませんが、人をコントロール（自由に動か）して、悪いわざをさせ、滅びへ滅びへと向かわせる働きをしているのです。私たちのまわりにもそんな悪の力にふり回されている人を見ます。テレビや新聞のニュースには毎日のようにそんな人々のことが載っています。いくなり、他の人を殺したり、万引きしたり、さら

には悪い薬、身体をだめにしてしまおうとわかつているのにやめられない、それを中毒といいますが、そんなものにはばられて、自分で自分をどうすることもできない人々です。その後ろで働いているのが悪霊なのです。悪霊は人間より強いのです。イエス様の時代に悪霊にとりつかれていた人が、どんなにみじめだったかよくわかりますね。暗い墓場に住んでいました。足かせや鎖でつながれてもすぐに引きちぎってしまうので、誰にも手のつけようがなかったのです。夜も昼もずーつと墓場や山で叫びつづけるし、石で自分のからだを傷つけていました。何てかわいそうな人だったのでしょうか。それなのに、まわりの人もその人自身もどうすることもできませんでした。

## 悪霊よりも強い方

そのゲラサ人のいる所に、イエス様が船からあられました。イエス様はこの悪霊につかれた人を見て、「けがれた霊よ、この人から出て行け」とお命じになったのです。彼は遠くからイエス様の所へ走り寄つてきました。そしてイエス様を礼拝して、大声で叫びました。「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓つてお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」と。イエス様は彼に「なんとという名前かとたずねられました。すると、「レギオン」と言います。大ぜいなのですから」と答えました。そんなにも大ぜいなのにイエス様を恐れていたのですね。そしてお願いしたのは、「自分たちをこの土地から追い出さないようお願いします。わたしどもを、豚にはいらせてください。その中へ送ってください」ということでした。イエス様

のお許しのもとに、たくさん汚れた霊どもは彼から出て行き、豚の中にはいりこんだのです。今までおだやかだった豚たちは急に荒々しくさわぎはじめ、二千匹もの豚たちは、一気にかけからなだれを打って海へかけおりて、とうとう、全部、海の中でおぼれ死んでしまいました。何ということだ！豚を飼う人々の話を聞いて、人々がかけつけてみると、レギオンを宿していたゲラサ人が、まじめに服を着て、イエス様のそばに座っているではありませんか！人々の心は恐れに満たされました。今まで、誰がしばつても、鎖さえもひきちぎつてどうにもならなかった人が、悪霊からとき放たれたのですから！しかも、その代わりに二千匹もの豚の群がおぼれ死んだというのです。イエス様の力は何とすごいのでしょうか。悪霊よりも強いのですね！人々はそのイエス様に、自分たちの地方から出て行つてほしいと言ひ、ゲラサ人は、感謝のあまり子供をしいと言ひました。イエス様は彼に「家に帰つて主がどんなに大きなことをしてくださったか知らせなさい」と言われ、彼のあかしで人々は驚いてしまいました。イエス様は悪霊よりも強いお方、一番強いお方ですね！このイエス様にいつもお頼りすればまちがいありません。

お酒がやめられなかった人が、エペソ5・18を読みました。「酒に酔つてはいけません。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて」と。すると不思議なことにお酒がピタリとやみました！悪霊よりもつよいイエス様のみ言葉と聖霊に満たされて、きよく歩みつづけられるのです。なんて感謝なことでしょう！  
♪イエス様がいちばん♪ (友よ歌おう2番)

## ワーク A

## 話し方のヒント

皆さんはお墓に住んだり、石で自分の身体を傷つけたり、絶対にしたくないですね。しかしこの男の人は、人間よりも強い悪い霊にとりつかれ、気が狂つたようになり、誰もこの男の人を治せませんでした。しかし、イエス様が悪い霊に命じられると、霊はイエス様を恐れ、男の人から出ていったのです。何よりも一番強いイエス様は、男の人を完全に治してくださいました。このイエス様を信じて頼るなら間違いはありません！

## ワークについて

男の人がイエス様によって変えられたことを、ペープサートを動かしながら確認しましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 けがれた霊につかれた人はレギオンと名乗り、墓場を住みかとしていました。しかし、イエス様によってけがれた霊が追い出されると、その人は正気になりました。その人はイエス様の言葉によって、悪霊から解放されたのです。

●質問3 私たちは、悪霊を追い出すことのできるイエス様にお頼りし、イエス様のことを伝える者とならせていただきます。

## ワーク C

●み言葉を覚えてから書き入れます。暗唱し（3回ぐらい）その後書き入れます。

●第2問 聖書を1節ずつ輪読します。今日の箇所は長いので、15節までにしても良いと思います。①墓場にすんでいる。鎖につながれたが、鎖でもつないでおけない。夜昼叫びつづけ、自分の体を傷つけていた。（つまり自分も他人も傷つけて、だれ誰もどうすることもできない状態）②悪霊は、2千匹の豚に入つた。豚は、崖から落ちて死んだ。男の人は、着物を着て、正気になってイエス様のそばにきた。

④答えは悪霊、霊の世界、主

●第3問 生徒の中には知らずに悪霊の世界に関わっている子がいるかもしれません。悪霊により頼んだり、支配されたりすることがないように導きが必要ではないでしょうか。

## ワーク D

●現代社会にも自分をコントロールできない状態に陥り、苦しんでいる人がたくさんいます。その現実に対して、私たちは無力です。あきらめがちです。それらの人々との直接的な関わりがなく、関心を持たないで、平穩でいるうちは良いかも知れませんが、もし自分や身近な人がそうになったら、とたんに無関心でいられなくなります。悪霊を支配されるイエス様に子どもたちが救いを求めることができますように。

●子どもたちの身近なところで悪霊に苦しむ人がいたら、問題は深刻です。教師がイエス様は悪霊をも支配される神様であるとの信仰に立って、クラスの子供と共に祈つてあげる必要がある場合があります。

## 中高校へのヒント

## 話し合ってみよう

1 「悪霊」ってほんとうにいるの。アニメやホラー映画などの作り話では、聖書に記されてあり、ほんとうに存在しています。

2 それでは、今でも、悪霊は働いているのでしょうか。↓人を誘惑し罪を犯させたり、大切な人生を破壊してしまいます。

## 考えてみよう

1 マルコ5章の悪霊の特徴は何ですか。↓他人と自分を傷つけ、破壊を止められない（3～10節）。人間の力では抑えられないことがわかります。

2 悪霊が恐れているのは誰ですか。↓主イエス様（6節）。主イエス様は圧倒的な力で悪霊を追いました（8節）。

## 自分に当てはめてみよう

1 現代の日本は、テレビ、インターネット、雑誌などで、「霊現象」「不思議現象」「占い」などが毎日のように登場しています。中学生、高校生も不安になったり、恐れたりする人がいます。背後には「悪霊」の働きがあることに気をつけなければなりません。安易な気持ちや興味半分で入り込んではいけません。

2 自分や友だちが、悪霊のことで、不安になったりしたら、主イエス様を信じて、祈りましょう。また教会の先生に相談し、祈ってもらいましょう。



# 聖書 マルコ5・25〜34

## テーマ 病気をいやす

### 序論

(金井)

主イエスは天地の創造主であり、万物の主権者である。それゆえ主は宣教によって被造物全体を贖おうとしておられる。主は風や波を静め(自然界の支配)、悪霊を追放し(霊界の支配)、病をいやされる(人間界の支配)。私たちはホーリスティック(包括的・全体的)に救済を理解すると同時に、主イエスが個人を大切に扱われたことにも注目したい。今日のテキストはその好例である。

### 一、女はイエスに近づいた

主イエスがガリラヤ湖近辺で宣教しておられた時のことである。一人の女性が群衆の中にまぎれ込んで、イエスに近づいた。彼女は八十二年間も長血をわずらってゐた。子宮から出血する婦人病であろう。律法ではこのような女性は穢れているとされたため(レビ15・25〜26)、彼女は礼拝や会衆の交わりから排除されていた。彼女は肉体だけでなく、精神的にも多くの苦痛を味わっていたのである。

何とかこの病氣から解放されたいと願って、彼女は多くの医者にかかった。しかし、△さんさん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまっただが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。経済的にも窮して、彼女は絶望の淵に追い込まれた。

そんな時に、彼女はイエスのうわさを聞いた。

イエスは悪霊を追い出し、多くの病人をいやしていると言う。彼女は最後の望みをイエスに託した。「もしも、あの方の衣にでも触れることができれば、私は救っていただける」と彼女は言っていた(28節直訳)。

そして、ついにイエスが彼女の近くをお通りになる時が来た。彼女はイエスを取り巻く群衆にまぎれ込み、ひそかにイエスに近づいたのである。彼女の熱心を見よ。私たちも御前に出る資格の無い、汚れた罪人であることを自覚しつつ、主の大いなる恵みのゆえに、大胆に主に近づこう。

### 二、女はイエスの衣に触れた

彼女は後ろから手を伸ばして、イエスの衣に触れた。正確に言えば、衣の「ふさ」に触れただけである(マタイ9・20)。すると、すぐに血の源が涸れて、彼女は病氣の苦痛がいやされたことを体感した(29節直訳)。

△イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。弟子たちが言うとおりの時、多くの人が押し迫り、イエスに触れていた。けれども、主イエスの内から力を引き出すことができたのは、衣のふさに触れたこの女性一人だけであった。

教会にどんなに大勢の人々が集まっても、それだけで、主の御業が現されるわけではない。主イエスは一人一人の思いを問題とされるのである。私たちはどれだけ真剣に主を信じているだろうか。どれだけ切実に主を求めているだろうか。

### 三、女はイエスに真実を告げた

△イエスはさわった者を見つめようとして、見まわしておられた。その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出た。自分は穢れた身でありながら、ひそかにとんでもないことをしてしまったのではないだろうか、彼女は恐れたのである。彼女は主の△みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。

主イエスは△娘よ△と親しく彼女を呼ばれた。そして、大勢の人々の前で、△あなたの信仰があなたを救ったのです△と言って、彼女の△信仰△を賞賛し、彼女が完全にいやされたことを宣言された。これによって、人々の彼女に対する偏見が取り除かれ、彼女は信仰生活を回復して、社会に復帰することができたのである。

最後にイエスは、「安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」と言って、彼女を回復の道へと送り出された。主イエスの全面的・絶対的な肯定によって、彼女の心から恐れは消え去り、変わって大きな喜びと希望と平安がその心を支配したのである。

### 結論

主イエスが与えてくださる救いは、人間の霊と心と体そして社会生活全体に及ぶ全人格的・包括的ないやしである。主は求める者に豊かに応えてくださる。私たちも切なる飢え渴きをもって主に近づこう。私たちの霊と心と体、生活のありのままを主に申し上げよう。主は大きな憐れみをもって私たちをいやし、確かな歩みを与えてくださる。

### 研究資料

(石田)

いわゆる長血をわずらった女の癒しである。この出来事はヤイロの娘の癒しと並行して起きたので、正確な時系列で記されている。死にかかっている娘のところへ向かうという緊迫した状況の中で、長血の女が瞬時に癒されるという奇跡が起こる。主の行かれるところにはどこでも、信仰に対する祝福が伴う。この出来事を通して、主イエスが病氣に対しても支配者であられることが歴然となる。こうして神の国は拡張され、悪魔の領域は削り取られてゆく。

### テキスト

25 十二年間も長血をわずらっている女 長血という病氣は女性特有のもので、当人にとっては長く苦しい12年である。まず端的に肉体的精神的苦痛があった。12年という歳月は、当時の寿命からすれば人生の半分から3分の1を占めることを考えると、その苦しみのほどが推察される。また宗教的苦痛のあったことが推測される。律法によれば彼女は「汚れた者」とされ(レビ記15・25)、礼拝や地域のコミュニティから締め出されていた。さらに経済的な苦痛が明かにされている。

26 多くの医者にいかって…その持ち物をみな費してしまった 多くの医者は彼女の弱みに付け込んで、その財産を巻き上げた。かえってますます悪くなる一方であった。考えられるあらゆる手立てを尽くしたが、万事休すの状態。

27 群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった 彼女の病氣は女性として恥ずかしいもの

であり、正面からイエスに癒してくださいとは言えなかった。せっぱ詰まっており、最後の手段としてついに主イエスのもとに來たが、これは大正解であった。

28 せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていた 非常にわずかな接触しか求めなかったことによって、かえって彼女の信仰が賞賛されることになる(34)。彼女の慎ましく控えめな生活態度がにじみ出ているとも言えよう。彼女は主イエスの着物に何か力があると信じていたのではなく、あくまでも主イエスご自身を信じたのである。ちなみにマタイでは「み衣のふさ」(9・20)と詳しく記されている。

29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病氣がなおったことを、その身に感じた。 彼女のひどい痛みが直ったこと(新改訳参照)、主イエスから力が出て行ったこと(30)は同時であった。このとき、ほかにも大ぜいの群衆がイエスに押し迫っていたから、信仰をもって主イエスにさわれば、他にも癒された人がいたかもしれない。主イエスに押し寄せる者は多いが、触れる者は少ない。

30 自分の内から力が出て行ったことに気づかれて 主イエスの癒しは、言葉だけでなく、霊的エネルギーを消費することを教えられる。その回復と充電のために、主はしばしば一人で父なる神と交わる必要を覚えられた。わたしの着物にさわったのはだれか 彼女のことをわかっておられたかもしれないが、それでもあえて申し出ることを求めておられる。それは「人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるから」である(ロマ10・10)。

彼女は主イエスに触れさえすれば癒されると信じるほど追い詰められていたこと、そしてただちに癒されたことを主イエスと周りの人々に証しすることによって、彼女の救いがより確固たるものになる。このところからパプテスマの重要性と必要性を教えられる。恵みの証しは、クリスチャンとしての成長にも欠かせない。ヤイロの娘のところへ向かう途中という緊迫したときでも、主は一人の魂をじっくり取り扱われる。

33 恐れおののきながら進み出て…すべてありのままを申し上げた 彼女は誰にも知られずひっそりと立ち去るつもりでいたが、思い切って告白する決心をした。当時の女性が人前で話したり、まして自分の病氣に関することを人前で告白することなど、普通はありえないから、彼女にとっては大きな犠牲であった。

34 娘よ 普通、父親が自分の娘を呼ぶときの言葉である。だからといってそれほど年が離れていたと考える必要はない。彼女は主イエスと親しく個人的な関係に導きいられた。あなたの信仰があなたを救ったのです 「救った」は、なおしたとも訳せる言葉。彼女は思い切って告白したが、肉体的癒しだけでなく、信仰による救いの恵みという思ってもみなかった祝福を主からいただいた。すっかりなおって、達者でいなさい 主は命じられるだけでなく、責任をもってご自分の言葉を達成される。だから約束の言葉と思つてよい。

参考文献 『マルコの福音書』(ティンデル聖書注解)、『新約聖書注解』(マクドナルド)、『ウエスレアン聖書注解』など。



聖書 マルコ5・25〜34  
タイトル イエス様に、タッチ！  
暗唱聖句 娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。 マルコ5・34  
目標 病氣にも勝たせてくださるイエス様を信じる。

導入 (小野)

天高く馬肥える秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋と昔から言われていますが、あなたにとって、どんな秋でしょうか？ でも、もしも病氣だったら、どの秋も楽しめないですねえ。うーん、残念と思うしかありません。病氣したことあります。全然ない人はめずらしいかもね。病氣にもいろいろあるでしょう。軽いから重いまで。皆さんはどんな病氣にかかりましたか？ 風邪引き、虫歯、結膜炎、そのほかいろんな病氣があるでしょう。食べ過ぎ、飲み過ぎでかかる病氣もあるし、罪を犯して病氣になることもあるし、悪霊のせいで病氣にかかることもあり、あと一つは神様の栄光が現れるために病氣にかかることもあるのです。病氣がなおらないままにいるほうが神様の栄光になることだってあるのです。病氣、と一言でいってもいろいろ考えられますね。

大変な病氣

さて、今日の主人公は病氣の女の人ですが、その人の名前はわかりません。この人がかかっていた病氣は長血という名の恥ずかしい病氣でした。しかも12年間も長い間わずらっていたのです。病

気になる、身体が苦しく痛い上に、心までもが大きな不安でいっぱいになります。おまけに薬代もかかるし、お医者代もどんどん出ていきます。何とかなりたいと、この女の人はたくさんのお医者さんにかかりました。でもなおしてもらえないどころか、さんざん苦しめられて、ひどい目にあわされて、持ち物を全部使いはたしても、何のかわきなく、病氣のほうもますます悪くなっていったというのです。しかも、この病氣は汚れたものとして、人々からも仲間はずれになってしまおうという、悲しんでも泣いてもどうにもならない、そんな大変な病氣だったのです。もう、ダメ、どこにも私をいやし、救って、助けてくれる人はいないのかと、女の人は絶望的になっていたかもしれせん。

大胆な信仰

ところが、この女の人の耳に入ってきたグッド・ニュース！ それはイエス様のことでした。何でも、イエス様は、悪霊さえも追い出し、嵐も静め、そして、病人もいやしておられるそう！ 女の人の心に、そうだ、あのイエス様にいやしていただこう、もしも、あの方のみ衣にでもせめてさわるならば、きっとなおしていただけるにちがいない、という信仰がわいてきて、そう確信していたのでした。さあ、イエス様が来られます。もちろん、いつものように、大勢の群衆がイエス様をとりまいています。大きな男の人たちの間をぬってイエス様に近づくのは大変でした。でも女の人は一生懸命になって、どうしてもなおしてもらいたい！ との思いで近づいて、「タッチ！」、うしろからイエス様のみ衣にさわりました。

大きな癒し

するとどうでしょう、一瞬のうちに、すぐに、血の元がかわいて、女の人は病氣が治った！ と身

に感じたのでした。あんなにもひどく苦しみ、あんなにも長く悩み続けてきた病氣が一瞬のタッチで治ったのです。そのタッチはイエス様の内から力が出て行くほど、イエス様の力を引きだすほどのタッチでした。「私の着物にさわったのはだれか」とイエス様が言われると、「イエス様、こんなに大勢の群衆が押し迫っているんです。なのに誰がさわったかとおっしゃるのですか？」と弟子たちの返事。しかしイエス様は見回して、何とか見つけようとされています。女の人は恐れおののきながら進み出て、ひれ伏し、ありのままを話しました。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」とのイエス様のお言葉に、女の人の心は平安と喜びで満たされたことでしょう。

イエス様は病氣にも勝たせてくださる癒し主です。今までも、病める所に手を置いて、癒しのために牧師先生やお父さんやお母さんにお祈りしてもらってきた、そして、癒されたお友だちもたくさんいることでしょう。軽い病氣でも、重いなど思う病氣でも、イエス様にお祈りして癒していただきましよう。今日の「大変な病氣」の女の人のうちに潜んでいた「大胆な信仰」を私たちも持たせていただきたいと思います。イエス様にお祈りしてイエス様にタッチしてもらって癒されることもあるでしょう。それ以上に、この女の人のように、群衆をかきわけてでもイエス様にタッチしていった熱い信仰と求めがあればイエス様はきっと喜んでみ業をなさってくださいましょう。

♪フリー♪ (プレイズワールド56番)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは病氣になって、長い間治らないならどうしますか？ いろんなお医者さんに見てもらいますね。この女の人は12年間も病氣で、どのお医者さんにも治してもらえなかったのです。イエス様の所に行きました。「イエス様なら必ず治せる」と信じて、イエス様のみ衣の端にタッチしました。すると、その時すぐに病氣が治ったのです。イエス様はどんな病氣も治せる癒し主です！

ワーク B

ワークについて  
女の人はどんな気持ちでイエス様にタッチしたのか話しながら、女の人を貼りましょう。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 12年間、病氣で苦しんだこの女は、たくさんのお医者さんにかかっても、一向に良くなりません。ますます悪くなる一方で、絶望的になっていました。
- 質問3 その女に、イエス様のみ衣に触ったら癒されるのではないだろうかという信仰が与えられました。イエス様はその女に、「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われました。私たちもこの女の信仰に倣い、心からイエス様を信じましょう。

ワーク C

み言葉を覚えてから書き入れます。

- 第2問 聖書を1節ずつ輪読します。
- ①「絶望的、最悪」など生徒特有の表現もあるでしょう。
- ②③解答は聖書のとおりです。

第3問 イエス様から癒しの力を引き出したのは、女性の信仰です。イエス様は、信仰をもって

やってくる人々に応えてくださいます。イエス様には解決があると、単純で大胆な信仰の力を覚えたいと思います。

ワーク D

- ①の■は答えたくない場合もあります。クラスの子どもたちの様子により、配慮してください。答えたくない場合は、「心の中で答えてね」と言ってあげると、ほっとすると思います。
- 2は答えるのが難しい場合がありますので、補助が必要かも知れません。①はイエス様を信じる人々の中に加わってみる…など。②は自分の存在に気づかれないように、遠慮がちに…など。③は、でも積極的になど。

中高科へのヒント

話し合ってみよう

- 1 病氣になったことはありますか。辛いですね。(プライバシーに注意して、体験を話してみてもいいでしょう)
- 2 病氣が回復した時は、どんなにうれしかったでしょうか。(長期の病氣や障害を持ちながらも、信仰と希望を持って生きている人もいます)
- 考えてみよう
- 1 この女の人は長期の病氣だけではなく、やぶ医者に引っかけられ、お金もなくなり、ますます病氣が悪くなっているようです(25〜26節)。悪いことばかりが続くようです。あなたはこんな経験はありますか。
- 2 主イエス様にタッチしました(27節)。「せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろう」と、思っていたからである(28節)。「せめて」とはどんな気持ちだったと思いますか。
- 3 主イエス様は大勢の人から、この女の人を見いだしました。どうしてでしょうか。↓主イエス様は小さな真剣な願いを聞いてくださるお方であることを知らせるために、またこの女の人の信仰を励ますために。
- 自分に当てはめてみよう
- 1 私たちにとって、主イエス様にタッチするのはどういことだと思えますか。↓正直にお祈りすること。
- 2 祈りが聞かれた証をしてみましょう。





聖書 マルコ5・35〜43  
テーマ 死人を生かす

## 序論

(金井)

死は人間にとって最後の、最大の問題である。どんなに死を嫌っても、誰もが皆いつかは死ぬ。死に勝利された救い主イエスのみ業を学ぼう。

## 一、恐れるな

イエスがゲラサ人の地から湖を渡ってカペナウムに帰られると、群衆が喜んで迎えた。そこにヤイロという男がやって来た。彼はユダヤ教の会堂を管理し、礼拝のプログラムや奉仕者を決める会堂司であった。ヤイロはイエスの足元にひれ伏して懇願した、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおつて助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」(23)。その子は12歳になる一人娘である。

イエスはすぐに彼の家に向かわれた。しかし、押し迫る群衆が邪魔になり、また途中で、出血に悩む女性がいエスに触れていやされるといふ出来事が起こり、時間がすいぶん経過してしまった。その間に娘は死んでしまい、会堂司の家から人々が来て、それを知らせた。△あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい▽。これを聞いて、ヤイロは激しく動揺した。イエスは彼の心中を察して言われた、△恐れることはない▽。これは慰めや気休めの言葉ではない。救いに至る信仰を引き出す言葉である。

## 研究資料

(石田)

ヤイロの娘を生き返らせる出来事を通して、主イエスが人生最大の問題である死をも支配される方であることが明らかにされる。

## テキスト

22 会堂司のひとりであるヤイロという者 会堂司には建物を管理し、安息日の礼拝を導き、会堂に属する人々をさばく役割があった。こういう保守的な人がイエスのもとに来ることは簡単ではないので、彼は娘のために立場も面子も投げ出しているわけである。その足元にひれ伏し、しきりに願って言った。自分ふところに飛び込んできたヤイロをイエスは憐れみ、娘を癒すために出発された。

35 会堂司の家から人々がきて言った 家から使いがやってきてヤイロに娘の死んだことを伝えた。このうえ、先生を煩わすには及びますまい この言葉には他のことで手間取ったために娘を救えなかったことへの非難めいた響きがある。また死んでしまったら神様でも、ましてやイエス様でもどうにもならないと決めてかかっている。人間の常識としてはそれが当然である。しかし主は人となられた神であるゆえに、その常識を超えるお方である。まだそのことを悟っていないヤイロにとっては目の前が真っ暗であり、せつかくめばえた彼の信仰もいまや風前のともしびとなり、その信仰は最大の試練を迎える。

36 その話している言葉を聞き流して (バラクー

## 二、ただ信じなさい

続けてイエスは言われた、「ただ信じなさい。娘は助かるのだ」(ルカ8・50)。ヤイロはこの直前に、長血をわずらう女性のいやしを見ていた。イエスは彼女に、「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われた(48)。それゆえ、ヤイロもまた、ひたすらイエスを信じ通したのである。

人間にどうすることもできない死という現実を乗り越えることができるのは、イエス・キリストだけである。彼は宇宙を創造し、命を創造された神だから、人間を支配する死の法則さえも乗り越えることができる。問題は、私たちがどこまでこのお方の偉大さを理解し、信じるかである。

私たちの信仰は、世の常識の範囲におとなしく収まっているものだろうか？ それとも、世の常識を超える大胆な信仰だろうか？

## 三、泣くな

会堂司の家に着くと、人々が大声で泣き叫んでいた。古代ユダヤでは葬儀に親族や近隣の人々、友人などが大勢集まる。そこでは感情的になって涙をふんだんに流すことが習わしとなっていた。人々の涙を誘う専門の泣き人も雇われた。まだ葬儀が始まらないのに、もうこの騒ぎである。イエスはこの様子を見て、言われた、△なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである▽。人々はイエスをあざ笑った。

イエスは皆の者を外に出し、少女の父母とペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、少女のいる所に入って行かれた。そして、イエスは彼女の手を

オー) その言葉を無視する、聞くのを拒むという意味合いがある。万事休すだという人々の絶望には全く影響されず、むしろその言葉を打ち消して次のように言われた。恐れることはない。ただ信じなさい 信仰が消えてなくなりそうな出来事だが、先ほどわたしを信じたように、今も信じ続けるようにとの命令である(時制は現在形)。この言葉はヤイロに理屈ぬきで働いたことであろう。ちょうど腰の抜けた人を抱えて立ち上がらせるように。37 だれにもお許しにならなかった ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人は、12弟子の中でも格別に「聴く耳のある者」、本気で信じようとする者であり、主イエスは彼らに特別な啓示を与え、訓練するためである。3人は変貌山やゲッセマネの園でも同じように同行を求められている。

38 大声で泣いたり、叫んだりして 本当の悲しみであれば無理もないことだが、「人々はイエスをあざ笑った」(40)とあるところを見ると、儀礼上の表現であったことがうかがえる。

39 子供は死んだのではない たいへん大胆な言葉だが、思いつきでもその場のぎでもなく、主がヤイロに懇願されたときからすでに持つておられた確信である。眠っているだけである。主は、死んだことを眠っていると婉曲に表現しているのではなく、やがて生き返るために死んでいる状態について言われた(カシユードー)。原語としては別の言葉(コイマオー)だが、死んだラザロについても眠っていると表現されている(ヨハネ11・11)。しかし一般的にはなじみがなかった。

40 イエスはみんなの者を外に出し(エクバルロ

取って、△タリタ、クミ(少女よ、さあ、起きなさい)▽と言われた。律法では死者に触れることは穢れる行為とされていたが、イエスはそのタブーを破られた。すると、霊が戻って来て、少女はすぐに起き上がり、歩き出した。これを見た人々は我を忘れるほど驚いた。

死者を生き返らせるという奇跡はメシヤのしるしである(マタイ11・5)。しかし、イエスは彼らに、誰にもこの事を知らせるなと厳しく命じられた。当時の人々は政治的解放者としてメシヤを熱望していたため、十字架による贖罪というイエスの使命を正しく理解することができなかった。イエスは人々の誤解を避けられたのである。

イエスは少女に食物を与えるようにと言われた。愛の配慮である。蘇生した少女の体はやがて死ぬ。しかし、死後3日目に復活されたイエスの体は、もはや老いることも死ぬこともない栄光の体である。私たちには主と同じ栄光の体に化せられる望みがある(1コリント15・42〜55)。それゆえ、私たちは悲嘆の涙に暮れる必要が無いのである。

## 結論

死を恐れる時、その気持ちをありのままに主に申し上げよう。主は、「恐れることはない。ただ信じなさい」とみ声をかけてくださる。たとえ私たちの体はちりと化しても、主が再臨される時、「起きなさい」と呼ばれるみ声を私たちは聴く(エペソ5・14)。私たちの体は永遠の栄光を帯びて復活するのである。神は私たちの目から涙を全くぬぐいとつてくださる(黙示録21・4)。ハレルヤ!

1) おもに悪霊を追い出すことなどに用いられる言葉で(1・34、3・15)、締め出すという意味合いがある。主は、興味本位ではなく心から信じようとする人以外は奇跡の場に同席を許されなかった。この場合、3人の弟子と両親だけである。

41 子供の手を取って ヤイロの「手を置いてやってください」(23)という願いに応えた行動である。当時、死人に触れることは儀式的に汚れるとされていたので(民数記19・11)、この行動はタブーを超越するものであった。タリタ・クミ イエスも少女も共に普段使っていたアラム語の発音をそのまま記している。それほど立ち会った弟子たちの耳に焼き付いていたということであろう。マルコはこの出来事についてペテロから直接聞いたという説が有力である。同じ用例には、エバタ(7・34)、アバ(14・36)、エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ(15・34)などがある。少女よ、さあ、起きなさい(エゲイレ) 言葉どおりとしてはベッドから起きなさいということだが、意味としては死んだ少女に生き返ることを命じている。この言葉は、主イエスの復活についても使われている(14・28、16・6、14)。

42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した 主の確信と言葉どおり少女は死を打ち破って生き返った。神の子としての疑いのようなないしである。

43 少女に食物を与えるようにと言われた 死なない体に甦らされたのではないので、超自然の力によって生き返らされたあとは、自然の力で支えられる必要があった。

聖書 マルコ5・35〜43  
タイトル いのちの主  
暗唱聖句 恐れることはない。ただ信じなさい。  
目 標 死の力をも支配されるのはイエス様だけだと知る。 マルコ5・36

## 導入

(小野)

「死んだらどこへ行くんだろう?」「死んだらどうなるんだろう?」「私たちのまわりで死んでいく人がある時、ましてや大好きなおじいちゃんや、おばあちゃんや、お父さんとかお母さんとか、兄弟、それに仲良しのお友だちが亡くなったたりすると、これほど悲しいことはない、そして、こんな疑問が心の中にいつぱいになるでしょう? 人が死ぬと、もう絶対にお話もできない、一緒に食べたり遊んだり、勉強したりもできない。焼かれて、骨になってお墓に入ってしまったら、「会いたいよ」と思っても、もう絶対に会えない、こんなつらくて絶望的なことが、と思います。人にとつて「死の力」ほど強く、残酷なものはありません。死によつて、何もかもが終ってしまうのでしょうか!? そうではないですよ、と今日、イエス様はやさしく力強く語りかけてくださいます。

## 死に支配される人

イエス様がまた舟でカペナウムの岸の方に渡られると、大ぜいの群衆が集まって来ました。そこへ、ヤイロという会堂を守っている人がやつてきて、イエス様を見かけると急いでその足もとにひ

れ伏して一生懸命お願いしました。「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、おいでになって、手を置いてやってください。何とかその子がおつて助かりますように。主よ!」と。その子はまだ12歳でした。お父さんにとつて、そんな幼い娘が自分より先に死ぬなんて、これ以上つらいことはありませんから。ところが、ひとりの病気の女の人がイエス様の衣のすそにさわったりする、そんなハプニングが起こったため、イエス様はすぐに、サツとはヤイロの娘の所まで行けなかったのです。ヤイロはヤキモキしたことでしょう。でもその女の人のタッチと信仰によつて、完全にいやされたのを見て、とても励まされ、信仰を堅くしたかと思えます。しかし、時間がたつてしまひ、会堂司の家から人々がきて伝えました、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい」と。「えーっ! 娘はどうとう死んでしまったのか、何ということだ、せめて、虫の息でもしていたら、まだ望みがあつたかもしれないのに」と、ヤイロの心は完全に打ちのめされ、絶望のかたまりになってしまったかもしれません。人は死の力にのまれてしまいます。年齢順でもありません。幼くても若くても力があつても、富があつても、みんなみんないつかは死の力に飲み込まれてしまうのです。

## 死を支配する主

人は死の前には完全に絶望です。しかし、しかし! です。その人々からの知らせが入った時、イエス様はどうされたでしょう。「イエスは話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、『恐れることはない。ただ信じなさい』(36節)。ヤイ

ロはそのイエス様の言葉にとりすがするような思いだったでしょう。ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人を連れてヤイロの家に着くと、人々は絶望的に涙を流し、大声で泣いたり、叫んだりして騒いでいます。家に入るとイエス様は彼らに、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」と言われました。するとどうでしょう。今までさんざん泣きわめいていた人たちは急にイエス様をあざ笑いはじめました。しかしイエス様は、少女の父母と、ペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて子供のいる所に入つて行かれました。そして子供の手をとつて、「タリタ、クミ、少女よ、さあ、起きなさい」と言ったのです。すると少女はすぐに起き上がり、歩き出したではありませんか! そこにいた両親も、ペテロ、ヤコブ、ヨハネも、そして泣いたり、あざ笑つたりしていたみんなの人も、ただただびくつき仰天し、一大ショックを受けたことでした。イエス様は、だれにもこのことを話さないように、少女に食物を与えるように、と言われました。

死の力にさえも打ち勝つ主、死をも支配される主はイエス様だけです。この少女はまた死を迎えたでしょうが、やがて十字架で死なれたイエス様は3日目に復活され、今も生き続けておられます。死の力を破り、死を支配されるいのちの主イエス様にしっかりと信頼し、つながりましょう。そういう私たちに、確実な望みが与えられています。イエス様が再び来られる時、必ずイエス様と同じ死なない身体によみがえらせられて、永遠に神様と共に生きるのです。だから恐れることなく、ただ信じて、イエス様と一緒に歩み続けましょう。♪主は今生きておられる♪フレイズワールド49番

## ワーク A

## 話し方のヒント

●皆さんのベツトが死んでしまったら、もうお医者さんに連れて行かないですね。なぜなら、死んでしまったら、誰にも生き返らせることはできないからです。会堂司の娘が死にそうで、イエス様に治してもらおうと思いましたが、間に合わず娘は死んでしまいました。しかしイエス様が死んだ娘に「少女よ、起きなさい」と言われると、少女は起き上がったのです。イエス様は死んだ人にも命を与える神様です。私たちもイエス様を信じるなら、死んでも生きる永遠の命が与えられます。

## ワーク B

●「タリタ、クミ」はどういう意味か、話してあげてください。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 会堂司ヤイロは、娘が亡くなったことを聞いて、動揺しました。心の中をご存知のイエス様は「恐れることはない。ただ信じなさい」と声をかけられました。  
●質問3 イエス様は「眠っているだけである」と言われ、その子の手をとり、「タリタクミ」と声をかけられました。すると少女は起き上がりました。死をも支配されているイエス様を恐れることなく、日々、信じて、どんなことでもお任せして歩みましょう。

## ワーク C

## み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 10月のお話を復習しておいてください。今月の単元「支配者」、すなわち主であるイエス様の権威が、天と地にある全てのものに及ぶことを確認します。来週の信仰告白につなげられたらと思います。  
●第3問 あらかじめ辞書を用意しておきます。  
●第4問 身近な人の死を体験している生徒からそうでない生徒まで問題意識の幅があると思えます。特に深い恐怖感など持っている生徒には、イエス様が死に勝利して新しい命の希望が約束されている事を信じるように、話してあげてください。

## ワーク D

●ヤイロがイエス様に出会ってから、イエス様のみ業を見るまでには、長いドラマがあります。一つ一つの描写を追いながら、ヤイロの感情に触れるために、オリジナルのセリフを考えてみます。  
●私たちは、イエス様の声を聞く前に、いろいろな人の声を否応なしに聞かされ、翻弄(はんろう)されます。ここでイエス様と人々の違いを目の当たりにして、自分はどちらに聞き従うべきか、判断した上で、投票という形を取ってみました。子どもたちが自分の聞き従うべき方はイエス様であると表明できますように。

## 中高科へのヒント

## 話し合ってみよう

1 日本は「死」を避ける社会です(例えば病院には4号室がない)。どうしてでしょうか。↓死の解決がないから。怖いから。  
2 あなたは「死」を避けていますか。考えたりしますか。↓聖書を読むと、真正面から死について考えることができます。

## 考えてみよう

1 死の悲しみ、混乱がわかります。人は死に対しては何もできません。人は誰一人死に勝てる人はいません(37、38節)。  
2 「子供は死んだのではない。眠っているだけである」(39節)と主イエス様が言われた時に、人々はあざ笑いました。どうしてでしょうか。↓「人は死んだら終わり」という考え方しかないから。  
3 主イエス様はなぜ、皆の者を外に出したのでしょいか(40節)。↓興味半分や驚くことを見たいただけの人を除かれ、少女のよみがえりの奇跡を信じる者だけを残されました。

## 自分に当てはめてみよう

1 人(あなた)は死に勝つことはできませんが、死に勝利された主イエス様によつて、死に勝利することが出来ます。  
2 私たちも主イエス様のご再臨の時に、死からよみがえり、栄光の体に変えられ、主イエス様とお会いすることが出来ます。





聖書 マタイ16・13〜20  
テーマ 信仰の告白

## 序論

(金井)

主イエスの宣教には嵐を静め、悪霊を追放し、病をいやし、死人を生き返らせるといった力ある業が伴っていた。それらはイエスがメシヤ（キリスト）であることの証しである（11・2〜6）。今日は信仰告白と教会について学ぼう。

## 一、主は信仰の告白を求めておられる

△ピリポ・カイザリヤの地方△はヘルモン山南麓にある岩の多い台地である。ガリラヤ湖北岸から40キロメートルほど北にあり、ヨルダン川の水源地の一つである。ヘロデ大王の息子である領主ピリポがこの町を拡張して、ピリポ・カイザリヤと改称した。この町にはギリシア神話のパン神を礼拝する聖所や皇帝を崇拝する神殿があった。この偶像崇拜の盛んな地で、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれと言っているか△と尋ねられたのである。△人の子△という表現には来るべきメシヤという意味が含まれる（ダニエル7・13）。

△彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」△。ガリラヤの領主ヘロデ・アンテパスはイエスを△バプテスマのヨハネ△のよみがえりではないかと恐れた（14・1〜2）。△エリヤ△は紀元前9世紀後半に北王国イスラエルで活動した預言者であり、

△エレミヤ△は南王国ユダの末期からバビロン捕囚時代にかけて活動した預言者であるが、両者ともメシヤの先駆けとして再来すると人々は信じていた（マラキ4・5、旧約外典Ⅱマカベア2・15、12、同エズラ記「ラテン語」2・18）。

△そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」△。この答は正しい。イエスは命無き偶像とは違つて△生ける△お方であり、天から降つて来られた△神の子キリスト△である。

## 二、教会の土台は信仰告白である

この答えを聞いて、△イエスは彼にむかつて言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたはこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」△。漁師であるヨハネの子シモンは「無学な、ただの人」（使徒4・13）であるが、神が啓示によつて彼に真理を悟らせなさつたのである（1コリント12・3）。

イエスは言われた、△そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない△。△ペテロ△と△岩△（ペトラ）は掛け言葉である。ペテロは12使徒の代表として信仰を告白した。教会の土台は使徒伝来の正統的信仰告白である（エペソ2・20）。

## 三、主が教会を建て上げられる

主イエスは明確な目的意識と目標をもつて宣教

を進め、弟子を訓練された。その目的・目標とは△わたしの教会△を建て上げることである。△教会△の原語「エクレシア」は70人訳聖書でヘブライ語聖書の「カーハール」（イスラエルの民の集まり）の訳語として使用されたギリシア語である。

すなわち、選民イスラエルに代わる新しい神の民の集団をイエスは形成しようとしたのである（ガラテヤ6・16）。教会は主イエスのものであり、イエスご自身が今も教会を建て上げておられる。

イエスはペテロに△天国のかぎ△を授けられた。彼はその鍵を用いて宣教の扉を開いた（使徒2・41、10・48）。ただし、この鍵は教会に授けられたものであり、ペテロ個人の所有ではない（18・18）。主は△あなたが地上でつなぐことは、天でもつなされ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう△と言われた。教会は地上において天国を代表する公的機関である。その権能は大きい。死んで復活されたイエスは黄泉を征服された（1ペテロ3・19、エペソ4・8、コロサイ2・15、黙示録1・18）。教会は△天国のかぎ△を用いて、悪魔の砦である黄泉の△力△（直訳は「門」複数形）から人々を解放し、神の国に移し入れなければならない。宣教は霊的救出戦なのである。

## 結論

ローマ・カトリック教会の迫害を恐れずに宗教改革者たちは命をかけて信仰を告白した。日本でも国家や隣人の迫害に屈せず信仰を守り通した聖徒たちがいた。私たちも主の助けにより信仰を告白し、堅固な教会を建て上げ、救霊戦を続けよう。

## 研究資料

(足立)

イエスがメシアであるとペテロが告白したこの箇所は、本福音書において4・17から始まつたガリラヤ宣教という長いセクションのクライマックスを形成している。この箇所は一貫してイエスが13節で発した問いかけに答える形で進んでいる。マタイは本福音書の最初の部分（1・1〜4・16）で既にイエスこそが神の目的を成就するために来られたお方であると明記しているのだが、16・13〜17・21では弟子たちが信仰告白に導かれたこととともに、まだ彼らの理解も働きも十分ではないことを記している。

## テキスト

13 **ピリポ・カイザリヤ** はガリラヤの高台にあり、本来の町の名は「パニアス」と言った。この町はギリシャの神パン礼拝の中心地であり、ここをローマ皇帝アウグストより与えられたヘロデ大王は、ここに皇帝崇拝の神殿を建てた。マタイは、なぜイエスと彼の弟子たちがここに行ったかを読者に伝えていないが、異邦人伝道を彼らに予知させるためであつたのだろう。そしてこのような地でイエスは弟子たちに、**人々は人の子を誰と言っているか**、と尋ねられた。これはイエスの情報収集のためではなく、既にある誤つた考えを正すためであつた。

14 弟子たちが報告したすべての意見には敬意が込められ、イエスの人気がなお根強いことを表している。群衆は神に対するある種のスポークスマンとして彼を見ている。ヘロデ・アンテパスはイ

エスを **バプテスマのヨハネ** のよみがえりではないかと恐れていた（参照14・1〜12）。旧約預言者のメシヤ先駆者として **エリヤ** と見なす者もいた。△エレミヤ△の再来と見なす者もいた。それはイエスがさばきと悔い改めのメッセージを語り、自国の指導者たちによつて広く拒絶される姿をみとつていたのである。預言者への言及から、人々の心に申命記18・15〜18のような言葉が意識されていたことがわかる。しかしいづれの見解もキリストには不適切であつた。

15 イエスは弟子たちから彼らの応答を引き出す。ここで **あなたがたは** が強調されている。また13節にある **人の子** が、イエスの使つた **わたし** という言葉で明らかにされている。弟子たちはすべてを捨ててイエスに従つてきた。またイエスと一定の時間を過ごしてきた。彼らはイエスが成したことを見て、彼が教えた事柄を聞いてきた。これらすべての光の中で、弟子たちはイエスをどう見たのか？

16 ペテロは12弟子を代表して答えた。 **あなたこそ、生ける神の子キリストです** 直訳すれば、「あなたはキリストです。生ける神の御子」となる。彼のこの告白は、人々が理解したものとは決定的に異なっている。すなわちここでイエスは、終わりの時代に頭角を現した預言者の一人としてではなく、まさに来たるべきメシヤとして位置づけられている。そしてイエスこそ救い主の時代をもたらし、既存の秩序を全くつくりかえるお方としてペテロは理解している。キリストは油注がれたお方を意味する。またイエスは神の御子として父なる神と特別な関係にある。 **生ける神** とは、ピリポ・カイザリヤ地方の生きていない神々に対して、ほ

んという唯一なる神を表現している。

17 イエスはペテロに、**あなたはさいわいである** と言われた。この「さいわい」ということは、神にある至福を意味する（参照5・3）。つまり世俗的な幸せではなく、聖なる喜びを意味する。事実ペテロの告白は真理である。但しイエスはペテロの告白が人間の努力や理解力によつて成されたものではないことを断言している。△血肉△とは人間の力の表現（参照ガラテヤ1・16）。**あなたがこの事をあらわしたのは、天にいますわたしの父である** 父なる神がペテロに、イエスが御子であることを啓示された。「あらわした」という動詞は、行動の主体者である神が終末的な知識を分け与えるという言外の意味を内包している（参照11・25、27）。つまり聖なる啓示は、イエスに関するこの結論をペテロや他の弟子たちにもたらしたみわざであつた。

18 今度はイエスがシモンを **あなたはペテロである** と語つた。**わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう**。「ペテロ」（ペトゥロス）と「岩」（ペトラ）は掛詞になつていて、この告白の直後（23節）ペテロは失敗しているし、18・18では「天国のかぎ」の約束が他の弟子たちにも与えられていない。ここでイエスは、弟子たちを代表してキリストを告白したペテロの信仰告白の上に「自分の教会を建てると言つておられる」と考えられる。参考図書 内田和彦『マタイの福音書』実用聖書註解』いのちのことば社・Blomberg, C. L., Matthew (Broadman) France, R. T., MATTHEW (VP), Hagner, D. A., Matthew 24-28 (Word), Morris, L., The Gospel According to Matthew (Eerdmans),



聖書 マタイ 16:13-20  
タイトル わたしは誰でしょう？  
暗唱聖句 あなたこそ、生ける神の子キリストです。 マタイ 16:16  
目標 ペテロの告白を私のものとして告白する。

## 導人

(小野)

私、夏とか、春は大好きなんだけど、秋はねえ、何となく、涼しくなるのはいいけど、さびしい感じがしてくるし、心も何だか沈みそうだなあと思う。お友だちがいますか？ そんな私たちの心も足もすっかりと固めてもらって実り多い秋にしたい。だましよう。今日はそのように生きられるための大切な信仰の告白について学びます。今日は、イエス様が私たちに質問されます。「わたしは誰でしょう？」「あなただっただろうか？」と。まず弟子たちや、その頃の人々がどうだったか見てみましょう。

## そうではありません

ピリポ・カイザリヤの地方とは、ガリラヤ湖の北にある高い山、ヘルモン山の南のふもとあたりです。そこからヨルダン川が流れはじめるというヨルダン川の源でした。イエス様はお弟子さんたちに次のように尋ねました。「人々は人の子をだれと言っているか」と。弟子たちは人々がいろんなことを言っているの思い出して次々に答えました。「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています」。特にガリラヤの領主ヘロデ・アンテパスは

イエス様のうわさを聞いて、あれはバプテスマのヨハネが死人の中からよみがえったにちがいない、と思い、恐れていたのです。でも、ちがいます。バプテスマのヨハネはヘロデによって首を切られて死んでしまいました。「ほかの人たちは、エリヤだと言ひ、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。たしかに驚くような奇跡、エリヤがしたような奇跡もなさるし、エレミヤのように同情と憐みに満ちているし、でもエリヤは九百年くらい前に火の車で天に帰ったし、エレミヤも五百年くらい前にエジプトで死んでしまっています。じゃ、別の預言者ですか？ それではありません。今の人々だったら、イエス・キリストも、お釈迦様や、マホメッドや、他の偉い人々の中のひとりと同じじゃないのと言う人もあるかもしれません。そうではありません！

## そのとおりです

イエス様は、弟子たちがどのように話すのをじつと黙って聞いておられましたが、今度はまっすぐに弟子たちに向かつて尋ねられました。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」と。弟子たちはお互いに顔を見合わせたかもしれないですね。その時です、リーダー格のシモン・ペテロがはつきりと答えて言いました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。すると急にイエス様の顔がうれしそうに輝いたお顔になり、「そのとおりです、バルヨナ・シモン、あなたは何とさいわいの人か。この立派な答をあなたにさせてくださったのは、人々ではなくて、天におられるわたしの父だよ」とおっしゃってくださいました。そして素晴らしい約束をしてくださいます。

す。「あなたはペテロ(磐石)だよ、そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことは決してないんだよ」と。この岩とは、ペテロが告白した立派な信仰告白のことをさしているのです。すなわち、「わたしは誰でしょう？」とのイエス様の質問に対して、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」との信仰告白です。

イエス様は偉い人々の中のひとりではありません。神の子キリストです。神様のひとり子であり、油そそがれたメシヤ、救い主なのです。そして生きておられる神様なのです。今月ずっと見てきたように、自然界も、霊界も支配され、病氣も癒され、死人だって生きかえらせた、すべてのものの支配者です。

教会とは、このこと、つまりイエス様が「生ける神の子キリストである」と信じて告白する人たちの集まりです。この告白の上にイエス様は「わたしの教会を建てよう」と言ってくださいます。さらにペテロに、そして教会に「天国の鍵を授けよう」と言ってくださいます。この鍵は地上のどの鍵屋さんに行っても買えない最高の鍵です。教会は、そして教会に集まるひとり一人のクリスチャンはこの天国の鍵を与えられているのです。なんてすごいことでしょうか。イエス様が、生きておられる神の子キリスト、救い主と信じて告白する、この信仰告白の鍵だけが、天国への門を開いてくれるのです。力強いですね。

さあ、今日、今、そしてこれからもずっと毎日、一生涯、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信じて告白しつづけて、天国の力を地上で見せていただき、最後には永遠に天国で過ごしましょう。♪イエスさまにまさる♪

(ホーリネスこどもさんびか65番)

## ワーク A

## 話し方のヒント

イエス様が皆さんに「私は誰でしょう？」と質問されたら何と答えますか？ どんな病氣も治す力を持つているおじさんですか？ 神様の事をたくさん知っている賢い人ですか？ ペテロは「あなたこそ、生ける神の子、キリストです」と答えました。イエス様はただのすばらしい人ではなく、神様なのです。教会は、「イエス様は今も生きておられる神様です」と信じる人たちの集まる所です。私たち「あなたこそ、生ける神の子、キリストです」と、イエス様のことを告白しましょう。

## ワークについて

「あなたこそ、キリストです」と告白しながら、カードを開きましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 人々はイエス様のことを、バプテスマのヨハネだとか、エリヤ、エレミヤだと言っていました。しかし、シモン・ペテロは「生ける神の子キリストです」と告白しました。この信仰告白は教会の土台です。

●質問3 今日、私たちも、「イエス様が生ける神の子キリストです」と信仰告白をして、しっかりと教会につながり、どんなことにもめげずに、天国を目指して歩みましょう。

## ワーク C

## み言葉を覚えてから書き入れます。

●第2問 聖書を読んで質問に答えます。

## 第3問

①今月いろいろなイエス様の姿を学びました(自然界の支配者、生と死の支配者など)。ここでは、生徒とイエス様の個人的な関係について考えるように導いてください。自由に発言できるようにし、肯定も否定もできるだけ避けて、次の質問につなげます。

②無理に答えを導くのではなく、生徒の思いを正直に表してもらいます。信仰の状態が明らかにになりますので、それぞれの信仰の段階にあわせて、祈りをささげましょう。

## ワーク D

●2は、イエス様が弟子たちに尋ねられた質問を、子どもたちに投げかけています。聖霊によらなければ、あるいは天の父なる神様が示してください。なければ、ペテロと同じ信仰告白には至りません。答えを無理強いしないようにしましょう。

●私たちはよほど信頼出来る人にしか家の鍵を渡しません。この信仰告白によって、イエス様が天国の鍵を与えてくださるとは、何という信頼でしょうか。この信仰告白をイエス様がどれだけ重んじておられるかがわかります。

## 中高校へのヒント

## 話し合ってみよう

1 「別に」「ビミョー(微妙)」と自分の意志をあいまいにすることはありませんか。しかし、はつきりしなければならぬ時があるとは思いませんか。↓人生の大事な決断。

2 聖書が良く分からない時は、教会でしっかりと聖書を学びましょう。しかし、信仰の決断の時はずっとあります。時を逃さないように(Ⅱコリント6・2)。

## 考えてみよう

1 人の意見に左右されますか。主イエス様について世の中ではいろいろなことを言う人がいます(13節)。↓学校の友だちは信じない人、無関心な人の方が多いのではないのでしょうか。

2 「あなたがたはわたしをだれと言うか」と主イエス様はあなたに問うています。↓その時に、人の意見や自分の答えをあいまいにしてはいけません。人生にとって最も大事な質問です。

3 「あなたこそ、生ける神の子キリストです」とはどういう意味ですか。↓主イエス様は神様であり、私のキリスト(救い主)という意味です。

## 自分に当てはめてみよう

1 主イエス様をまだ信じていない人は、今日ペテロのように、主イエス様に信仰告白をしませんか。

2 信じている人は、再確認し、確信しましょう。



聖書 マタイ16・21～28  
テーマ 十字架を負う

## 序論

(金井)

先月は主イエスが天地万物の支配者、キリスト、教会の主であることを学んだ。今月は主イエスが「神のしもべ」として仕えられたことを学ぼう。

## 一、十字架の予告

ペテロが信仰を告白し、祝福を受けた。この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。この時から……はじめられた。という構文は本書の内容を大きく区切るものである(4・17)。これまでイエスは広く群衆に宣教されたが、この後は、「自分がキリストであることをだれにも言うてはいけな」と、弟子たちを戒め(20)、受難を予告して、エルサレムに向かわれるのである。主イエスはエルサレムで長老、祭司長、律法学者たちとすなわち最高議会の議員たちによって捕らえられ、不当な裁きを受けて処刑されることを予知し、覚悟しておられた。「主のしもべ」であるイエスの死は、人類の罪を贖うために父なる神が計画されたことである(イザヤ53章)。

## 二、十字架の道

この時、弟子たちはまだイエスの使命について十分に理解していなかった。ペテロはイエスを

わきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。へとんでもないことです」という文は直訳すれば「神の御恵みがありますように」(新改訳)である。これは師の身を案じて言っているようであるが、イエスはペテロを厳しく叱責された、サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。サタンは何とかして主イエスの贖罪を阻もうとしている(4・8～9)。

イエスにとつてもこの死は、父なる神から断絶されて黄泉に落とされる恐るべき経験であり、できることなら避けたいものであった(26・39)。しかし、主イエスは断固として、ペテロの口を通して語りかけるサタンの誘惑を退けられたのである。つい先ほど、天の父の啓示によって信仰を告白したペテロが、今はサタンの手先となっている。『邪魔』の原語には「つまずかせる岩」という意味がある。教会の礎石となるべき使徒でさえこの有様である。肉の人は不確かで頼りにならない。そこで、イエスは真の弟子の道を教えられた。へだれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。まだ弟子たちは群衆同様、メシヤはイスラエルの民を政治的軍事的にローマ帝国から解放する者だと思っていた。ところが、ローマの刑具である十字架がイエスの弟子の必然だと言っているのである。これは彼らには実に厳しいものであった。実際、イエスが十字架の横木を背負って、縦木の立つゴルゴタの丘へと歩まれた時、

彼らはイエスを見捨てて逃げ去っていた(26・56)。

## 三、十字架の報い

自分を捨てて自己否定の道は容易いものではない。自己実現を追求する現代人においてはなおさらである。しかし、主が言われたへわたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。という法則は真実である。神のミッションを果たす時に人は自らの絶対的な存在意義を確信し、永遠の喜びを得るのである。自分を捨てることのできるのは、キリストが命をかけて愛してくださった自己存在の尊さを知り、献げるべき自我が確立しているからである(ガラテヤ2・20)。

十字架は決して敗北ではない。イエスは死によって人類の罪を贖い、サタンを無力化し、主を信じる者に永遠の命と天国の国籍をお与えになったのである。主を信じる者はへ死を味わわない者とされている。ローマ帝国を征服しても、へ全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になるのか。主イエスは約束された、へ人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう。十字架の道を歩む者には、大きな報いが用意されているのである。

## 結論

キリスト者の地上生涯は十字架を負う道である。これは決して安易な道ではない。しかし、この道のゴールに復活の栄光がある。最後まで主に従おう。「十字架無しに栄冠は無い」(カルヴァン)。

## 研究資料

(足立)

ペテロはイエスがメシヤ(救い主)であることを見事に告白した(16・17)が、彼の思いと主イエスの進むべき道は全く異なっていた。ペテロは弟子集団のリーダーではあるが、この時点でイエスの宣教の本質を理解していない。また主の弟子であると言うことは、イエスのために苦しみを共有する覚悟が求められる。既に派遣の説教と言及(10・38～39)されているように、主の弟子は自分の十字架を負うことが求められている。主の受難に関しては、これ以降予告が繰り返されている。

## テキスト

21 この時から……示しはじめられた イエスが地上に來られた目的は既に暗示されていた(9・15、10・38)が、ここで主は率直に語っている。イエスにとつて苦難は救い主としての本質であり、この点は繰り返されている(参照、17・9、12、22、23、20・18～19、28、21・38～39、26・2)。弟子たちはこのことをしっかりと受けとめる必要があった。今までイエスはガリラヤ伝道に従事してきたが、これからは聖なる必然としてイスラエルの首都エルサレムに行かなければならない(参照、23・37、ルカ13・33～34)。その詳細には触れていないが、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けることが特筆されている。これはユダヤ人の最高立法機関を意味すると考えられる。イエスが主張する内容は、この国の最高法廷が彼に苦しみを与えると言うこと。しかも殺されることが予告されている。しかし三回目の復活が予告

されている。よみがえるべき」と言う動詞は受動態で記されているので、神がよみがえらせると言うニュアンスがある。

22 イエスが述べたことは、ペテロには十分理解されなかった。イエスのメシヤ性は、彼が提示した計画以外に成就する道はない。しかしペテロと他の弟子たちにとつて、イエスが語り始めた内容は受け入れられないものと思えた(参照1コリント1・23)。ここに弟子たちの無理解がある。性格上ペテロは他の弟子たちの反応も代弁しているかのようである。ペテロはイエスをわきへ引き寄せてこれは親しみを込めた態度を意味する。いさめはじめ、ペテロは、主が成すべき事をイエス以上に自分が知っていると決めてかかっている。彼はイエスが言ったことを受け入れていないし、その内容に対して大胆にもイエスを批判している。主よとは呼びかけとして敬意を表すことではある。とんでもないことですとは、神があわれんで、そんなひどい目に遭わせないようにという意味。ペテロの発言には、イエスのことばに対する強い否定の響きがある。そんなことがあるはずはございません。原文では二重否定で高度の強調を意味する。ペテロには救い主であることと苦難が結びつかず、彼は善意から忠告した。

23 ペテロの反応に対するイエスのこの厳しい応答を伝えている福音記者はマタイだけだが、ペテロがうるたえ、圧倒されたのは明らかだろう。イエスの死に反対することにより、ペテロは神の御心に敵対し、不本意ながらサタンと立場を同じくすることになった。サタンはイエスの公生涯の初期に父なる神の御意志から彼をそらせようと企

てた(参照4・1～11)。この理由からイエスはペテロを「サタン」と称し語った。つまりペテロの応答はサタンに導かれたかのようなものであった。サタンよ、引き下げられ4・10にある表現とほとんど同じである。「石」(16・17)であるペテロは、イエスに対してさまたげの石、つまずきの岩(イザヤ8・14)となってしまった。ペテロの誤りの本質は、神のことを思わないで、人のことを思っていた彼の心にあった(参照コロサイ3・2)。ペテロの焦点、また他の弟子たちのそれ(参照20・21)は、メシヤの大勝利の側面、また御国そのものに置かれていた。ペテロが神のみこころを切望するなら、必然的にイエスの苦難と死に自分の心を開く必要があった。

24～26 これらのみことばは10・38～39にある内容を掘り下げている。苦難と死は救い主イエスに関する問題だけではなく、イエスの弟子になろうとする者も覚悟しなければならない。当時死刑の宣告を受けた囚人は、刑場まで十字架の横木を負っていかねばならなかった。したがって、自分の十字架を負うとは、困難なことを運命として受けとめると言うより、死の宣告を受けた者の立場に立つことを選ぶこと。つまり自分を捨てる選択をする。自分に死んでイエスに従う者は、キリストのいのちが与えられていることに気づく。

参考図書 内田和彦「マタイの福音書」『実用聖書註解』いのちのことば社、Blomberg, C. L., Matthew (Broadman) France, R. T., MATTHEW (VP), Hagner, D. A., Matthew 4-28 (Word), Morris, L., The Gospel According to Matthew (Eerdmans).







聖書 マタイ17・1～8  
テーマ イエスの変貌

## 序論

(金井)

イエスが行われた数々のしるしを見て、弟子たちは信仰を告白するに至った。だがなお、彼らのキリスト理解は世的で、甚だ不十分であった。そこでイエスはご自身の本来の姿を彼らに見せることとされた。今日のテキストは山上の変貌である。

## 一、イエスの栄光

イエスが受難を予告されてから六日ののち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。この三人はイエスの証人として選ばれた内弟子である(26・37)。この山については諸説あるが、それは重要な問題ではない。ここで起こることは地上の次元ではなく、天上の次元に属する事柄だからである。

イエスが山に登られたのは「祈るため」であった(ルカ9・28)。山上において、イエスが祈っている間、弟子たちは熟睡していたが、彼らが目を覚ますと、イエスは変貌された。彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。太陽のような強い輝きはイエスの神としての栄光である(使徒26・13、黙示録1・16)。真白な衣は天上に住む者の特徴である(28・3、マルコ9・3、ダニエル7・9)。△変り▽と訳される語は外見だけでなく、内実を含む変容を意味する。キリストを地上的な次元で理解し、政治的・軍事的な解放を期待した

弟子たちに対して、イエスは天上の次元におけるご自身の栄光の姿を提示されたのである。これは幻ではなく、△彼らの目の前で▽起こった現実の出来事であった。

## 二、イエスの使命

△すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。モーセはイスラエルの民をエジプトから解放し、神から律法を受けて民を導いた偉大な指導者であり、エリヤはイスラエルの代表的な預言者である。この二人は旧約聖書を代表する。彼らはイエスと、「イエスがエルサレムで遂げようとする最期のことについて話していた」(ルカ9・31)。イエスはまさに旧約聖書が預言するメシヤ(キリスト)としての使命を果たすために、天上の栄光を捨てて地上に降り、エルサレムで十字架架刑に処されて死ぬのである。しかし、ペテロは未だイエスの使命を悟らず、的外れなことを言った、△主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。もし、おさしつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。古代ユダヤには、大切な客のために天幕あるいは小屋を建て、もてなす習慣があった。ペテロはこの場にモーセとエリヤをとどめ、このすばらしい体験を持続したいと願ったのである。

△彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心になう

者である。これに聞け」▽。△輝く雲▽は神の臨在を表す(出エジプト40・34)。父なる神はイエスの受洗時と同じ言葉をもって(3・17)、イエスが御心によって世に遣わされた御子であることを宣言された。そして、△これに聞け▽と加えられた。弟子たちは人間的な浅知恵や欲望を捨てて、イエスの言葉にまっすぐに従うべきなのである。

△弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。人には弁えるべきそれぞれの分がある。神が主権によって定め、進めておられる計画に、人が割って入ることは許されない。

## 三、イエスの臨在

△イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて言われた、「起きなさい、恐れることはない」。彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。モーセとエリヤは去った。偉大な預言者も神の歴史計画においては脇役に過ぎない。残るは主役イエスのみである。この後、イエスは受難と復活によって旧約の預言を成就し、人類を救う贖いの業を完成されるのである(マタイ5・17、26・54、ルカ24・27、44、ヨハネ5・39)。

## 結論

世には様々なイエス論があるが、劣悪なものが少なくない。私たちは地上の次元ではなく、聖書が教える天上の次元においてイエス・キリストを理解したい。イエスは今も私たちの内に臨在し、「恐れることはない」と言って、御手を伸べてくださる。ただ主イエスを見つめ、従っていこう。

## 研究資料

(足立)

この出来事はヨハネ伝にはないが、マタイ、マルコ、ルカの三福音書すべてに記されている(マルコ9・2～8、ルカ9・28～36)。各著者はすべてイエスの変貌に中心的真理をおいている。そして天の栄光が現された束の間にペテロ、ヤコブ、ヨハネは変貌されたイエスを見た。イエスは十字架にかかることを教えた後、弟子たちに何らかの励ましを与えようとしたのかも知れない。しかしこの出来事はイエスご自身にとっても意味深いものであった。やがてイエスが直面する苦難と死に彼自身言及している(17・12)し、天の父はイエスが成し遂げようとすることを喜び、父の視点から彼に保証を与えている(17・5)。

また弟子たちのイエスへの告白(16・16)には嘘偽りはないが、中身が問題である。彼らは苦難の僕としてのメシヤに心の目が開かれていない。イエスが約束された苦しみは、神が計画されたものであるから、必ず起こる。ユダヤ国家の土台的人物であるモーセと終末の預言者エリヤは、イエスを証しし、彼に従属している。

## テキスト

1 六日のち これは16・13～28にある前述の場面とこの出来事との継続性を強調している。またおそらく出エジプト24・15～18にあるモーセの山での経験を追隨しているであろう。ペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネこの3人が特にイエスのそばにいたことは聖書の言及からわかる(マル

コ1・29、5・37、9・2、14・33)。高い山に登られたとあるが、タボル山か、ヘルモン山か、カルメル山か、福音書記者たちは言及していない。彼らにとつてはどこで起こったかが最重要ではなく、何が起こったかが最も大切なこと。ピリポ・カイザリヤという地名(マタイ16・13、マルコ8・27)、また高い山(マタイ17・1、マルコ9・2)という記録からヘルモン山の可能性が高い。

2 イエスは弟子たちの目の前で変貌された。モーセの顔の輝きが連想される(出エジプト34・30)。しかしイエスはモーセ以上のお方(参照Ⅱコリント3・7～18)。モーセの輝きは外側からのもの。イエスの輝きは、人の子の栄光である。

3 律法を与えた旧約の指導者モーセ(ヨハネ1・17)と、旧約預言者を代表するエリヤの登場(参照ルカ16・29、31、24・27)。旧約聖書においてこの二人だけが、神が自分の前を通り過ぎるのを見ている。従ってイエスこそ旧約を成就される方であり、神の顕現そのものという示唆があるのかもしれない。

4 わたしはここに小屋を三つ建てましょうとは、ペテロが仮庵の祭りを想起したのであろう(参照レビ23・33～43、出エジプト23・16、34・22、申命16・13～16)。しかし実際ペテロは自分のいつている意味がわかっていなかった。イエスの栄光を見て感動した彼のとっさの思いつきであろう。イエスはモーセ、エリヤと同等ではない。イエスは栄光の主であり、二人は贖われた被造物。

5 輝く雲が彼らをおおいは、神の聖なる臨在のしるし(参照出エジプト16・10、19・9、24・

15～18、33・9～11、40・34、Ⅱサムエル22・12、Ⅰ列王8・10～11、エゼキエル10・3～4、詩篇18・11)。これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である」とあるが、イエスの受洗に際して天から臨んだことは全く同じ(3・17)。ここでは弟子たちに聞かせるため。これに聞けとは、イエスこそ律法と預言者に代表される旧約の成就であり、私たちが唯一聞かなければならないお方を指し示す。特に受難予告によって困惑していた弟子たちに、イエスが苦難にあつても救い主であることに変わりはなく、彼に聞き従うようにと命じるもの。

6 マタイはその声を聞いたとき、弟子たちは非常に恐れ、顔を地に伏せたことを記している。身を伏せることは、神の前で低い姿勢を取ること、或いは偉大な人物の前での場合、特徴的に使われた。それは謙遜と献身のしるしであった。三人の弟子たちにとつては徹底して畏敬の念を持つ経験となっていた。

7 弟子たちの山の上での経験は疑いなく素晴らしいものではあったが、恐れを覚える側面も含んでいた。イエスは彼らの恐れを取り除く。

8 イエスのほかには、だれも見えなかった弟子たちには誰も見えなかったが、イエスだけが見えた。モーセとエリヤは最早そこに見られない。

参考文献 内田和彦「マタイの福音書」『実用聖書註解』いのちの社・Blomberg, C.L., Matthew (Broadman) France, R.T., MATTHEW (VP), Hagner, D.A., Matthew 4-28 (Word), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans).

聖書 マタイ17・1～8  
タイトル イエスの変身

暗唱聖句

彼らが目をあげると、イエスのほかに、だれも見えなかった。

目標

僕でありながら栄光の主なるイエスの姿を見つづる。

導入

(山田)

ウルトラマンや仮面ライダーって知っていますか？ ジャステイライザーもありますね。

人間から変身した主人公が、ウルトラマンや仮面ライダーになって悪者と戦うテレビ番組です。主人公が変身したときは、人間の姿とぜんぜん違っています。そして変身した姿を仲間にはなかなか気づかなかつたりします。

さて、今日はイエス様の変身したお話です。

### イエス様の変身

ある日、イエス様はお弟子さんのペテロ、ヤコブ、ヨハネさんの三人と一緒に祈りをするために(ルカ9・28)高い山に登りました。イエス様がお祈りをしている間、三人のお弟子さんたちはすっかり眠ってしまいました。三人が目覚めると大変です。自分たちの見ている前でイエス様の姿が変わり、その顔は太陽のように輝き、着ている上着が光のように白くなりました。今まで一緒にいたイエス様とはぜんぜん違う、今まで見たこともない姿のイエス様に変身したのです。

このイエス様の姿は神の子の本当の姿でした。そして、それはお弟子さんの三人が見たこともないイエス様だったのでした。

### イエス様のお仕事・使命

それからもつとびっくりすることが起きました。旧約聖書に出てくるモーセさんとエリヤさんが、イエス様と話しています。その話というのはこれからイエス様がエルサレムで十字架に架かる(ルカ9・31)ということでした。

イエス様の変身した姿を見ても、モーセやエリヤさんと話しているイエス様を見ても、ペテロさんにはイエス様のお仕事、使命が理解できません。そして、「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。もし、おさしつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」というトンチンカンなことを言っています。

昔のユダヤには、大切なお客様のため、テントのような天幕や小屋を建て、おもてなしをする習慣がありました。ペテロさんはモーセやエリヤさんに会えて感激して、いつまでも一緒にいたいと思ったのでしょうか。

でもペテロさんの話がまだ終わらないとき、輝く雲がイエス様たちを包みました。そして雲の中から「これはわたしの愛する子、わたしの心にかかる者である。これに聞け」という声がしました。天の父なる神様の声です。父なる神様はペテロさんたちにイエス様は自分が送った神の子だとい

ことを伝えたのです。

この言葉を聞いてとても恐れたペテロさんたちは、地面にひれ伏しました。イエス様はペテロさんたちに近づきました。そして手を置いて「起きなさい、恐れることはない」と言われます。目を上げると、もうイエス様のほかに誰も見えませんでした。

### まとめ

ペテロさんたちはイエス様の何を見ていたのでしょうか。病気を治したり、奇跡をするかっこいいイエス様しか見ていなかったのでしょうか。

イエス様は救い主です。すべての人の罪の身代わり十字架で殺されるという大切なお仕事をすするためこの世に来てくださいました。でも一緒にいたお弟子さんたちにはこのイエス様の大切なお仕事、使命が分かりませんでした。

神の子に変身したイエス様の本当の姿を見ても、お弟子さんたちの関心はモーセやエリヤさんのことでした。イエス様のことを見ていなかったのです。

私たちはどんなふうにイエス様のことを見ているのでしょうか。イエス様は私たちの罪を赦し、救うためにこの世に来てくださいました。十字架に架かり、死ぬために来てくださったイエス様の本当の目的を忘れないようにしましょう。よみがえってくださった神の子のイエス様を信じて歩みましょう。

♪主イエスとともに♪

(ふくいん子どもさんびか90)

## ワーク A

話し方のヒント

皆さんが想像するイエス様は、どのような姿ですか？ 背は高いですか？ 太つていますか？ イエス様の姿は普通の人間の男の人と変わりませんでしたが、しかし、弟子たちと山に登ってお祈りしている時、イエス様の顔は太陽のように、服は光のように、真っ白に輝きました。この姿が人間ではない、神様であるイエス様の本当の姿でした。イエス様は十字架にかかれ死なれましたが、よみがえられた神様です。このイエス様を信じましょう。

ワークについて

神様はだれのことを、「これはわたしの愛する子」と言われたのでしょうか？

## ワーク B

質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。

質問2 これはイエス様が、神様としてのみ姿を現わされた時です。ペテロは、このときの経験を忘れることができませんでした(Ⅱペテロ1:16～18)。今、目に見ることはできませんが、栄光の主を信仰の目で仰ぎ、拝しながら歩んでゆくことが大切です。

質問3 「これに聞け」と神様が言われたように、他のものに目を奪われることなく、私たちの救い主であるイエス様を仰ぎ、御声に聞き従うように導きましょう。

## ワーク C

十一月十三日「イエス様ってどんな方？」

●本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 イエス様をどう理解しているかということは大変なことです。人によって色々の理解があり、又、信仰が進むにしたがってイエス様が「救い主」「神様」であることに眼が開かれていきます。ここでは、「A弟子たち」「B人々」「C救い主の仕事」「D神様の性質」という4つの段階でのイエス様をどう理解しているかを調べます。答えは、Aが「④、⑤、⑦」、Bが「⑨、⑩、⑪、⑫」、Cが「①、④、⑤、⑦」、Dが「②、③、⑥、⑧、⑬」です。

●第3問 第2問の中で自分がはつきりと理解しているものに○をし、どのように知っているかを話し合います。

## ワーク D

●1の②の答えは一つです。③の答えは複数あるかも知れません。

●今日の聖書の箇所には弟子たちのイエス様に対する思いが、あらゆる角度から表れています。

2は五つの項目を通して弟子たちがどんな人たちだったかを考えてみます。

●私たちも教会に通い、聖書を読み、イエス様と共に歩みながら、イエス様のことがよくわからず、イエス様よりも他の人に関心を持っていけないでしょうか。弟子たちの姿を見ることで、自分の心もさぐられます。

## 中高科へのヒント

話し合ってみよう

1 その人のほんとうの姿はなかなかわかりません。人の隠れている部分が見えるとうとうですか。↓がっかりすることが多いようです。

2 主イエス様のほんとうの姿は、どんな姿でしょうか。↓本日の聖書箇所

●考えてみよう

1 主イエス様の姿が光り輝きました。ただピカピカ光っただけでしょうか。↓主イエス様本来の栄光の姿に輝いておられた。

2 モーセとエリヤが登場しました。幽霊でしょうか。↓旧約聖書を代表する人物です(研究資料参照)。

3 神秘的なすばらしい光景です。ペテロはこの場面をとどめておきたかったのです。しかし、もっと大事なことは何ですか。↓主イエス様に従うこと(5節)

4 主イエス様とモーセとエリヤは何を話していたのでしょうか。↓十字架のこと(ルカ9・31)。

●自分に当てはめよう

1 主イエス様は神の栄光に輝くお方であるのに、人となり、十字架にまでついてくださった。私たちも表面的な「かっこよさ」や「はなやかさ」を求めているのではなく、神の言葉に聞き従うことが大切です。主イエス様を見失わないようにしましょう。





聖書 詩篇104・1～15  
テーマ 収穫の喜び  
(収穫感謝)

## 序論

(金井)

現在の収穫感謝祭は17世紀にアメリカ大陸に渡った清教徒が始めたものであるが、収穫を祝い、神に感謝する祭りは旧約時代から行われている(出エジプト23・16)。今日は、天地を支配し、私たちに養ってくださる神の恵みを学ぼう。

## 一、主の大きな栄光

詩篇第104篇は、**「わがたましいよ、主をほめよ」**という言葉で始まり、終わる。これは「創造のわざについての神賛美」である(ルター)。全体の構成を見ると、2～4節が天空の秩序、5～18節が地上の秩序、19～23節が時間の秩序、25～26節が海洋の秩序、27～30節が生命の秩序となっており、美しい絵画的表現が印象的である。

主は天地を支配する王にふさわしく、**「誉と威厳とを着、光を衣のようにまと」**つておられる。神は「近づきたい光の中に住み、人間の中でだれも見つかることなく、見ることもできないかたである」が(1テモテ6・16)、私たちは被造物によって神の栄光を知ることができる(ローマ1・20)。

原初において、神は「光あれ」との一言で光とやみを分け、大空を造つてその上下に水を分け、陸と海とを分けられた(創世記1・2～10)。主は「天を幕のように張り」広げ、**「水に境を定めて、これを越えさせず、再び地をおおうことのないようにされた」**。△雲▽や△風▽は自由に大空を行

き交い、△火と炎▽すなわち雷光は神の威光を表す。「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす」のである(詩篇19・1)。

## 二、主の大きな知恵

地球は「奇跡の星」と言われるほど水が豊かで、生命力にあふれた惑星である。詩人は神が造られた水循環システムのすばらしさをたたえている。△あなたは泉を谷にわき出させ、それを山々の間に流れさせ、

野のもろもろの獣に飲ませられる。

野のろばもそのかわきをいやす。

空の鳥もそのほとりに住み、

こずえの間にさえずり歌う。

あなたはその高殿から

もろもろの山に水を注がれる。

地はあなたのみわざの実をもつて満たされる▽。

地球に豊かな生態系が存在するのは、この水循環システムのおかげである。あらゆる生物において体内に最も多く含まれている物質は水である。

人間の場合、体重の半分水分であり、毎日2～3リットルの水を必要としている。生物が生息する条件として水の供給は決定的な要素なのである。

この水循環のために地球に届く太陽エネルギーの4分の1が使われている。これは人類が1年間に使用しているエネルギー消費量の5千年分に相当する。日本は資源小国と言われるが、日本列島には年間約6千億トンもの降水がある。この豊かな水資源のおかげで、この狭い国土に多くの動植物が生息し、1億2千万の人々が暮らしている。

## 三、主の大きな慈愛

詩人は神に生かされている喜びを歌う。

△あなたは家畜のために草をはえさせ、

また人のためにその栽培する植物を与えて、

地から食物を出させられる。

すなわち人の心を喜ばすぶどう酒、

その顔をつややかにする油、

人の心を強くするパンなどである▽。

神は人間を創造された時に、「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう」と言われた(創世記1・29)。最初の人はエデンの園を管理し、そこにある豊富な果実を食べた(同2・15～16)。

食は生活の基本である。食文化を楽しむ、健康を増進することは良いことである。ただし、創造主への感謝と畏敬を忘れてはいけない。人間は地の主人ではなく、管理者に過ぎないからである(創世記1・28)。

## 結論

最近あなたは自然の景色を見て感動したことがあるだろうか。夏空に湧き立つ入道雲。夕陽に紅く染まる空。一葉一葉色を変える木洩れ日。野を飾る花々。黄金色に輝く稲穂の波。鮮やかに変わりゆく山の紅葉。はらはらと舞い降りる初雪。神は多くの恵みをもって私たちを慰め、楽しませてくださる。四季折々の美味しい食べ物も神の賜物である。空の鳥は神をたたえてさえずる(詩篇148・10)。私たちも声高らかに主に賛美を献げよう。

## 研究資料

(石田)

この詩篇は、大自然を創造され、愛と知恵と力をもって支えておられる創造主なる神を賛美している(同じモチーフとして8、19、29篇がある)。特に創造の秩序について強調されている。当然のことながら、汎神論的な宗教観にもとづく自然賛美とはずいぶん趣を異にする。神の創造を、大まかに創世記第1章の順序で謳い上げている。「創世記1章に、『神は見えて、よしとされた』とたびたび記されている。そして本篇においてわれらは神のみわざによって飽き足るべきことを知るのである」(『詩篇の霊的思想』バックストン著)。信仰者はこの詩篇によって、創造主に養われ生かされている恵みを覚え、主を賛美すべきである。また創造の美と秩序に比べて、人の心の歪みと汚れの現実が浮かび上がる。それゆえ「わたしの思いが主に喜ばれるように」と歌わざるを得なくなる(34)。そこで主の血潮はいつさいの罪と汚れをきよめ、主を賛美するに至らせる(35)。

## テキスト

1～4節までは、創造主の偉大さが自然を通して擬人的に表現されている。神が文字どおりのことをされているわけではない。

1 わがたましいよ、主をほめよ この冒頭の言葉が結語にも用いられている(最後は「主をほめたたえよ(ハレルヤー)」だが)。これは前の103篇と同様である。神賛美は礼拝や祈りや賛美の序曲としてふさわしい。誉と威厳とを著 大自然の美その

ものが創造主の衣であるという詩的な表現。実に全天地を統べ治める王たるお方の衣にふさわしい(21・5、93・1、96・6)。

2 光を衣のようにまとい「光あれ」という創世記の記述に対応している(1・3、1テモテ6・16)。天を幕のように張り 大空を造られたことを指している(創世記1・6、イザヤ40・22)。

3 水の上におのが高殿のうつばりを置き 大空の中に上と下の水を分けて造られたことに対応している(創世記1・7)。うつばり 梁のこと。雲をおのれの戦車とし 雲は大空の上の水を包み運ぶ戦車であるという暗喩(詩篇18・11)。風の翼に乗りあるき、風をおのれの使者とし… 風は「霊」とも訳せる。神が気象をご自分の意のままに動かされる様(詩篇18・10)。5～9節までは、陸地と海洋からなる地球表面の創造について記され、神への賛美が謳われている。

5 地をその基の上にすえて、とこしえに動くことのないようにされた これは陸地の創造を指している(創世記1・10)。

6、7 水はただえて山々の上を越えた。あなたがためによって水は退き 水が一ヶ所に集まって海を形成したこと(創世記1・10)。

9 水に境を定めて、これを越えさせず 陸も海も動くことなく、その境界線を神が堅く守っていて下さることは改めて感謝しなければならぬ。津波や温暖化による海面の上昇は今や人ごとではないからである(ヨブ38・10、11、箴言8・29)。再び地をおおうことのないようにされた ノアの洪

水後のことが暗示されている(創世記8・21)。10～18節までは、第4日を除く第3日から第6日までの創造のみわざが自由に謳い上げられている。

10 泉を谷にわき出させ エデンの園にわき出していた泉を思わせる(創世記2・6、イザヤ41・18)。10～13節は、水によって動物たちを養う神の恵みが謳われる。

11 野のもろもろの獣に飲ませられる 家畜ではなく野の獣に対する神の配慮(ヨブ39・5)。人の目に触れない所でも主のいつくしみは絶えることがない。

12 空の鳥もそのほとりに住み、こずえの間にさえずり歌う 鳥はだれに聞いてもらわなくても、ただ神に聞かせ、神を喜ばせるように歌う。被造物は、無意識の内に創造主をほめたたえている。

13 その高殿からもろもろの山に水を注がれ… 雨によってもたらされる地の産物の豊かさ。雨は自然に降ってくるものではなく、神が愛と知恵によって降らせてくださるもの。

14 家畜のために草をはえさせ 家畜に対する配慮は、すなわち人間へのそれに他ならない。人のためにその栽培する植物を与えて地から食物を出させられる 聖書は穀物や野菜を育てる人間の労苦を無視していないが(23)、実を結ばせてくださるのは神である(創世記1・29、詩篇127・1、2)。

15 人の心を喜ばすぶどう酒… 油… パン 人間の手による食品も、神の被造物に依存していることを思い起こさせ、へりくだらされる。

参考文献 『新聖書注解』、『新聖書講解シリーズ(詩篇)』、『実用聖書注解』など。



聖書 詩篇104・1～15

タイトル 豊かに与えてくださる神様

暗唱聖句 地はあなたのみわざの実をもって満たされる。 詩篇104・13

目標 収穫感謝礼拝の由来を知り、収穫を与えてくださる神を喜び感謝をささげる。

## 導入

(山田)

今朝みなさんは何を食べてきましたか。私たちは毎日、朝、昼、晩のご飯を食べますね。この一年間いろいろなものを食べました。私たちに食べ物を与えてくださるのは神様ですね。今日は一年間食べ物をくださった神様に感謝をする収穫感謝の日です。野菜やお米も種から育ちます。太陽も必要ですし、雨も大切です。農家の人は種を蒔き、芽が出て実がなる野菜やお米、果物などの世話を一生懸命します。そしてたくさん野菜やお米、果物を収穫します。日本では23日は勤労感謝の日になり祝日ですね。教会はアドベントに入る前の日曜日を収穫感謝の日として礼拝をします。

それは1620年、今から385年前のイギリスのクリスチャンの人たちから始まりました。熱心なクリスチャンたちは、メイフラワー号という船に乗り、聖書に従った自由な信仰を持つために新大陸のアメリカに行きました。でも、荒地を切り開いて畑にすることは大変なことでした。アメリカに來た半分の人は死んでしまいました。先住民(アメリ

カインディアン)の人たちに種を分けてもらい、作り方を教えてもらいました。そして一生懸命働いて次の年に野菜を収穫することができました。みんなで収穫を与えてくださった神様に感謝して礼拝をささげました。これが収穫感謝礼拝の由来です。

空気や水、太陽など、私たちの周りには神様がたくさんいるのが与えられています。命も与えてくださっている神様に心から感謝をしましょう。

## 天地、宇宙の造り主

創世記1章には神様がどうやってこの宇宙や地球、昼と夜、天と地、海と陸や植物、太陽と月と星、魚と鳥、動物と人間を造られたかが書かれています。すべてのものを神様は言葉によって造られました。神様の造られたすべてのものは大変すばらしくて、とても良いものでした。

創世記からもよく分かるように、私たちの信じる神様は、天地、宇宙の造り主、どんなことでもできるすばらしい神様です。

そのすばらしい神様に似せて私たち人間が造られました。造られた私たちは造り主である神様を心からほめたええます。

この詩篇を書いた人も心から神様のすばらしさを「わがたましいよ、主をほめよ」と賛美しています。

## 神様の知恵

私たちの体は「小宇宙」と言われます。体を見ると神様がどんなに知恵のある方がよく分かります。お父さんやお母さんからDNAという体の

設計図のような「遺伝子」をもらい、お母さんのお腹の中で大切に育てられ、生まれてきます。体の半分は水からできています。毎日2〜3リットルのたくさんの水が必要です。ケガをしても自然に治る力も与えられています。体のどこを見ても、神様の知恵のすごさが分かります。

## 豊かに与えてくださる神様

神様が人間を造られた時「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう」と言われました(創世記1・29)。そしてアダムとエバはエデンの園の木の実を食べて生きていました。

神様は私たちにもたくさん食べ物を与えてくださり、それを食べて生きることができるよう守ってくださいます。

## まとめ

時々私たちはわがままになって、食べ物の好き嫌いを言ってお母さんを困らせることがあります。強い体や心になるためには、好き嫌いをしないで何でも食べることが大切です。空気や水、太陽を使って食べ物を豊かに与えてくださる神様に心から感謝をしましょう。食事の時の祈りは心から感謝のお祈りになっているでしょうか。世界中には食べ物のない人たちがいることも忘れないで、その人たちのためにもお祈りしましょう。

(インマヌエル教会学校さんびか8)

## ワーク A

## 話し方のヒント

皆さんが毎日食べている野菜や果物、お米は誰が作ったか知っていますか？ 農家のおじさんでしょうか？ 人が作っているように思いますが、本当は神様が造ってくださっているのです。神様が雨を降らせ、太陽の光を送り、ちょうど良い温度を与えてくださるので、おいしい食物ができるのです。そして神様が造ってくださったものを食べて、私たちが元気に生きることができるようです。豊かに与えてくださる神様に感謝しましょう。

## ワークについて

私たちのまわりにある野菜・果物を思い出し、造ってくださった神様に感謝しましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。

●質問2 収穫に必要なものは、すべてが神様によって備えられたものです。全能の主をほめたたえ、神様の知恵と恵みを深く覚えて感謝しましょう。

●質問3 食事の時の祈りがとすると形式的になってしまいがちです。心から感謝をして祈るよう導きましょう。

## ワーク C

## 本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 神様が、私たち人間を養うために備えてくださっているものを、掲げています。この中で自分が生きていくのに必要なものに○をします。全ては相互に関係し依存しあっていますから、全部○でも良いですが、実感のわくものに○をし、話し合います。

●第3問 その中で特に私たちの食べ物(お米)に注目し、お米が育つのに必要なものを考えます。答えは(1)①種、②水、③太陽、④光、⑤熱、⑥空気、⑦土、です。(2)食べ物ができるのに必要なものは人間が作り出すのではないことを確認します。神様が、すべて自然の営みの中に備えてくださっていることをおぼえて感謝します。

## ワーク D

●詩篇104・15にあるように、食べ物人の心を喜ばせ、顔をつややかにし、心を強くします。

現代はビタミン剤など、サプリメントのみで、食事をとっている人もいます。それでは食物をとって生きるように造られた人間にとって、物足らず、消化器の機能も低くなってしまいうるです。

●神様は私たちに収穫を与え、食べる喜びを与えて生かしてくださっています。その神様への感謝と喜びがあふれる分級になればと思います。

## 中高科へのヒント

## 話し合ってみよう

1 コンビニに行けば、24時間、ほしい物を買求めることができます。たいへん便利ですが、災害などあれば、食料確保も困難になります。災害の備えも大切ですが、私たちは誰に命を支えてもらうのでしょうか。↓親、家族、ボランティア、政府、国連機関。これらの人だけではなく、天地万物を創造された神様です。

## ●考えてみよう

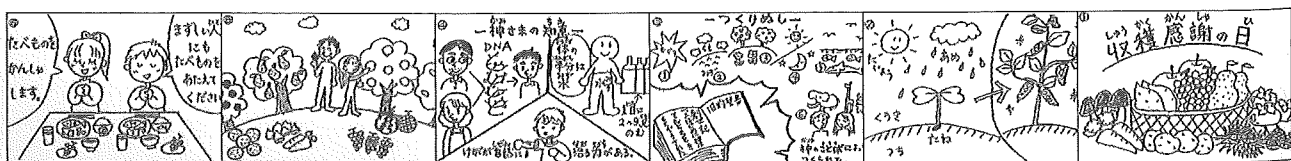
1 この世界は偶然にできたのでも進化したのでなく、神様がすばらしい世界を創造されたことが描写されています。その神様を賛美し、ほめたえる歌が詩篇104篇です。創造主である神様を信じないとうなりますか。↓自分勝手に生きてしまふ。食料や財産など自分の物と思い、独り占めしてしまふ。今の社会です。

2 私たちも、自分の生活のこと、将来のことなど考えると心細くなることはありませんか。↓あるけれども、私を創造し、愛してくださる神様は必ず守り、生きるのに必要な物は必ず与えてくださると確信することができます(13節)。

## ●自分に当てはめよう

1 「贅沢」「無駄遣い」「独占は神様の御心ではありません。生活を点検してみましょう。

2 神様への感謝がなければ、自分勝手な生き方になってしまいます。小さなことでも、神様への感謝を忘れないようにしましょう。



聖書 マタイ20・20～28  
テーマ 仕えるイエス

## 序論

(金井)

今週からアドベントである。神の僕として仕えるために来臨された主イエスのお姿を学びたい。イエスは山上で、弟子たちに天上の栄光をお見せになられた。それからすぐに主は彼らを連れて山を降りて行かれた。山麓に広がる世界は悪霊が暗躍し、民族、家柄、地位、権力、武力、財力、体力、知力、年齢、性別といった諸条件において、持てる者が持たざる者を支配する冷酷な階級社会である。その現実のただ中に神の御子イエスは降って来られ、自ら新しい人間の生き方を示されたのである。今日もイエスを見つめ、御声を聴こう。

## 一、成り上がり志向する弟子たち

イエスが3度目の受難予告をされた（そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。……彼女が言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはおなたの右に、ひとりはお左にすわれるように、お言葉をください」）。ゼベダイの子らとはヤコブとヨハネである（4・20）。彼らはイエスの山上の変貌を目撃し、受難の予告を聴いて、イエスがまもなく王として君臨されるのだと思った。その話を聞いた彼らの母は、師であるイエスに息子たちの出世を頼み込んだのである。

「イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自

分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」）。イエスが飲まれる「杯」とは十字架刑のことである。これからイエスは、神に背いてきた人類すべてが飲むべき神の憤りの「杯」（26・39、詩篇11・6、イザヤ51・17）を代わりに飲み干される。

イエスの問いに「彼らは「できません」と答えた。イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。ヤコブは後に12使徒の中で最初の殉教者となり（使徒12・2）、ヨハネも迫害を受け、晩年にはパトモス島に流刑とされた（使徒4・3、黙示録1・9）。

八十人の者はこれを知り、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。他の弟子たちも、実は彼らと同様の成り上がり志向を持っていた。確かに主イエスは12使徒に特別な地位を約束しておられる（ルカ22・30）。ただし、そのために彼らはその後、多くの試練を経なければならぬ。

## 二、強権をふるう支配者たち

主イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている」。この時代はローマ帝国が圧倒的な軍勢力によって地中海世界を支配していた。ローマはユダヤ人に重税を課し、財産を没収し、皇帝崇拜を強要し、反抗する者を虐殺し

た。エルサレムの神殿を中心とするユダヤの指導者たちやガリラヤの領主ヘロデ・アンテパスはローマにおもねるばかりか、自分たちも人民から可能な限り搾取し、暴政を行った（マルコ11・17、ルカ3・19～20）。「結局、世の中、金と力がすべて」と庶民が嘆くのは、昔も今も変わらない。

## 三、へりくだって仕えるイエス

しかし、イエスはこの世の人々とは正反対の生き方を弟子たちに要求された。「あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない」。

そして、イエスは自らそのように生きて模範を示されたのである。「それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」と、ちょうど同じである。あがないとは捕虜や奴隷を解放するための身代金である。イエスは自分に罪が無いのに、罪ある私たちを解放するために身代わりとなつて死なれた。それは主が私たちを愛してくださったからである。

## 結論

私たちは厳しい競争社会に生きている。いつも何かに駆り立てられて走り続け、優越感と劣等感に揺れる。そこに安息は無い。イエスは私たちをこの奴隷状態から解放してください。キリストの愛に満たされて、僕として仕える喜びを味わおう。

## 研究資料

(足立)

イエスは弟子たちがプライドやあらゆる種類の自己実現に足下をすくわれないよう、一貫して教えてきた。しかし彼らはこの訓練に、ことごとく失敗してきた。ここでマタイは救い主の苦難と死の予告（20・18～19）の後で、ゼベダイの家族が御国での高い地位を嘆願した出来事を記すことにより、信仰者のうちに潜む野心の問題に光をあてている。イエスの受難予告の後、即座にこの質問があったと考える必要はないが、エルサレムへの旅の道中起こったことから考えて、その頃起こったに違いない。この出来事は、イエスが教えた本質的な事柄を、主の弟子たちが全く理解していなかったことを示している。これは些細な誤解ではなく、御国で仕えることの意味を弟子たちは根本的に思い違いしていた。

## テキスト

20 ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきて母とその息子たちが一緒にイエスのところに来たが、自分の息子たちの特権のためにイエスに懇願したのはその母であった。彼女の名はサロメであったと考えられる（参照マルコ15・40、マタイ27・56）。そしておそらく彼女はイエスの叔母、すなわち彼の母の姉妹であったであろう（参照ヨハネ19・25）。この推測が正しければ、彼女は血縁関係の効力に期待したのかも知れない。この文脈から「ひざまずき」とは自分の要求をかなえてもらうためにイエスの足元にひれ伏したこ

を意味する。

21 何をしてほしいのか イエスは彼女の望むことを尋ねた。わたしのこのふたりのむすこがここで彼女の息子たちの名は伏せてあるが、マタイは既にゼベダイの子たちをヤコブとヨハネと明記している（4・21、10・2）。彼女の要求は弟子集団での特権に関わることで、他の弟子たちが気づくと反感を買う内容であった（20・24）。あなたの御国で、ひとりはおなたの右に、ひとりはお左にすわれるように この要求は息子たちが単にイエスの特権に与ることではなく、栄光ある神の国の終末的顕現で統治に就くことであった。しかも御国の第一位と第二位という最も重要で高貴な立場を願って。彼らはイエスがエルサレムに到着することと御国の完成を結びつけていたのである。

22 イエスは弟子たちが何を求めているかわかっていないという応答をした。イエスの将来の栄光を共にすることは、先ず彼の苦難と死を受けとめることを意味する。彼はここで「杯を飲む」と言う隠喩を使っている。わたしの飲もうとしている杯は苦難や神の憤りの象徴（参照26・39、ヨハネ18・11、詩篇11・6、75・8、イザヤ51・17）。弟子たちがこの時点でイエスの飲む杯を、彼ら自身の殉教と理解していたかどうかは甚だ疑わしい。しかし彼らの答えは、できませんであった。彼らは苦しみを見無視して栄光だけを求えていた（参照26・56）。23 イエスは預言を要約するように答えた。確かに弟子たちはイエスに従うことで苦しみ、殉教することになる（使徒12・2にあるヤコブの殉教、ヨハネは晩年パトモス島に流された）。従って

彼らはイエスの栄光を共有することにはなるが、

イエスの右と左に座することを予約することはできない。その特権は御子ではなく、御父にある（参照24・36）。ここでもイエスは父なる神のみこころに服従している。終末にある究極的な栄誉の座席に許されることである（参照25・34）。それ故彼らの要求はそれ自体適切でなかっただけでなく、父なる神のみこころに服従するイエスの模範とは全く相容れないものであった。

24 他の十人もふたりの抜け駆けを聞いて憤ったが、世俗的な野心から栄誉を求める点で彼らも同質であった。憤慨した（参照21・15、26・8）

25 人を力だねじ伏せ、命令で動かすこの世の支配原理は、イエスの弟子集団には全くふさわしくない（参照ルカ22・25～27）。

26 イエスの共同体で真の指導者になる者は栄誉を得ようと闘争するのではなく、仕える人となり、……僕とならねばならない。御国の偉大さはこの世とは全く逆で、弟子たちはイエスから学ばねばならなかった（参照10・39、16・25、19・30）。弟子たちは主の謙りを身につける存在。

28 きたとは、地上の誕生に先立つ存在であることを示唆する。あがない 捕虜や奴隷を解放するための身代金。

参考図書 内田和彦「マタイの福音書」『実用聖書註解』いのちの社・Blomberg, C.L., Matthew (Broadman) France, R.T., MATTHEW (VVP), Hagner, D.A., Matthew 4-28 (Word), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans).



聖書 マタイ20・20～28

タイトル 本当の一番は？

暗唱聖句 あなたがたの間でかしらになりた

いと思う者は、僕とならねばなら

ない。 マタイ20・27

目標 魂の収穫のために、仕えて命まで与えてくださったイエス様になろう。

### 導入

(山田)

今週からアドベント、待降節ですね。私たちのために救い主としてこの世に来てくださったイエス様のお誕生日、クリスマスをお祝いし、喜んでクリスマスを迎えられるように準備をする大切な時です。みんなで心からクリスマスを祝いできるように、お祈りしながらお友だちを誘いましょう。

さて、イエス様は神の子なのに神様の召使いのようになり、僕として神様のご用をするためこの世に来てくださった方です。

その神の子、イエス様はもうすぐエルサレムの町で十字架刑になります。イエス様の時代、一番苦しい死刑の方法は十字架刑でした。その苦しい十字架刑の前、イエス様の気持ちも分からず、12人の弟子たちの関心は、弟子の中で誰が一番偉いかということでした。

### 競争する弟子たち

イエス様たちはエルサレムに向かう途中です。

## ワーク A

### 話し方のヒント

皆さんは一番になったことがありますか？ かけっこで一番、勉強で一番…。一番になると、みんなから褒められ、うらやましがられ、嬉しくなります。でもイエス様の言われた一番はちよつと違いました。「みんなのいやがる仕事も、みんなのためにする人が本当の一番で、その人が神様に褒められるのです」と、教えてくださったのです。イエス様は全ての人を罪から救うために、辛くて苦しい十字架にかかり、本当の一番になりました。私たちも本当の一番を目指しましょう。

### ワークについて

神様は、十字架にかかれたイエス様を、本当の一番として褒められたことを伝えましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。

●質問2 イエス様がこれから十字架にかかろうとしている時になつても弟子たちは、まだイエス様の心が分かっていますでした。

●質問3 仕えるとは、人の言いなりになることではありません。イエス様の十字架の愛を覚えて神様に従うところから、真に仕える生き方ができます。イエス様の生涯は完全に父なる神様に従う生涯でした。今日からアドベントです。イエス様の僕としての模範は、十字架だけでなく、神様が人となつて来てくださったことからすでに表わされていることも教えましょう。

そのとき、イエス様は12人のお弟子さんたちに、自分が祭司長や律法学者たちに捕らえられ、ばかにされたりむちで打たれたりして十字架で死刑にされること、そして三日目によみがえることをお話しします。とても大切なお話です。

大切なお話をしているそのとき、ヤコブやヨハネのお母さんが二人を連れてイエス様のところにやって来ました。そしてひざまずいて「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはお前さんの右に、ひとりは左にすわれるように、お言葉をください」とお願いをしました。かわいふふたりの息子を、イエス様の右と左にすわる大臣にしてほしいと言ったのです。これを聞いた残りの10人の弟子たちは心が煮え繰り返りました。12人の弟子全員が仲間の中で、自分こそ一番になりたいと思つていたのでした。

### 本当の一番は？

誰が一番か競争している弟子たちを呼んで、イエス様は本当の一番はどんなことを教えられました。

ユダヤの国はローマの人たちに支配されています。ローマ人はとてもいばつています。ユダヤの国の人たちはローマ人からいばつて命令をされる苦しいことや、辛いこともたくさんあります。

イエス様は弟子たちにこのローマ人と同じことをしてはいけなことを教えられました。自分が偉くなりたいと思うなら、人が嫌がることもする仕える人になること、仲間の中で一番になりたい人は召使いのような僕になることを話しました。

## ワーク C

### 本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 「この世の偉さ」と「天国での偉さ」の違いを確かめます。「天国での偉さ」は「仕えている、愛がある、へりくだっている、僕である」の4つです。残りは「この世の偉さ」です。

●第3問 「天国の偉さ」を教え、見せてくださったのはイエス様です。その代表的な3つを掲げました。答えは左から①②③の順です。①「神様が人となる」は、ヨハネ1章1～18節、ピリピ2章6～11節を、②「弟子の足を洗う」は、ヨハネ13章1～17節を参照してください。

●第4問 「あなたが、しもべとして人に仕えるためにどうするか」を具体的にいっしょに考え、話し合います。

## ワーク D

●ヤコブとヨハネの母親の思いは、彼らの思い違いだけではなく、それを聞いて憤慨した他の弟子たちの思い違いでもあり、また人間全般の思い違いではないでしょうか。この思い違いが改まらないまま信仰生活を続けていると、必ず行き詰まってしまうです。イエス様が示してくださった生き方に早く切り替えられると幸いです。

た。そして、イエス様こそ神の子であるのに「自分は神様だ」といばつたりしないで、人間に仕えて命を与えるためにこの世に来てくださった救い主であるということを弟子たちに教え、お手本を見せてくださったのです。

### 例話

『たいせつなきみ』という本があります。そこに出てくるウイミックスという人形たちはいつも競争ばかりです。失敗すれば他のウイミックスからだめ印を貼られ、ほめられると★印を貼られます。みんなだめ印を貼られないように、そして★印をたくさん貼られる競争ばかりです。だめ印を貼られると落ち込み、★シールを貼られると自慢をします。主人公のパンチネロはだめ印ばかりのウイミックスです。ある時パンチネロはだめ印も★印も何もつけないないルシアに出会い、だめ印も★印もつけないでいい方法を教えてもらいます。それは丘の上に住む造り主のエリに毎日会いに行けば、二つの印は付かないという事でした。パンチネロはおそろおそろエリに会いに行きます。そこでパンチネロは他のウイミックスと比べられるのではなく、造り主のエリに愛されていることを知ります。私たちはだめ印や★印のくつつけ合いをしないでしようか。多くの人はいばつたりしますが、困ったり、いじめられているお友だちを助けることは誰にでもできることはありません。これが本当の一番です。

♪ひかりの子♪

(インマヌエル教会学校さんびか44)

## 中高科へのヒント

### 話し合ってみよう

1 本日からアドベントです。年中行事としてではなく、クリスマスまで主イエス様を迎える心の備えをしながら過ごしましょう。

2 だれでも「偉くなりたい」「目立ちたい」「特別扱いしてほしい」と思っています。あなたはどうか。↓弟子たちも同じでした(21節)。

### 考えてみよう

1 ゼベダイのお母さんは「抜け駆け」(他の人を出し抜いて、物事をする)をしました。↓「ずるいよ」。弟子たちは怒りました(24節)！このままでは、弟子たちはけんか別れになります。ねたみや憎しみの心はなかなか消えません。この世はこんなことが多いですが、主イエス様は違います。

2 主イエス様は、偉くなるのではなく、人に仕える人となるように諭されました(暗唱聖句)。主イエス様は言葉だけではなく、私たちの罪を担って十字架にまでついでくださいました(28節)。

### 自分ではできませんが、主イエス様を信じ、従うことによって、人に仕えることができるようになります。

●自分に当てはめよう  
1 「人に仕える」ことはいやなことですか。↓心から人に仕えることができる人はすばらしいことです。マザー・テレサのような有名な人もいますが、身近な人でいませんか。





# 聖書 イザヤ9・1-7 テーマ イザヤの預言

## 序論

(鎌野)

先週からアドベントが始まっている。これから4週間にわたって、主の降誕の学びをするわけだが、単に出来事を教えるだけではなく、主イエスを心に迎える決心ができるように導きたい。今月から3月までの期題は「希望に生きる」だ。イエス・キリストは、イザヤの時代も、現代も、人類の希望である。なぜそうなのかは、今週のテキストを調べるならわかるだろう。文脈上では、直前の8・22から続いていることに注意したい。

## 一、やみの時代

イザヤは紀元前8世紀に預言者として活躍した。この頃、国は北イスラエル王国と南ユダ王国とに分裂しており、北王国はシリヤ(新改訳・新共同訳ではアラム)と連合して南王国を攻めてきたが、勝つことができなかった(7・1)。かえって当時の大帝国アッシリヤが北王国に侵入し、紀元前732年に北王国の北方部分、八ゼブルンの地、ナフタリの地を荒らしまわったのである。

イザヤは南王国に住んでいたが、同胞が争いあい、また北王国が踏みこじられている姿を見て、心を痛めていた。その時に神は、メシヤの誕生を啓示する3つの預言を示された。7・14(インマヌエル預言)、9・6、そして11・1である。

国と国が争いあうのは、「やみの時代」の特徴だろう。戦争はどれほど多くの人命を奪い、国土を

荒らしてきただろうか。イザヤの時代から700年余り後にも、ローマ帝国は軍事力で諸国を押さえつけていた。そして現代も、争いは後を絶たない。「やみの時代」は続いているのだ。

## 二、光の出現

そのような時代に、イザヤは預言した。神は、八海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。これらは、当時アッシリヤに占領されていた地域だった。そして、主イエスとその公生涯の多くの時間を過ごされたのもこの地域である。ヨハネ福音書は、「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」(1・9)と記しているが、イザヤの預言は、まさに主イエスによって成就した。

イザヤはさらに、八暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照つた。と、未来のことをさも実現したかのように記す(これは、預言者がよく用いた用法である)。そしてこの光のゆえに、人々は喜ぶ。それは、神が八しえたげる者のむちとを、ミデアンの日になされたように折られたからだ。士師記7章にあるように、神はたつた300人の手によって、13万5千人の敵を打ち破られ、平和をもたらされた。それと同様、神は御子イエスという一人のお方によって強敵サタンを打ち砕き、本当の平和をもたらそうとされているのである。

## 三、神の支配

有名なクリスマス預言は、八ひとりのみどりご

## 研究資料

(石田)

いわゆるメシヤ誕生の預言、クリスマスメッセージである。この短い箇所において、万軍の主はメシヤなる男の子を地上に生まれさせ、そのみわざによって人類に救いの道を開き、恵みによる永遠不滅の統治を完成するという壮大な救いの計画が展開されている。

## テキスト

1 **ゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられた** これは紀元前8世紀、アッシリヤ帝国によるイスラエル北部への侵略が、神の許しのもとに行われたことを指している。それはイスラエルびとの偶像礼拝へのさばきであった。異邦人のガリラヤこの地方はアッシリヤの直轄地となり、その住民の多くが捕囚として連れ去られた。それほどのずかしめを受けた地方に、神は「光栄を与えられる」という約束。

2 **大いなる光** 直接には、捕囚となったイスラエルの民が、アッシリヤ帝国の滅亡とペルシャのクロス王によって解放されることを指している。しかし究極的にはメシヤ来臨による救いの道である。1、2節で「はずかしめと光栄、暗闇と大いなる光、暗黒と光」というように、人間の罪による悲惨と、神の回復のみわざが対照的に表現されている。見た：照つた 完了時制であるが、意味としては未来のことを指すという預言者特有の用法である。神からのビジョンが未来において、すでに成就したものとして受け取られている。以下、「喜ん

だ、生れた、与えられた」も同じ。

4 **ミデアンの日** ギデオオンが精鋭三百でミデアン人12万を倒した、イスラエルにとつて記念すべき出来事。人間が自分の無力を認めて神により頼むとき、神は大能の力を発揮してくださることが、アッシリヤに苦しめられているこの時代にもなされるという預言。

5 **火の燃えくさとなって焼かれる** 圧制者の徹底的な敗北、武装解除、神によるどんでん返し(恵みが印象づけられる(イザヤ2・4))。

6 **ひとりのみどりご…ひとりの男の子** 普通の人間ではないことは、この節後半からも明らかで、主イエスを指し示している。われわれのために生れた：与えられた メシヤがイスラエルの民の中からイスラエルのために生まれるという預言。新約的にはイスラエルを越えて、全人類のためである。それが神のご計画の中で確実に実現するという意味で完了時制になっている。まつりことはその肩にあり まつりこと(新改訳では「主権」)、つまり全世界の統治、歴史の支配はやがて生れるメシヤにあるということ。その名メシヤのご性格。靈妙なる議士「靈妙な」とは、人間の知恵や言葉を超える神の素晴らしさを形容している。「議士」とは王の側近として助言をする議官のこと。新改訳は「不思議な助言者」と訳す。メシヤが世界の統治者でありながら助言者でもあるというのは、他に助言者が必要としない全知のお方であることを示す。事実、主イエスは父なる神以外に助言を必要とされなかった。私たちとの関わりで言えば、主イエスはあらゆる問題について助言者、相談相手となっ

がわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。で始まる。これはインマヌエル預言に続いていることを忘れてはならない。神は、政治的軍事的権力をもたない、みどりご、男の子を与えられるのである。しかしその子が、八靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君。となえられるのだ(それぞれの語の意味は、研究資料参照)。

主イエスは、ローマの支配からイスラエルを解放する救世主(メシヤ)として来られたのではない。だから何の地上的な権力も持たれていなかった。そういうお方を、本当の救世主として受け入れる人こそ、「神の国」に属する者である。主の使命は、人々を「やみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ」(使徒26・18)ることだった。主イエスの時代、救世主を待ち望む多くの人々がいたが、このことを理解できたのはほんの少数だった。現代も同じである。やみが支配していると思われるこの時に、私たちは主が再びおいでになつて、「神の国」を実現なさると信じている。そう信じる者の心に、主は、八ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもつてこれを立て、これを保たれる。

## 結論

主の初臨を待ち望んだ人々と同じように、私たちは主の再臨を待ち望む。その時こそ、真に平和な世界が実現するからである。私たちはこの希望に生き、まず光なる主イエスを受け入れ、そしてその光を周囲に輝かそうではないか。

てくださるお方である。またその十字架と復活のみわざは「不思議」というほかはない。大能の神(新改訳は「力ある神」)やがて生まれる男の子は人間でありながら神であるというまさに「靈妙な」啓示である。しかもいかなる被造物に対しても圧倒的な強さを持つ勇士として表現されている。とこしえの父 父であるというのは、直接には、イスラエルの民に対する保護者という意味においてである。新約的には、神の子とされた者の父である。神の招きに応答し、御子の血によって贖われた者に対して、神は永遠に父であられる。そのようなお方をこの男の子に見るということは、そこに神性と人間性の合一、つまり受肉を含意していることと見ることができる。平和の君「平和(シヤローム)は、健康、平安、健全、安全、充足などをあらわす言葉。やがて来るべきメシヤは圧制者を倒して武装を解除し(4、5)、新たな軍備ではなく、その恵みによる統治によって、完全な平和を世界にもたらすことが啓示されている(6、7)。さらに新約的には、主イエスが十字架の血によって人類に神との平和の道を開かれることが示唆されている。

7 **そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく「平和の君」の統治が「とこしえ」である**ことを重ねて強調している。熱心これはふつう旧約において「妬み」と訳されるので、罪をさばき、妬むほどの熱心を指すが、この場合は神の民を敵から解放し、究極的に、かつ永遠に救おうとする神の熱心を示している。

参考文献 『新聖書注解』、『聖書講解』(K&G)、『実用聖書注解』など。

聖書 イザヤ9:1-7  
タイトル イザヤの預言  
暗唱聖句 ひとりのみどりこがわれわれのため  
に生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。イザヤ9:6  
目標 700年も前からイエス様の誕生は預  
言されていたことを知る。

導入

(長谷川)

今年も12月を迎えました。今日はクリスマスをお待ち  
待つ「アドベント」の第2週です。アドベント・  
クランツのローソクに2本目の火がつきました。  
クリスマスが待ち遠しいですね。よい準備をして  
イエス様のご降誕をお祝いしましょうね。  
さて、クリスマスをお待ちしている私たちですが、  
イスラエルの人々は何百年の間クリスマスをお心  
待ちにしていた。今日はそのことを学びまし  
よう。

悲しんでいたイスラエル

預言者イザヤはイエス様が誕生される約700年前  
頃に活躍していた人ですが、その頃のイスラエルの  
国は大変苦しい状態でした。国が北と南の2つ  
の王国に分かれ、互いに攻め合ったり、また、外  
国に攻め込まれ、たくさんの人々が捕虜となって  
連れて行かれるという、国が大変に荒れ果て悲惨  
な状態になっていたのです。「苦しみにあつた地」  
「やみ」と今日の聖書に書いてあるその通りのイ

スラエルの国でした。人々にとっては希望のない  
暗い世の中だったので。

そんな時、神様はイザヤを通して驚くような、  
そして素晴らしい約束(預言)をくださったのです。  
それは、「大いなる光を見た。光が照つた」(2)  
という約束、つまり「光であるイエス様が誕生す  
る」ということでした。誕生されるのはまだ「先  
のこと」ですが、イザヤはもう誕生されたかのよ  
うな言い方をするほど、確信して話しました。

悲しんでいたイスラエルの人々はこの預言を聞  
いてとても嬉しかったことでしょう。希望の光が  
差し込んだのですから。イエス様の誕生は、お生  
れになる700年以上も前に預言されていたとは、本  
当に素晴らしいことです。そんな方は他に誰もいま  
せん。イエス様は「特別な方」だからでした。

素晴らしい約束、イエス様

神様がイスラエルの人々に約束してくださった  
「イエス様誕生」のニュースは人々に大きな喜び  
と勇気を与えました。「救い主」として、本当の平  
和と喜びを与えてくださるお方が来てくださるニ  
ュースは踊り上がるほどの喜びだったでしょうね。

イザヤは誕生するイエス様のことを「ひとりの  
みどりこがわれわれのために生れた、ひとりの男  
の子がわれわれに与えられた」とはっきりと告げ  
ました。神様でありながら人類を救うために赤  
ちゃんとして、この世に誕生してくださることを告  
げたのでした。

そして、続いてイエス様がどういうお方を詳  
しく話しました。それは、①「霊妙なる議士」私

たちが困り果てた時、必ず助けることがお出来に  
なる不思議な助言者。②「大能の神」どんなこと  
でも出来る神様。③「とこしえの父」天の父なる  
神様と同じ、永遠におられる神様。④「平和の君」  
罪深い人間のために十字架にかかってくださり、  
神様と人間との仲を取り持つてくださるお方。本  
当の平和を与えてくださることのできる神様。こ  
のように、イザヤは詳しく教えました。

何と素晴らしいイエス様でしょう！この約束がイ  
エス様ご降誕の700年以上も前に与えられていたと  
は、神様の不思議としか言えないと思います。イ  
スラエルの人々はイザヤの預言を聞いた時から「今  
か今か」とイエス様のご降誕を待ち続けました。

皆さんには弟や妹はいますか？親戚や教会の中  
で「赤ちゃんが生まれるよ」と聞くと、とても嬉  
しいですね。でも、人間の赤ちゃん誕生のニュー  
スを知るのは早くても10ヶ月位前です。赤ちゃん  
が生まれることを聞くと「まだかなあ」「男の子か  
なあ？女の子かなあ？」と楽しみに待ちますね。  
イエス様は10ヶ月どころでなく、700年以上も前  
から待たれたお方だったのでした。それは、「神の  
子」「救い主」の証拠なのです。

まとめ

イスラエルの人々がイエス様を心から待ったよ  
うに私たちもクリスマスを心から待ちましょう。  
また、もう一度地上にイエス様が来てくださる  
時(再臨)のために、心と生活の備えもしておき  
ましょうね。

♪かみさまのおやくそく♪ (幼児さんびか27)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんが生まれてくるのを、ご両親はどのくら  
い前から知っていたでしょうか？早くても十ヶ月  
くらい前です。しかしイエス様が生まれることは、  
700年以上も前から伝えられていました。それは、  
イエス様が全ての人に、本当の平和と喜びを与え  
る神の子、救い主だったからです。人々は、本当  
の平和と喜びをいただきたいと、イエス様のお誕  
生を今か今かと待っていました。私たちも、私た  
ちの心に平和と喜びを与えてくださるイエス様の  
お誕生日、クリスマスを楽しみに待ちましょう。  
ワークについて  
イエス様がどのような神様か、切り貼りしなが  
ら確認しましょう。

ワーク B

質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚  
えながら書いてみましょう。  
質問2 イエス・キリスト御降誕は、人類の長  
い歴史の中で、預言されてきた神様の約束です。  
私たちはイスラエルの人々が、どれほどこのお方  
を待ち望んでいたかを知ることを通して、既にイ  
エス様がこられたことを祝うクリスマスを、心か  
らの喜びを持って待ち望みつつ迎えましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

第2問 預言者イザヤの時代、ユダヤ人は多く  
の苦しみや戦い、捕虜の生活の中にありました。  
そこに、イエス様のお誕生の預言が与えられまし  
た。暗闇のような苦しみにあっている人々の心の  
内と、救い主の預言が与えられたときの人々の心  
の内を考えます。闇の中に光がさす様子を思い浮  
かべつつ導きましょう。そして、七百年後、本当  
に救い主イエス様が生まれてくださったことを示  
します。

ワーク D

1でまず、各自の悲しみを把握します。  
約束された救い主は私たちにとってどんなお方  
か、聖書のみ言葉を通して確認し、私たちが願う  
ようなお方であることを知ります。

中高科へのコント

話し合ってみよう

1 クリスマス・プレゼントをもらうことは楽し  
みですね。神様は神の御子を私たちに与えてくだ  
さいました(ヨハネ3:16)。すばらしいプレゼント  
トほど、前もって準備しておくものです。神様は  
預言者イザヤを通して、クリスマスがどんなにす  
ばらしい日かを前もって教えてくださいました。  
↓神様は私たちのことをどれほど思っておられる  
ことでしょう。

考えてみよう

1 日本中が「商業主義の楽しいクリスマス」にな  
ってしまいましたが、ほんとうに幸せで楽しいのでし  
ょうか。「暗やみ」「暗黒」(2節)「戦場」(9節)とあ  
りますが、現代はどうでしょうか。↓心に明るい  
光を持っている人は少ないのではないのでしょうか。  
2 希望も生きる目的も失った地に「ひとりの男  
の子がわれわれに与えられ」(6節)ました。だれ  
のことですか。↓主イエス様。クリスマスのこと。  
3 その「男の子」はどんなお方ですか↓(説教  
例、聖書講解、研究資料参照)

自分に当てはめよう

1 神様は約700年も前から、主イエス様の誕生の  
預言をされ、クリスマスの準備をされました。わ  
たしたちも、主イエス様を心にお迎えする準備を  
してクリスマスに備えましょう。





## 聖書 マタイ1・1～17 テーマ イエスの誕生

### 序論

(鎌野)

マタイは、12弟子の一人で取税人であった。漁師だった弟子たちよりも教養があり、読み書きもできたので、旧約聖書も読んでいたことだろう。彼の福音書は、ナザレ人イエスがキリスト（メシヤのギリシャ語訳）であることを立証するために、旧約聖書の預言から60回も引用する。今週のテキストにおいても、イエスの誕生は旧約聖書と深いつながりのあることを明示するのである。

### 一、系図に基づいての誕生

私たちには名前の羅列にしか思えない系図だが、ユダヤ人にとっては、それは血統を証明する重要な文書である。しかも、ここには旧約聖書の重要人物が次々と出てくる。マタイは、イエスが単なる「馬の骨」ではないことをユダヤ人に知ってほしかったので、このように書き出したと思われる。ハイエス・キリストという表現は、マタイがもう2回使っている（1・18、16・21）以外は、マルコ11にしか出てこないことに注目したい。

また、この系図には、普通には載らないはずの女性の名が4名も記されている点も重要である。△タマル△は近親相姦で身ごもり、△ラハ△は異邦人の遊女、△ルツ△も異邦人、そして△ウリヤの妻△は、ダビデの姦淫の相手であった。このような罪の現実のただ中に、メシヤはお生まれになった。ただ、罪人を救うためにこそ。

### 二、王家の子孫としての誕生

この系図の中で、△王△という語はただ一度、ダビデにだけ用いられており、その後、13人の王の名が続く（4人の王が意図的に省かれている）。このようにダビデが特筆されているのは、メシヤはダビデの子孫として生まれると、預言者たちが言っていたからだ。イザヤ11・1にも「エツサイの株から一つの芽が出」と預言されている（エツサイはダビデの父）。ナザレのイエスは、預言どおり、ダビデ王の子孫であるということが、マタイの言いたかったことにほかならない。

ダビデ王は、この系図の中ではいわば頂点に置かれている。アブラハムに与えられた神の約束、「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう」（創世記12・2）は、確かにダビデ王まではそのとおりに実現し、国は上り坂にあった。しかし、ソロモンの死後、国は分裂して衰退しはじめ、ついには△バビロンへ移され△するまでになった。それも単なる移住ではなく、捕囚という悲惨な出来事だった。これは下り坂の歴史である。

捕囚以後にはもはや王は存在しなかった。△ゾロバベル△（エズラ3・2ではゼルバベル）は捕囚から帰還した民の総督に任じられたが、それ以降の人々は、旧約聖書には何の記述もない。多分マタイは、ヨセフの家に受け継がれていた系図を入手して、これを完成させたのだと思われる。

主イエスは確かにダビデ王の子孫だった。しかし、民衆とかけ離れた王家に誕生されたのではない。貧しい普通の家庭に生まれられたのだ。

### 三、「ヨセフとマリヤの子」としての誕生

この系図はヨセフの家系を示しているが、注意せねばならないのは、主イエスが処女マリヤからお生まれになったのなら、父ヨセフの血統を継ぐ者ではない点である。マタイは、ヨセフからではなく、△マリヤからキリストといわれるイエスがお生れになった△と言いながら、あえてヨセフの系図を挙げた。それは、当時のユダヤの律法では、父親の立場にいる人との法的な関係こそ重要だったからである。学者の中には、ルカ3・23以下の系図はマリヤの血統であり、彼女もダビデの子孫であったと考える者もいる。

いずれにせよ、イエス・キリストがこの地上に誕生なさるためには、母親マリヤだけではなく、父親ヨセフも必要だった。マタイはこの事実を重視し、このあと、主の使いがヨセフに現れたことを述べる。ルカがマリヤの経験を書き記すのと対照的である。クリスマスには、マリヤが脚光をあびることが多いが、ヨセフもまた、欠いてはならない人物である。王家の血統でありながら、この時代には寒村ナザレで大工をしていたヨセフを、神は主イエスの父親として選んでくださったのだ。

### 結論

イエスを「ナザレ人」とさげすんで呼ぶ人々に対して（2・23、ヨハネ1・45）、マタイはこのお方こそ王なるキリストであることを知らせるためにこの書を著した。私たちも次のことを忘れてはならない。神であり王であるお方が、貧しく低き人としてこの地上にお生まれになったことを。

## 研究資料

(足立)

私たち現代人にとって系図はとも退屈で、スペースの浪費と映るかも知れない。しかしマタイが属していたユダヤ人世界において系図は、一目見て旧約聖書のおびただしい系譜が明白になるものとして極めて重要なものであった。しかしマタイはユダヤ文学の取り決めに単に踏襲してはいない。彼が系図を著したのは救い主イエスを提示するためで、幾つかの重要な要素を導き出していることがわかる。①神の救いの目的にまつわる動きを本福音書で読者が想起できるように、旧約のイスラエル史の中でイエスを明確に位置づけている。②系図を14代のグループ3つにまとめ（参照！・17）、イエスにあつて預言成就の時が到来したことを伝えている。③ダビデによる王権の成立とバビロン捕囚による王権の喪失を記すことにより、失われたダビデの王権がイエスにあつて真に回復、確立することがわかる。

### テキスト

1 系図（ピブロス ゲネセオース）は原文では最初にあり、字義的には『起源の書』、或いは『系譜の巻物』となり、ギリシャ語旧約聖書の創世記2・4、5・1にある表現の引用と考えられる。イエス・キリストのイエスが成し遂げた新しい創造を意味する。この表現は系図ばかりでなく、本福音書全体の表題と考えて良いかも知れない。マタイは本福音書がイエス・キリストによる救いの歴史であると主張している。本福音書においてマタイはフルネームでイエス・キリストをほとんど

使っていない。そして彼はイエスをダビデの子として言及している。ダビデは王の直系であった。マタイは偉大な王の名を17回使っている。ダビデの子と言う表現は、おそらく救い主の称号であろう。ダビデはイスラエルの王たちの中で最も偉大であった。マタイはダビデの子という表現を9回使用（1・1、20、9・27、12・23、15・22、20・30、31、21・9、15）。ここでは、ダビデに預言された救い主（参照サムエル下7・11、16）が意味されることを、マタイが引き出そうとしていることは明らか。イスラエルの偉大な王の子孫として預言を成就されたお方であると、本福音書はイエスを紹介している。アブラハムの子イエスはアブラハムの子孫でもあった。神がアブラハムと契約を結ばれたのは、イスラエルを神の民として特別な立場に置いたためであった（創世記12・2、3、15・17、21、17・1、14）。すべてのイスラエル人は、自分たちがこの偉大な族長の子孫であると誇りを持っていた。またキリスト者はみな、信仰を持った古典的な実例として彼を好んでいる（ローマ4章）。彼は「多くの国民の父」と呼ばれ（創世記17・5）、すべての民族は彼を通して祝福されると預言されてきた（創世記12・3）。ダビデとアブラハムを結びつけることにより、イエスがヘブル人の系譜に属し、メシヤとして期待されたことすべてを成就したと言う二つの内容にマタイは注意を引いている。

2 アブラハムが救いの歴史、また神の選びの民として最初におかれた故に系図は彼から始まる。ユダとその兄弟たちはイスラエルの十二部族を指す。系図のリストが目指すのは救い主イエスであ

り、彼がユダヤ民族の一人として生まれたことを歴史的に提示している。

3 △パレスとザラは双子であるが、その母タマルは、しゅうとユダとの姦淫によって二人を産んだ（創世記38章）。母親を含む系図は旧約にもある（歴代上1・32、2・16、21等）が、この系図に登場する女性たちは曰く付きの人々。ルツ（5節）はモアブ人で、その先祖モアブは姉娘がその父によって生んだ男子（創世記19・30、38）。モアブの女性たちはかつてイスラエルを不道徳と偶像礼拝に陥れた（民数記25・1、3）。そして律法には厳しい規定があった（申命記23・3）。ラハ（5節）は遊女（ヨシヤア記2章）。

6 ダビデ王 マタイはここでダビデに王をつけている。彼は22回王ということばを使用しているが、この回数ほ他のどの新約文書よりも多い。マタイは、イエスこそ「ユダヤ人の王」（2・2、27・11、29・37、42）と呼ばれる正当性を保持していると示しているであろう。ウリヤの妻とあるがこれはバテシエバのこと。ここでマタイは、敢えてバテシエバの名の使用を避けたと思われる。マタイの目的は、ダビデに対してウリヤの正当性を呼び覚ましていることにある。すなわちバテシエバはウリヤの妻であつて、ダビデの妻ではなかったと言ふこと（サムエル下11・12章）。

参考図書 増田善雄『マタイの福音書』新聖書注解・新約1『いのちのことば社、内田和彦『マタイの福音書』実用聖書注解』いのちのことば社 France, R.L., Matthew (VP), Hagner D.A., Matthew 1-13 (Word), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans).



聖書 マタイ・1:1-17  
 タイトル イエスの誕生  
 暗唱聖句 このマリヤからキリストといわれ  
 るイエスがお生まれになった。  
 目 標 イエスがユダヤ人のひとりとし  
 てお生まれくださったことを確認  
 する。

## 導 入

(長谷川)

アドベントのローソクに3本目の火がつきました。クリスマスがだんだんと近づいてきますね。イエス様がどんなに素晴らしい救い主であるかを知っている私たちは、本当のクリスマスを心からお祝いできるので感謝ですね。本当のクリスマスをたくさんのお友だちにお伝えしていきたいですね。さて、今日は、イエス様が最高に素晴らしいお方であることを聖書の歴史から学びます。

## イエス様の系図

皆さんは「系図」って知っていますか？ どんなところから生まれて来たのか、自分の先祖が誰なのかが一目で分かる表のようなものです。おじいさんの名前、またそのおじいさんの名前……という風にさかのぼって書かれているのが「系図」です。このマタイ1章にはイエス様の系図が書かれています。カタカナばかりなので読むのがとても大変な箇所ですね。でも、とても重要な聖書の箇所なのです。それは、「イエス様がどのようなお方か」をはっきりと教えてくれるからです。

## ワーク A

## 話し方のヒント

●皆さんは、神様であるイエス様が、どのようにこの地上にいられたか知っていますか？ 光が輝く中、雲に乗って来られたのでしょうか？ イエス様は皆さんと同じように、お母さんのマリヤから生まれました。お父さんも、おじいちゃんもおばあちゃんもいました。しかし、イエス様は神様でした。全ての人の罪のために十字架にかかって死なれるという、人には決してできないお仕事をされ、死んだけれどもよみがえり、本当の神様であることを現されました。このイエス様を信じましょう。

●ワークについて  
 イエス様がマリヤから生まれたことを確認しましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。  
 ●質問2 聖書を見ながら系図を完成させましょう。普通に読むならば退屈になりがちな系図ですが、今回の学びを通して、少しでも親しみがもてたらと思います。子どもたちに系図の中の人物で知っている人のことについて話してもらったり、時間があれば、系図で有名な人物のことについて簡単な説明をすると思います。この系図を通して、イエス様が預言された救い主であることが明確にされたことがわかるようにしましょう。

ユダヤ人にとって、どんな家で生まれたかという「血筋」はとても重要なものでした。今でもイスラエル旅行をする時に旅行者は、自分の父親の名前を入国の書類に書く必要がある位です。

この系図を読んで分かることがあります。その一つは、王様の名前がたくさん出ていることです。皆さんの知っている「ダビデ王」が出ていますね。この系図に出てくるということは、実は、ダビデ王はイエス様の先祖なのです。つまり、イエス様は王家の家系に生まれたということです。イエス様は突然どこから現われた誰だか分からない人物ではなく、王様の血筋であったことを証明しているのです。マタイは、イエス様のことを、正しく知ってほしいと思って系図を書いたのです。

## 救い主となられたイエス様

系図からイエス様が歴史上の人物であり、しかも王の家系の中から誕生されたことがよく分りましたね。では、そのイエス様がなぜ貧しいヨセフとマリヤから、しかも家畜小屋でお生まれになられたのでしょうか。また、最後には十字架にかかって死なれたのでしょうか。王家の出身なのになぜでしょうか。とても不思議なことです。

それは、罪深い私たちを救って永遠の命を与えてくださるためでした。すべての人を救うために、わざわざ貧しい形で生まれてくださったのです。何と素晴らしい愛でしょうか。神様はすべての人が救われるためにそうしてくださったのです。神様は愛だからです。

そして、さらに素晴らしいことは、イエス様は十

## ワーク C

## 本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 イエス様は、神様によって地上につかわされた方ですが、人間的には父方の先祖はダビデ王でした。答えは②です。

●第3問 系図を重んじるユダヤの人々は、この系図によって、イエス様が預言どおりのお方だと示されたのです。答えは①です。

●第4問 神様ご自身が全き人となってくださったことによって、すべての人を救ってくださる福音が現実のものとなりました。答えは②です。

●第5問 答えは「神様」です。

## ワーク D

●子どもたちにとっては、イエス様の系図に出てくる名前を読んでも、人物像までは思い浮かぶ名前ほどないでしょう。ですから、なんとなく聞いた名前があれば、○で囲みます。

●マタイがキリストの系図を書き出したのは、家柄、血筋が私たちの救いに重要事項だということではなく、イエス様がキリストであることを立証するためでした。

字架で死んでくださいましたが、三日目に「よみがえってくださった」ということです。「死に勝利」してくださったのです。

歴史上のどんな素晴らしい仕事をした王様でも亡くなりました。でも、イエス様はよみがえって、今も生きて、私たちを救い続け守り続けてくださっているのです。それこそ、本当の王、永遠の王様ですね。自分の命をかけて、私たちを救ってくださったのですから、イエス様以外に、私たちを守り抜いてくださる王様はほかにおられません。

## まとめ

今日は「イエス様の系図」について学びましたが、マタイは、イエス様は歴史上の確かなお方であり、また、神様の確かなご計画のもとで救い主となってくださいたことを伝えました。

クリスチャンの有名な小説家の三浦綾子さんは、「この系図を最初に読んだ時は退屈だったが今は違います」と書きました。そして「それは、私たち日本人が『織田信長、明智光秀、豊臣秀吉、徳川家康』と羅列されただけで、それが天下を取った順であり、一人一人の性格や事件……を思い起こすのに似ています」と続けられました。

歴史上の人の名前を聞くときさまざまなことが思い出されるように、マタイの書いた「系図」を見るとユダヤの人たちはイエス様のことがよく分ったのだと思います。イエス様は「系図」の通り、神様から遣わされた本当の救い主であられました。これからはイエス様を信じ従って行きましょうね。♪ダビデのこホサナよ♪ (子どもさんびか32)

## 中高校へのヒント

## 話し合ってみよう

1 読むのめたいへんですが、新約聖書の最初の名前の羅列は何のためにあるのでしょうか。  
 ↓イエス・キリストの系図(1節)です。

2 何かの意味があるのでしょうか。

## 考えてみよう

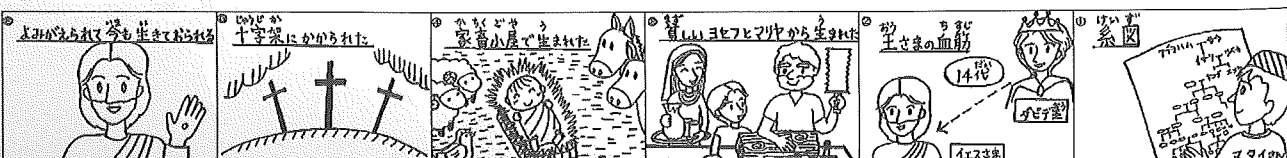
1 主イエス様は架空の人物で、クリスマスも作り話ではないでしょうか。↓主イエス様はこのような系図のもとに生まれました。歴史の事実です。

2 主イエス様の旧約聖書の預言はほんとうに成就したのでしょうか。↓アブラハムの子孫として、ダビデ王の子孫として生れたお方であることが確かめられました。

3 主イエス様の系図は良く見ると、罪人だらけです(ダビデの姦淫の事実が読み取れる)。ふつうは系図は立派な人だけを書くのに、どうして隠さなかったのでしょうか。↓主イエス様は罪ある世に、そして罪人を救うためにお生まれになったからです。

## 自分に当てはめよう

1 クリスマスは、楽しいメルヘンの物語ではなく、歴史の事実です。人間の歴史はクリスマスで二分されています(紀元元年。正確には数年のズレがありますが)。このすばらしい歴史の事実を大胆に伝えていきましょう。



聖書 マタイ1・18～25  
テーマ インマヌエル

## 序論

(鎌野)

マタイが冒頭に系図をもってきたり、主イエスの誕生記事をヨセフの経験した事柄を中心にして書くのは、彼が父系を重んじる典型的ユダヤ人の観点から福音書を記述しているからである。イザヤの「インマヌエル預言」をここに引用するのも、まさに彼らしい。この預言は紀元前8世紀に語られ、部分的に成就してはいたが、主イエスにおいて初めて完全に実現したのである。どういう意味で成就したのだろうか。

## 一、処女から生まれるお方

ヨセフはマリヤと婚約していた。「ユダヤの婚約は法律上の夫婦となることであった。この婚約の期間は一年ほどで、これを解消するには離婚手続きが必要であった」(『新聖書注解』)。ところがこの期間中に、ヨセフはマリヤが妊娠していることに気づいた。マリヤはルカ1章に記されている事柄をヨセフに話していなかったのか、話しても信じてもらえなかったのか。もしこの事実が公になるなら、マリヤは律法に従って、石打の刑に処せられる(申命記22・23～24)。そうならないために、ヨセフは「ひそかに離縁しよう」と決心した。離縁したら、マリヤは妊娠させた相手と結婚できず、刑に処せられずにすむからである。この行動は、ヨセフであつてさえ、マリヤの処女懐胎を信じられなかったことを示唆している。

## 研究資料

(足立)

マタイはヨセフの立場から、イエス誕生の出来事を語っている。そしてシンプルにマリヤが聖霊の働きによって妊娠したことを告げている。ヨセフは離婚を考えたが、天使の訪問によって主の導きを得た。ここでも処女降誕が強調されている。しかも旧約の預言の成就として。

## テキスト

18 明らかにマタイは、イエス・キリストの誕生の次第を伝えようとしている。彼はヨセフやマリヤのことを読者に伝えていない。又同様に処女の概念を詳細に語ろうともしていない。婚約して(ムネステューオー、ルカ1・27、2・5)と訳されることは、普通結婚前の一年間の堅い約束を指し示す。その年女性自身自身の家族のところにどまつているが、確立された結びつきは強く、実際結婚の一部とみなされていた。許嫁の女性が姦通した場合、処罰された(申命記22・23～24)。マリヤは、まだ「一緒にならない前に妊娠した。しかしその懐妊は、聖霊によるものであった。

19 マリヤの夫ヨセフは、正しい(デイカイオス)人であった。これはおそらく、律法を順守することとに深い意味であろう。この状況を網羅する章節は、性的な関係を持った婚約中の女性に関するところであった(申命記22・23～27)。正しい人ヨセフは、結婚を完了させることは不可能と考えたが、厳格であることを望まなかった。おそらくヨセフが神の前に正しいといわれるのは、

「おとめがみごもつて」という預言は、イザヤの時代に、彼の息子がヒゼキヤ王の誕生によって成就したという解釈もできる。しかし、「おとめ」という語の本来の意味は「結婚していない女性」であり、イザヤの預言は処女の妊娠を予期している。このことをヨセフに知らせるために、主の使が夢に現れて言った、「…その胎内に宿っているものは聖霊によるのである」。この体験をおして、ヨセフは「処女懐胎を認めた」。

## 二、民を罪から救うお方

主の使は続けてヨセフに言った。「彼女が男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。イエスとは、ヘブル語の「イエホシヤ」(邦訳聖書では「シヤ」と訳出されている)の短縮ギリシア語形で、「主は救い」という意味である。ヨセフはこの言葉を聞いたとき、事の重大さに身震いしたのではなからうか。神の選民であるユダヤ人がバビロンに捕囚となり、この時代もローマ帝国の占領下にある現実が、神の言葉に従わなかった民の罪の結果であつた。けれど、それら民のもろもろの罪から救うために、マリヤから生まれる子どもが用いられるとは。

「ヨセフは眠りからさめた後に、主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた」。マリヤから生まれる子を、自分の子どもとして育てることを、ヨセフは決心した。また、将来どのような形でこの子が民を罪から救うのかわからなかったが、み告げに従ってイエスと名づけたのである。

## 三、われらと共にいるお方

「その名はインマヌエルと呼ばれる」という預言は、主イエスによって文字どおり実現した。だが4福音書のどこを探しても、主が「インマヌエル」と呼ばれている箇所はない。それは呼び名ではなく、主がどういうお方かを示す言葉だからである。ヘブル語では、インマヌーとは「われらと共に」、エルとは「神」という意味をもつ。つまり、神ご自身が、罪深いわれら人間と共に生きてくださることを宣言しているのである。確かに、ただの人なら、処女から生まれたら、民を罪から救うたりできるはずがない。イザヤは、神ご自身が人となつて人と共に住むという奇跡中の奇跡を、すでに700年前に予見していたのだ。

その公生涯において、主イエスは言葉と行動によって、ご自分が「人と共にいます神」であることをお示しになった。それを信じた者たちは、神と共に歩む幸いを実感していた。さらに主は、この地上から去られる時にも「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(28・20)と言われた。これは、主が現代の私たちとも共にいてくださるという、明確な約束である。

## 結論

クリスマスは、2千年前に主イエスが地上にお生まれになったことを祝うだけの日ではない。神が人となり、人と共に歩まれることを喜び祝う日である。この時にこそ、主イエスは、私たちの罪を赦し、私たちを聖なる者とするために、今も私たち共におられることを信じよう。

あわれみの要素も含まれていたであろう(正しい人は情け深い、マタイ9・13、12・7、23・23、詩篇37・21)。彼は公にスキヤンダルになることを避ける道を選んだ。公になる(デイグマテイゾー)とは、公開する、公で恥をかかせる、という意味。しかしヨセフは自分の義憤を満足させる道を選ばなかった。ひそかに離縁するとは、マリヤのこれからを彼なりに配慮しての選択だったのであろう。ヨセフは申命記24・1を意識していたと思われる。

20 思いめぐらしていた(エンスメオマイ)という動詞の時制は不定過去なので、明確な結論に達するまでを伝えている。主の使はメッセンジャーを意味する。もちろん主なる神から遣わされた天使。夢に(参照、2・12、13、19、22、27・19)という方法は、新約ではマタイ以外にはでてこない。ダビデの子(参照1・1)とは、イエスの王としての家系を強調していると思われる。心配しないでとは、何かをすることにひるむな、という意味。迎えるとは、自分の妻として自分の家という意味。その理由は、マリヤの受胎は、聖霊によるものであるから。

21 マリヤが産む子は男の子で、ヨセフは、その名をイエスと名づけるように指示される。彼は強調されている(彼こそが)。おのれの民をそのもろもろの罪から救うものとなる(参照詩篇130・8)。もろもろの罪(ハマルティアの複数形)は、的外れを意味する。強調点は、イエスがもたらす救い(参照20・28、26・28)にある。

22 マタイは預言の成就を大切にしている(2・15、17、23、4・14、8・17、12・17、13・35、21・4、26・56、27・9)。注目すべき事は、預言

者によって語られた点ではなく、預言者を通して主が語られたという点にある。マタイは靈感された預言を非常に重んじている。

23 イザヤ7・14からの引用である。インマヌエルとはヘブル語の意味の字訳(音訳)であり、神われらと共にいますとなる。内容は、失われていた臨在がイエスによって回復すること(マタイ28・20、参照18・20)。

24 ヨセフは目覚めて、御使が彼に語ったとおりにした。マリヤを妻に迎えたとは、ヨセフがマリヤを妻として公に受け入れたという意味である。

25 ヨセフとマリヤは結婚したが、イエスが誕生するまでは性的関係を持たなかった。知る(ギノイスコー)という動詞は、知る、知ることになる、を意味し、様々な文脈で幅広く用いられることばである。ここでは性的関係の婉曲語法(ルカ1・34)。この節は、ヨセフ夫婦の間には赤子誕生まで性的交渉はなかったということを明確にしている。旧新約聖書は一貫して、性的交渉を結婚生活の大切な一部として許可し、認めている(創世記1・28、9・1、箴言5・18、1コリント7・3～5)。その子をイエスと名づけたとは、ヨセフが子どもを法律上受け入れたことを意味する。参考図書 内田和彦「マタイの福音書」『実用聖書註解』(のちのち)は社、Blomberg, C.L., Matthew (Broadman), Carson, D.A., "Matthew," The Expositor's Bible Commentary, Vol. 8, Zondervan, France, R.T., MATTHEW (IVP), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans).



聖書 マタイ・18・25  
タイトル インマヌエル  
暗唱聖句 見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。  
目 標 神が人となり、人と共におられる救い主であることを信じる。  
マタイ・23

導 入

(長谷川)

今日はアドベントのローソクに4本の火がつけました。いよいよイエス様のご降誕であるクリスマス礼拝が来週の25日の日曜日となりますが、なんだか、ワクワクしますね。心をこめてクリスマスをお待ちしましょうね。

さて、今日は、イエス様がどのようなお方であるかを学びましょう。

おとめマリヤからの誕生

イエス様のお母さんの名前は皆さんもよく知っているマリヤ、そして、お父さんはヨセフですね。ところが、今日の中心聖句にあるように「おとめマリヤ」がイエス様を産むのです。

「おとめ」とは、まだ結婚していない女性のことを表しています。ヨセフとマリヤは結婚の約束(婚約)をしていましたが、まだ結婚していなかったのです。それなのにどうしてマリヤのお腹に赤ちゃんができたのでしょうか? とても不思議な出来事です。本当に奇跡です。それは、神様がなさ

れた「神のみ業」だったのです。

まだ結婚もしていない女の人に赤ちゃんが出来ることが知れると、ユダヤの国では石で打ち殺されるという恐ろしい刑を受けなければなりません。マリヤのお腹に赤ちゃんがいることを知ったヨセフはとても苦しみました。考えたあげくマリヤとの婚約を取りやめようと思いました。

そのヨセフに、天使が夢の中で「その胎内に宿っているものは聖霊によるのである」と言ったと聖書に書かれています。マリヤのお腹の赤ちゃんは神様が与えてくださったのだ、とはっきりと教えてくれたのです。

ヨセフは天使から告げられた言葉にどんなにびっくりしたことでしょう。きつと戸惑ったと思います。でも、神様を信じて、マリヤと結婚しよう決めました。ヨセフもマリヤも、神様のお考えを第一としてお従いする信仰をもっていたのです。ヨセフは、「神様は何でも出来るお方」と信じ切っていたからこそ、従うことが出来たのです。

「おとめマリヤ」からイエス様が誕生されることはイエス様が救い主であることの証拠でした。

その名は「インマヌエル」

古いことわざに「名は体をあらわす」という言葉があることを知っているお友だちはいますか? それは、その人の名前を聞くとその人が分る、という意味ですね。

イエス様の名前にも深い意味があり、「その名はインマヌエル」と告げられました。この聖句は、先週学んだ預言者イザヤによる預言の言葉でした。「インマヌエル」とは、「神様が私たち人間と共に

にいてくださる」という意味です。神様がわざわざ人間の姿となって地上に来てくださり、私たちとずっと一緒にいてくださるために誕生してくださった。このようなお方がイエス様だということです。イエス様は「目に見える神様」として生まれて来てくださり、言葉と行動をもって「神様」を示してくださったのです。

「イエス様?」とお呼びしたり、他の人が呼ぶのを聞く時、「いつも一緒にいてくださる神様」と心からさんびしてくださいね。イエス様は本当に共にいてくださるお方ですから。

まとめ

一人っ子だったゆきちゃんに、待望の弟が生まれました。弟が病院から家に来た日とても喜びました。10才年下の弟が生まれて、今日から「ずっと私の家に一緒にいてくれる?」と思うと嬉しくて嬉しくて仕方がありませんでした。

ゆきちゃんの家では、この10年間、近所の大変なお宅の小さな子どもを何人も預かって来たのですが、いくらかわいがっても夜になるとサヨウナラしないといけなかったからでした。弟が生まれて、「一緒にいてくれる赤ちゃん」のことを大喜びで迎えました。

イエス様は、私たちとずっと一緒にいてくださるためにこの世に生まれて来てくださいました。イエス様は信じる人といつも一緒にいてくださるのです。どんな時も共にいてくださるために生まれて来てくださったイエス様に心から感謝を捧げましょうね。

(メビック)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは神様がどんなお方で、今どこにおられるか知っていますか? 神様は目に見えないからわからない、そして遠い天国におられるんだ、と思っているかも知れません。しかし、イエス様は「わたしを見たら神様がわかるよ」と、神様の姿を現すために、地上にお生まれくださいました。そして、イエス様を信じる私たち一人一人と、いつ、どんな時も離れずにいるためにも、生まれてくださったのです。イエス様は、今も信じる私たちと一緒にいてくださいます。ハレルヤ!

ワークについて  
イエス様と手をしっかりとつなぎ、いつも一緒にいてくださることを覚えましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。  
●質問2 イエス様の処女降誕は使徒信条で信仰告白されている大切なことです。聖書に書かれているとおり信じるように導きましょう。イエス様の名前や呼び名の意味が、ここに出てきます。イエス様がいかなるお方か知るうえで大切な点です。  
●質問3 イエス様がインマヌエルと呼ばれるのは、ご自身が人と共にいます神様であり、罪から私たちを救い、神様との和解の道を開いてくださったからです。また私たちの生活の中で、祈りを支え(18・20)、宣教における権威者として(28・20)共におられるお方です。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。イザヤ7章14節をいっしょに読んで、イエス様誕生の七百年前に預言されていることを確認します。

●第2問 「インマヌエル」の意味は①です。

●第3問 預言の成就を調べます。答えは「マリヤ」「聖霊」「33年間」です。

●第4問 二千年前のイエス様誕生のことで終わらないで、今も「あなた」と共にいてくださる、ということをお教えます。答えは(1)「①とりなしの祈り」です。これはヘブル7章25節で確認してください。(2)「①イエス様と同じ性質と力をお持ちの聖霊」です。マタイ28章20節とヨハネ14章16・17節で確認してください。

ワーク D

●アドベント第四週。今年は来週がクリスマスとなります。今日はマリヤの夫ヨセフに着目しましょう。ヨセフがこんなにも大きな課題を乗り越えることができた要因は、私たちが課題を抱えるときにも、それを乗り越えるために大切なヒントを与えてくれます。神様の言葉が与えられること。「心配しないで」という神様の声を聞くこと。神様への信頼。神の全能に対する信仰。人を疑わないで、神様を仰ぐことなど。

●私たちは試練に会うと、神様が共におられないような錯覚をします。2を通して、そうではないことを確認出来れば幸いです。

中高科へのヒント

話し合ってみよう

1 あなたの名前は、意味があつてつけたはずですよ。聞いてみたことはありますか。↓主イエス様もその名前には意味がありました(暗唱聖句)。

考えてみよう

1 マリヤさんは結婚していないのに、主イエス様を胎に宿したのです。そんなことがあるのでしょうか。↓主イエス様以外にはどこにもありません。主イエス様は神様で、人となってこの世にお生まれになりました。「神にはなんでもできないことはありません」(ルカ1・36)。

2 「イエス」という名前の意味は何ですか。↓「罪から救う者」(21節)。罪から救うためには罪の贖いとして死ななければなりません。

3 「インマヌエル」は「神われらと共にいます」という意味と教えています。そこで何がわかりますか。↓主イエス様は立派な宗教者として生れたのではなく、神様であるお方が人としてお生まれになったことがわかります。

自分に当てはめよう

1 主イエス様は、十字架で死なれ、三日目に復活され、生きておられることを弟子たちに示され、そして召天されました。今は肉眼の目で見えませんが、生けるお方です。今も「インマヌエルの神」です(マタイ28・20)。





## 聖書 マタイ2・1～12 テーマ 博士たちの感謝

### 序論

(鎌野)

今週のテキストでも、マタイは旧約聖書を引用し、イエスが預言されたメシヤであることを示そうとしている。さらに、イエスはユダヤ人の王であるばかりか、全世界の王であることを、八東からきた博士たちへの訪問によって、立証するのである。これは、ルカの描く家畜小屋での出産からしばらく後の出来事であることに注意したい。

### 一、博士たちの態度

△博士△とは、イスラエルの東方にあったバビロン近辺で星占いをしていた人々だと推測されている。紀元前12年にハレー彗星が現れた事か、紀元前7年に木星と土星が接近して強い光を放った事か、あるいは奇跡的な星か、詳細はわからないが、そのような特異な現象を観察して、彼らは特別な事件が起こったと考えたのだろう。その地に捕囚となっていたユダヤ人の残した旧約聖書から、メシヤ降誕の預言を発見したのかもしれない。

△博士△という語は「魔術師」とも訳されるので(使徒13・6)、異教的な色合いを感じないわけではない。しかし文脈からは、彼らがまじめにユダヤ人の王△を拝みたいと願っていたことがわかる。たとい異教徒であって旧約聖書をよく理解していなかったにしても、彼らには求める心があつた。だからこそ、千キロ程の長く苦しい旅をして、ヘロデ王の宮殿にやってきたのである。

### 二、ヘロデ王の態度

しかし、当時のユダヤの王ヘロデは、△このことを聞いて不安を感じた△。彼は純粋なユダヤ人ではなかったのも、王の地位が奪われると思ったのだろう。すぐに△祭司長たちと民の律法学者たち△とを招集して、旧約聖書を調べさせた。するとミカ5・2に、△イスラエルの牧者△となる人物がベツレヘムから出るとの預言があることがわかった。王は博士たちにこのことを知らせた上で、△見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから△とうそをつく。すでにこの時、ヘロデはこの赤ん坊を殺すつもりでいた。

ヘロデ王の態度は、博士たちと対照的である。彼の周囲には、旧約聖書をよく知っている人が多数いたのだから、メシヤ預言についてもっと知ることもできた。また求めさえするのなら、博士と一緒に礼拝に行くこともできたはずだ。祭司長や律法学者なら、なおさらであろう。でも彼らは一人として行こうとはしなかった。かえって、主イエスを邪魔者扱いにした。どんなに聖書知識があつても、それだけでイエスを王なる救い主として受け入れるわけではないのである。

### 三、正しい礼拝者の態度

博士たちは、教えられたとおりにはベツレヘムに向かつて出発した。星も彼らを先導した。謙遜に主を求める人々に、主は明確な導きを与えられる。そして彼らは、出産時の家畜小屋から、多少なりとも落ち着いた△家△に移り住んでいたヨセフ夫妻と幼な子イエスに出会い、礼拝したのである。

さらに△宝の箱をあけて、…贈り物をささげた△。初代教会の時代から、黄金は王に、乳香は神に、没薬は死につく者にささげられると解釈されてきた『新聖書注解』。王であり神である救い主イエスが、将来、自分の命をささげて、人類の罪を贖われることを暗示する贈り物である。異邦人である博士たちがこのことを知っていたとは思えないが、彼らの心からの贈り物には深い意義があつた点を心に留めておきたい。

今日はクリスマス礼拝の日である。「クリスマスはブレゼントをもらう日」と思っている子どもたちに、本当の礼拝の意味を教えよう。御子イエスは、確かに神からの贈り物である。だからこそ、私たちもそれに感謝して、私たちのできる贈り物をしたい。パウロの言うように、「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげ」ることこそ、「あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」(ローマ12・1)。

今日はまた、今年最後の主日でもある。からだをささげることの具体的な表現は、いつも神様に感謝することにはかならない。この1年、神様はどんなすばらしいことをしてくださったかを思い返し、一つ一つに感謝しよう。

### 結論

クリスマス物語は何度も聞いて知っている子どもたちがほとんどだろう。だから今日は、博士たちのように、感謝することを実践する時としたい。感謝な事を書きあげたり、だれかにブレゼントをするよう導いたりできたなら幸いである。

## 研究資料

(足立)

マタイは東方の博士たちの訪問、聖家族のエジプトへの避難、ヘロデによるベツレヘムの子どもの虐殺を記しているが、その中で罪深い人間の敵意にもかかわらず、神はご自分のみこころを成就されるという真理を、私たちに伝えている。

### テキスト

1 ユダヤのベツレヘムと言う記述により、マタイはゼブルンのベツレヘム(ヨシユア19・15)と区別している。そしてイエス誕生の時が、ヘロデ王の世であつたことを明記している(参照ルカ1・5)。このヘロデはヘロデ大王のこと。彼はユダヤ人ではなく、彼の父はイドマヤ人、母はアラビヤ人であつた。しかしローマの元老院が、紀元前40年に彼をユダヤ人の王に任じた。彼は非良心的な暴君であつたが、ユダヤ人の支持を得ようと、エルサレムの神殿の建設や、サマリヤの再建に取り組んだ。博士たち(マゴス)とは、一般に知恵を授かった人々のことではなく、星の学徒たちのことである。彼らの出身地は様々に推測されるが、どこかを断定できない。

2 博士たちは、ユダヤ人の王を探していた(マタイ27・11、29、37)。お生まれになったかたは、どこにおられますかとは、既に生まれていた王を意味している。彼らは、星を見たと言明している。残念ながらこの現象に関して確信に至るものはない。そのかたを拝みにきましたとは、臣従の礼を意図したのかもしれないが、その意図するところは最大級のもの。キリストに対する礼拝は、マタ

イにとつて重要なものであり、彼は10回言及している(マタイ2・2、8、11、8・2、9・18、14・33、15・25、20・20、28・9、17)。

3 ヘロデ王が博士たちの発言をどのように耳にしたかは記されていないが、この情報はヘロデをひどく当惑させた。彼はエドム人で、ローマ政府によって王とされた。正当なダビデ王家の世継ぎが出現していたことを知ったヘロデは、そのライバル出現に一種の精神的混乱に陥つたようである。エルサレムの人々もみな同様であつたとあるが、彼らも救い主出現の事実を喜んでいない。ヘロデの残虐性を知る民衆は、彼が猜疑心に狂い残忍な行動に出て、社会に混乱を起こすことを恐れたのであろう。ヘロデの晩年は、その王位を脅かすものと思えば、近親者すら処刑した。

4 問いた(エビュンサネト)という動詞は、未完了時制であるので、ヘロデが繰り返して問うたことを意味する。彼のあせりが感じられる。5 している(ゲクラプタイ)という動詞は、完了時制の受動態で、その記録の永遠性と權威を示す。預言者を通して書かれたということとは、究極的な起源が神にあることを示している。

6 ミカ書5・2の引用。救い主のベツレヘム出現は当時のユダヤ人の常識(ヨハネ7・41、42)。7 ヘロデは公に知られることを好まず、ひそかに事を運ぼうとして、星の時間を突き止めた。幼な子の年齢を知る目安になるのは明らか。

8 詳しくとは、厳密に、入念に、という意味。幼な子(バイディオン)とは、「みどりご」(フレフォス)とは違う語(ルカ2・12、16)。マタイ2・16に記されている2歳以下の「男の子」もバイデ

イオンなので、この時のイエスはかなり成長しており、自分の足で歩いていたと考えられる(babyではなく、little child)。わたしも拝みに行くからとは、博士たちを欺く言葉以外の何ものでもない。

9 博士たちがもし占星術の専門家であるならば、申命記4・19で禁じられている日、月、星の天の万象を拜んでいることになる。しかし彼らは異邦人であり、律法に関しては全くの無知である。彼らの行動を全面的に肯定するわけにはいかないが、ただ神がご自分のあわれみの故に、彼らをまことの王のもとに導こうとして、みこころを啓示されたを受け止めたい。

10 非常な喜びにあふれたとは、直訳では、偉大な喜びとともに大いに喜んだ、となる。

11 博士たちは、幼な子(みどりごではない)イエスを礼拝した(参照詩篇72・10以下、イザヤ60・1以下)。ここには父ヨセフへの言及はない。黄金・乳香・没薬などの贈り物という記述から、博士たちが3人であつたとはいえない。又贈り物は、王権、神性、苦難(死)の象徴として意味づけられるが、むしろ高価なものがささげられたことが大切。

12 夢でという表現は、神聖な啓示を意味する(1・20、2・12、13、19、22、27・19)。

参考図書 内田和彦「マタイの福音書『実用聖書注解』いのちのこは社」Blomberg, C.L., Matthew (Broadman), Carson, D.A., "Matthew," The Expositor's Bible Commentary, Vol. 8, Zondervan, France, R.T., MATTHEW (IVP), Morris, L., The Gospel According To Matthew (Eerdmans).

聖書 マタイ2・1～12  
タイトル 博士たちの感謝  
暗唱聖句 宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。  
目 標 クリスマスと1年のあふれる感謝をおささげしよう。

導入

クリスマスおめでとうございます。今日は2005年のクリスマス礼拝の日です。世界中の人々と共に心をこめてイエス様のお誕生をお祝いいたしましょう。

また、今日は今年最後の聖日礼拝の日でもあります。1年間の主のお守りと、今年いただいたお恵を思い返してあふれるばかりの感謝をおささげしましょうね。

今日は、クリスマスには忘れてはならない「博士たちのクリスマス」のお話ですよ。

東の国の博士たち

イエス様はユダヤ人の王としてだけではなく、全世界の人々の王としてお生まれくださいました。その証拠に、イエス様が誕生されてしばらくしてから、外国からイエス様を礼拝するためにやって来た人たちがいました。それは、今日のお話の「東の国の博士たち」でした。

博士たちはユダヤの国から千キロ程も離れたバ

ビロンの辺りで星を調べている人たちでした。ある晩、とても光る不思議な「星」を見つけたので詳しく調べてみたところ、なんとそれは「イエス様誕生のしるし」だと分ったのです。博士たちはユダヤの国の新しい王様、世界の救い主を拝みたい、と強く思ったのです。

そこで、遠いユダヤのベツレヘムまでくぐり乗って行くにはイエス様をたずねる旅に出ました。今のように飛行機も電車も自動車もない時代、砂漠を旅するのですから大変なことでしたでしょうね。博士たちには「イエス様にお会いしたい。イエス様を礼拝したい」という、強い、そして、熱い気持ちがあったのでした。

ヘロデ王たちのとまどい

ユダヤの首都エルサレムに到着した博士たちはユダヤのヘロデ王のところに行つて、「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たのでそのかたを拝みにきました」と聞きました。

ヘロデ王もエルサレムの人々も、びっくりしました。遠い外国からわざわざ旅をして来た人たちが誕生されたことを知らなかったのです。

ヘロデ王は急いでイエス様がどこに生まれられたのか調べさせました。旧約聖書のミカ5・2に「ベツレヘム」とちゃんと書いてあったのです。

ヘロデ王は博士たちにそのことを知らせ「見つかったらわたしにも知らせくれ。わたしも拝みに行くから」と言いました。でも、これは「うそ」

の言葉だったのです。ヘロデ王は自分の立場が奪われるのではと不安に思い、イエス様を見つけたら殺してしまおうと考えたのです。イエス様の近くにいながら喜ばなかった、ヘロデ王やエルサレムの人々がいたことは、とても残念なことですね。

博士たちの贈り物

博士たちは「神様の特別な道案内」である「星」に導かれて、ついにイエス様にお会いすることができ「非常に喜びにあふれた」(10)のです。

まずその家に入ると「ひれ伏して礼拝」しました。そのあと、「宝の箱をあけて」大切な3つの贈り物をお渡ししました。その贈り物とは、①王様として「黄金」を、②神様として「乳香」を、③救い主として「没薬」を、この3つでした。

博士たちは「真心こめて、愛をこめて」イエス様にプレゼントを差し上げました。大事な「宝の箱」から大事な「贈り物」を捧げました。イエス様はそれほどのお方なのです。

まとめ

イエス様は私たちに「命」を下さいました。私たちは「宝の箱」からイエス様に何をプレゼントさせていたでしょうか？ イエス様が一番喜ばれるのは「真心からの礼拝と私たちの信仰」です。イエス様を心から信じ、お頼りし、愛のある生き方をするのをイエス様は喜んでくださいます。

クリスマスとこの一年を感謝し、また新しく迎える2006年も博士たちのようにイエス様に従っていきましようね。

♪ふるさとを離れて遠く♪ (さんびか21・279)

ワーク A

話し方のヒント

東の国の博士たちは、イエス様のお誕生を知り、イエス様に会いに出かけ、黄金・乳香・没薬という特別な贈り物をしました。それはイエス様が、全ての人の王様・神様・救い主である特別なお方で、イエス様にお会いできることが本当に嬉しいかつたからです。私たちはいつも、このすばらしいイエス様に愛され、守られ、導かれて嬉しいですね。感謝の気持ちをもって、「イエス様を心から信じ、喜んで教会学校に来る」という、イエス様が一番喜ばれる贈り物をおささげしましょう。

ワークについて

博士たちは、イエス様に何をささげましたか？

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を覚えながら書いてみましょう。

●質問2 幼な子イエス様に対する、博士たちとヘロデ王の対照的な姿勢を見ることが出来ます。この博士たちの姿勢を通して、私たちもイエス様に対してどのような姿勢であるか省みましょう。幼な子に対して、王の前に出ているようにひれ伏して拝む姿に倣いましょう。

●質問3 贈り物の意味については聖書講解、研究資料等を参考にして説明しましょう。私たち自身も、自らを「神様に喜ばれる生きた聖なる供え物」としてささげ、この恵みにお応えしましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 博士たちとヘロデ王の「心の思い」と「したこと」を考えます。答えは①救い主、②黄金、③乳香、④没薬、⑤殺した、です。

●第3問 「あなた」の思いと「すること」を考え、思うところに○をします。さらに具体的にどうするかをも話し合えれば良いと思います。

ワーク D

●今日はクリスマス礼拝、そして今年最後の聖日です。三人の博士たちがささげた黄金、乳香、没薬などの贈り物のように、私たちの感謝をおささげしましょう。

●4の質問には想像を働かせて、お互いに思うことを話し合ってみましょう。

中高校へのヒント

話し合ってみよう

1 待ちに待った今日は、クリスマスの日です。今年はどうなクリスマスの喜びがありますか。

2 今年最後の年末感謝礼拝です。2005年はどんな年でしたか。主への感謝はどんなことがありましたか。小さなことでも思い出してみましょう。

考えてみよう

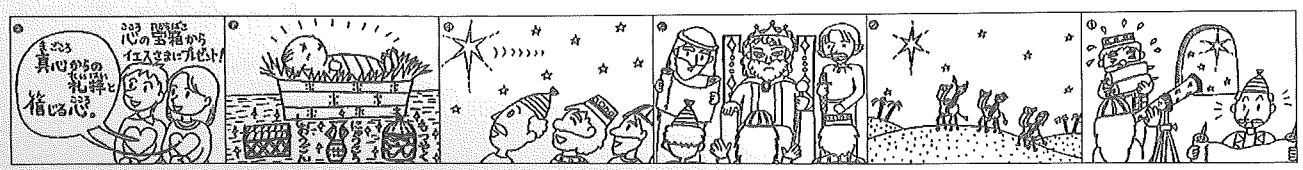
1 ヘロデ王のように、クリスマスを歓迎しない人がいます。どうしてでしょうか。↓自分が一番で、自分の生き方を変えることが嫌だからです。神様を礼拝したくないからです。

2 祭司長、律法学者のように、クリスマスを知っているのに、主イエス様を礼拝しない人がいます。どうしてでしょうか。↓知識だけで、本気で信じているわけではないからです。

3 東から来た博士たちは長い間困難な旅をして、主イエス様の所まで来しました。何がそうさせたのでしょうか。↓ほんとうの神様である救い主を礼拝したいからです(2、10節)

自分に当てはめよう

1 クリスマスはプレゼントをもらいますが、私たちも博士たちのように、主イエス様にささげる贈り物はあるでしょうか。↓信仰告白、主に従うこと、献金、自分の才能、自分の時間、自分の生涯など。





## 東京若枝教会

# 牧羊ひろば

私たちの東京若枝教会には、高校科、中学科（本校）、中学科をつなぐ会分枝、さらに、小学科（本校）とそれぞれの地域名にしたがって、西原、下泉谷、関北、文理台青空校の8校があります。あるスタッフなどは、CSに情熱を燃やし、3、4校掛け持ちで頑張っています。

郊外に住居を求める、いわゆるドーナツ化の激しい都会が、地域に根を下ろす最良の策として、私たちはCSを宣教の最前線として位置づけてきました。点と線の通勤信徒のスタイルから、会堂を中心とした「面」の獲得、地域への浸透です。

このため、職場や学びや会での苦闘に加えて、スタッフの面々が体を張って、魂を追いかけている姿は、尊く、有難く、教職にとって大きな励みです。

例えば、借家一間の開拓教会発足時から、CSは地域との具体的な接触面でした。CS参観日とか、



家庭訪問日などをにぎにぎしくもうけて、子どもの背後にいる親たちを目がけたものです。現在、献身して第一線にある先生方もこの働きから力をつけた人も多く、生涯一CS教師を任じるベテランが、当教会には健在です。

ただ、私たちの群れにも少子化の波は押し寄せ、懸命の努力にもかかわらず、児童、教師とも減少の傾向にあります。とは言え、各校の主任たちの地道なスカウト活動が実を結び、近年、学生、高校生スタッフが増加しつつあるのは、明るいきざしと受けとめています。

夏のバイブル・キャンプはまたとない訓練の場です。一人でも多く参加するようアピールしています。彼らは学業と奉仕の両立を第一としていて、バイトをする時間はありません。

さらに、小学科キャンプに参加するノックリスチャン・ホームの子が減っているのが事実です。それを補うため、一泊お泊り会、もちつき



大会ジャンボリーとか定期的に催し物を通し、広く呼びかけては家庭の理解と協力を得るようになっています。中学科の礼拝は、現在スタッフともども30名です

が、教区サマーキャンプには、25名（教師を含む）参加。受洗希望者が起こされました。これから各自を問安する仕事が続いています。そして牧師との個人面接です。

ここで一つのアイデアが提案されました。「CS教師のための研修特別献金」の設定です。意図するところは、

1. 外部からその道のエキスパートをお招きして、研修会を開く。  
2. 代表を講習会に送り出し、新しい知識、方策を積極的に取り入れ、教師全員に刺激を与える。

3. バイブル・キャンプを教会全体のわざとして、参加者を経済的にも支援する。  
このアイデアは、着々と結実しています。

現在、スタッフの総数は38名です。このほか、背後でCS活動を支える奉仕者が10名います。生徒総数は100名前後。04年に、CSの働きから25名の受洗者がおこされました。

ここで私たちの最近の取り組みの一つとして、公園伝道をご紹介します。この一文を閉じたいと思います。

例えば、一昨年から始まった関北校（私の母校、関北小のすぐ近くの公園）です。私たちは、毎週土曜の午後3時、4名のスタッフで出かけます。そこには常時子どもたちが遊んでいますので、幸先よいスタートとなりました。私たちを見つめる



と、すでになじみの子どもたちが10名集まっています。まず、賛美を歌い、おなじみの聖書の紙芝居です。話は、充分準備して、短く、印象的に語り、お祈りして終わります。その後が、子どもたちとじかに触れ合う遊びタイム。シャボン玉とばそ、屋根までとばそ、をやったり、大縄を使つて大勢を巻き込んでなわとびをしたり、私たちが童心に返って時間を忘れます。

しかし、私たちのねらいは子どもたちのハートであり、子どもを見守る親たちとの接触です。こうしてつかんだ小さな交わりの糸を大切に、家庭集会や教会の集まりへと案内するのです。

（文責／東京若枝教会 飯塚弘道）

## おわりに

『牧羊者』二〇〇五年度第三巻をお届けできますことを感謝します。執筆者の方々は、暑くお忙しい中、多大なご協力をいただき心から感謝いたします。

「牧羊者」は子どもたちの救済と育成のため、また教会学校教師の方々と主にある兄弟姉妹の育成に用いられております。そこで今回より教師養成講座のページを2ページ増やし、文字通り講座といたしました。今回は工藤弘雄師の新約概論を掲載いたしました。この講座は3回です。引き続き、主にある多くの方々にぜひ学んでほしい講座を開講してゆきますのでご期待ください。今後も「牧羊者」が大いに用いられるように、引き続きお祈りください。

終わりに今号の執筆者を紹介いたします。

聖書講解 鎌野 善三 金井 望  
研究資料 足立 宏 石田 高保  
メッセージ例 小野 淳子 山田みち代 長谷川宣恵  
ワーク 鎌野 幸 小平 徳行 長谷川ひさい  
中 高 科 長尾 秀紀 加藤 清 上森 恭子  
フロンティア 小岩 裕一  
み言葉カード 土屋 直子  
子ども聖書目録 陰山 恭子  
また、監修をしてくださった鎌野善三師、小岩裕一師、石田高保師、沼澤恵師、打ち込みをしてくださった藤井正子師、青木美恵子師、楠淳子師、陰にあつてお手伝いくださった兄弟姉妹の方々、また、発送とワーク印刷をされた教団事務所の方々、そして、印刷会社あくとさん（長谷川和雄）に心から感謝いたします。

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇五年度 第三巻

二〇〇五年九月十日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三三一九

電話（〇七八）五七五二一五

FAX（〇七八）五七五二一六

印刷所 有限会社 あくと

電話（〇二九七）七八一五九三五

\*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み